

西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集

ほう ざい ぱる
宝 財 原 遺 跡

平成3年度県営農地保全整備事業(宝財原地区)に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

1994・3

宮崎県・西都市教育委員会

序

日頃から埋蔵文化財の保護・活用に対し、深いご理解をいただき厚く御礼申し上げます。

西都市教育委員会では、平成3年度宮崎県児湯農林振興局の委託を受けて、県営農地保全整備事業(宝財原地区)に伴う発掘調査を実施しました。本書はその発掘調査結果の報告であります。

今回の調査では、縄文時代早期の集石遺構及び古墳時代後期の竪穴式住居跡などをはじめ、縄文時代後期の土器や石錘が多量に出土しました。このように、市内において縄文時代後期の土器及び石錘などの遺物がまとまって出土することは珍しく、また、縄文時代早期の集石遺構が検出されたことによって、宝財原地区においても古い時代から生活の適地として利用していたことが判明するなど、大きな成果をあげることができました。

この報告書が、専門の研究だけでなく、社会教育課や学校教育の面にも広く活用されると共に、埋蔵文化財に対する理解と認識が得られれば幸いと存じます。

なお、調査にあたってはご指導・ご協力いただいた宮崎県教育庁文化課・宮崎県児湯農林振興局・宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターをはじめ、発掘調査にたずさわっていただいた方々、並びに地元の方々に心から感謝申し上げます。

平成6年3月31日

西都市教育委員会

教育長 平野 平

例　　言

1. 本書は、平成3年度県営農地保全整備事業（宝財原地区）に伴い実施した宝財原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宮崎県児湯農林振興局の委託を受けて、西都市教育委員会が主体となり実施した。
3. 調査担当は、I区・II区を宮崎県教育庁文化課の石川悦雄、III区を養方が行った。
4. 遺物の実測図作成・拓本・トレースは宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターの田村とし子・富永宮子・山崎千恵美・金丸琴路・永峰まり子・上田寿美子のご協力をいただいた。
5. 本書の執筆は、第III章の第2節・第3節及び第IV章まとめを石川が担当し、その他の執筆・編集は養方が行った。
6. 本書に使用した方位は磁北である。
7. III区で使用した土層・土器などの色調は農林省水産技術会議事務局監修の標準土色帳による。
8. 出土遺物は、西都市歴史民俗資料館に保管し、展示される。

本文目次

第Ⅰ章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の体制	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	3
第Ⅲ章 遺構と遺物	
第1節 調査区の設定	7
第2節 I区の調査	7
〔1〕 IA区の調査	7
〔2〕 IC区の調査	10
〔3〕 ID区の調査	11
〔4〕 IE区の調査	19
第3節 II区の調査	24
〔1〕 II B区の調査	24
〔2〕 II C区の調査	25
〔3〕 II D区の調査	27
〔4〕 II E区の調査	29
〔5〕 II F区の調査	35
〔6〕 II H区の調査	37
〔7〕 II I区の調査	38
第4節 III区の調査	63
〔1〕 遺構	63
〔2〕 遺物	64
第Ⅳ章 まとめ	79

挿図目次

第1図 遺跡位置図	4
第2図 宝財原遺跡発掘区配置図	5
第3図 IA区集石遺構分布図	8
第4図 集石1	8
第5図 集石2	8
第6図 集石3	8
第7図 IA区溝・ピット	9
第8図 IA区出土縄文土器	10
第9図 IC区土層図・センター図	10
第10図 IC区出土縄文土器(1)	12
第11図 IC区出土縄文土器(2)	13
第12図 ID区溝1	14
第13図 ID区土層図	15
第14図 ID・IE区遺構分布図	15
第15図 ID・IE区センター図	15
第16図 ID区溝4 遺物包含面及び土層図	17
第17図 ID区溝4 平面・側面図	17
第18図 ID区出土縄文土器・土器片錐・土器片加工円盤・土師器坏	18
第19図 IE区住居址	19
第20図 IE区土壤	21
第21図 IE区住居址出土土師器	22
第22図 IE区・I区出土縄文土器・土器片錐	23
第23図 II B区遺構配置・土層図	24
第24図 II C区遺構分布図	25
第25図 II C区土層図	25
第26図 II C区出土縄文土器	27
第27図 II D区遺構配置図	28
第28図 II D区土層図	28
第29図 II D区出土縄文土器	29
第30図 II E区住居址平面図	31
第31図 II E区遺構配置図	31
第32図 II E区土層図	31
第33図 II E区出土縄文土器	33
第34図 II E区出土縄文土器・土器片錐・土師器	34
第35図 II E区出土住居址出土土師器	35

第36図	II F区土層図	36
第37図	II F区出土繩文土器・土器片加工円盤	36
第38図	II H区遺構分布図	37
第39図	II II区土層図	37
第40図	II H区出土繩文土器・土師器・陶磁器	38
第41図	II I区遺構分布図	39
第42図	II J区土層図	39
第43図	II I区出土及び表採繩文土器・土器片錐・土師器・須恵器・陶磁器	40
第44図	I A区～I E区出土石錐	41
第45図	II C区～II F区出土石錐	42
第46図	II H区～II I区出土石錐	43
第47図	I区～II区出土石皿・凹石・磨石・叩石	44
第48図	I区～II区出土及び表採石器	45
第49図	III A区～III C区遺構分布図・土層図	65
第50図	III D区～III E区遺構分布図・土層図	67
第51図	III F区～III H区遺構分布図・土層図	69
第52図	III区出土繩文土器	74
第53図	III区出土土師器・須恵器・染付・陶器	75
第54図	III区出土石錐・石錐・スクレイバー様石器・磨製石斧	76
第55図	III区出土砥石様石器・石皿・敲石	77
第56図	石錐長幅散布図	80
第57図	長幅比・重さ散布図	80

表 目 次

第1表	土器一覧表（1）～（5）	46
第2表	石器一覧表	50
第3表	石錐一覧表（1）～（12）	51
第4表	III区遺構一覧表	64
第5表	繩文土器觀察表	78

図版目次

- 図版1 (1) 宝財原遺跡遠景(東から) (2) 遺跡全景(西から)
- 図版2 (1) IA区 全景(西から) (2) 1A区 集石1 (3) IA区 集石2
- 図版3 (1) IA区 集石3 (2) TC区 遺物出土状況 (3) IC区 土層
- 図版4 (1) ID区・IC区 全景(東から) (2) ID区 溝4 遺物検出状況
- 図版5 (1) ID区 溝4 (2) T区 全景(東IE区から)
- 図版6 (1) TE区 住居跡(西から) (2) TE区 住居跡(北から)
- 図版7 (1) TE区 土層(東から) (2) TE区 土層(東から) (3) TE区 土層
- 図版8 (1) II B区及びII区 全景(北II B区から) (2) II C区 遺構検出状況(北から)
- 図版9 (1) II C区 土層 (2) II D区 土層 (3) II D区 全景(南から)
- 図版10 (1) II E区 南半遺構検出状況(南から) (2) II E区 北半遺構検出状況(北から)
(3) II E区 住居跡埋土遺物検出状況 (4) II E区 住居跡
- 図版11 (1) II E区 土層 (2) II H区 土層 (3) II I区 全景(南から) (4) II I区 土層
- 図版12 (1) IC区 出土縄文土器 (2) ID区 出土縄文土器
- 図版13 (1) IE区 出土縄文土器 (2) II C区 出土縄文土器
- 図版14 (1) II D区 出土縄文土器 (2) II E区 出土縄文土器
- 図版15 (1) II E区 出土縄文土器 (2) II E・II F・II H・II I区 出土縄文土器
- 図版16 (1) 石錐 (2) 石錐
- 図版17 (1) 石錐 (2) 石錐
- 図版18 (1) 石錐 (2) 磨石・石皿
- 図版19 (1) 磨石・凹石 (2) 磨石・叩石
- 図版20 (1) 磨石 (2) 磨製石斧・円盤状石製品・スクレイバー
- 図版21 縄文土器・土師器・陶磁器
- 図版22 III区遺構検出状況(III A~III B区)
図版23 タ (III C~III E区)
- 図版24 タ (III F~III H区)
- 図版25 III区出土遺物(縄文土器・土師器・須恵器・青磁・陶器)
- 図版26 タ (染付・土錐・石錐)
- 図版27 タ (スクレイバー・石斧・砥石・砥石様石器・石皿・敲石)

第一章 序 説

第1節 調査に至る経緯

平成3年4月、宮崎県児湯農林振興局より県営農地保全整備事業として宝財原地区に水兼農道を建設することから、文化財の所在について照会があった。なお、水兼農道は現道幅約2.5mを3mに拡幅し、総延長427.58mに渡って建設される計画であった。

同地域は、宝財原遺跡として「周知の埋蔵文化財包蔵地」に含まれる地域で、昭和60年度実施した遺跡詳細分布調査において石鍤や石斧など多量の遺物が全地域より発見され、さらに、昭和63年度に行われた一つ瀬川上地改良事業のパイプライン埋設工事においても多量の土器・石器が出土していることからも、重要な地域である。

このようなことから、埋蔵文化財の現状保存について協議を重ねたが、施行上現状保存が困難なことから、水兼農道予定地全域が発掘調査の対象となった。しかし、すでに、現道ほぼ中央部を現道に添ってパイプが埋設されていることから、同箇所を除いた部分の発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、宮崎県児湯農林振興局の委託を受けて、西都市教育委員会が主体となり実施したが、調査員については市教育委員会が他遺跡の発掘調査を行っていることから県文化課に依頼、主任主事（現在主査）の石川悦雄氏に担当していただいた。

第2節 調査の体制

調査主体 西都市教育委員会

教 育 長 平 野 半

社会教育課長 清 郁 男

同 文 化 財 係 長 伊 達 博 敏

調査員 社会教育課主事 裴 方 政 幾

派遣調査員

県文化課主任主事 石 川 悅 雄

調査作業員 椎葉重満・椎葉智佐子・佐伯民孝・杉田ヨシ・横山ヨシ・関屋敏子（故人）

整理作業員 平成 3 年度（宮崎県総合博物館埋蔵文化財センター）

棟 陽子・西田節子・藤崎順子・金子悦子・長田博子・富永優子
久保田知代子・杉尾肇子

平成 4 年度（宮崎県総合博物館埋蔵文化財センター）

杉尾肇子・久保田知代子・富永優子・金子悦子・長田博子

平成 5 年度（宮崎県総合博物館埋蔵文化財センター）

永峰まり子・田村とし子・富永宮子・上田寿美子・山崎千恵美・金丸琴路

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

西都市は、宮崎県のほぼ中央に位置する内陸都市で、地形としては西方に九州山地を背負った形容を表し、その九州山地から岬様に南東へ、東へと幾状にも台地が延びている。また、市街地を中心とする平野部を南流する一つ瀬川及び支流の三財川・三納川等が沖積地を潤し、豊かな農地が形成されている。

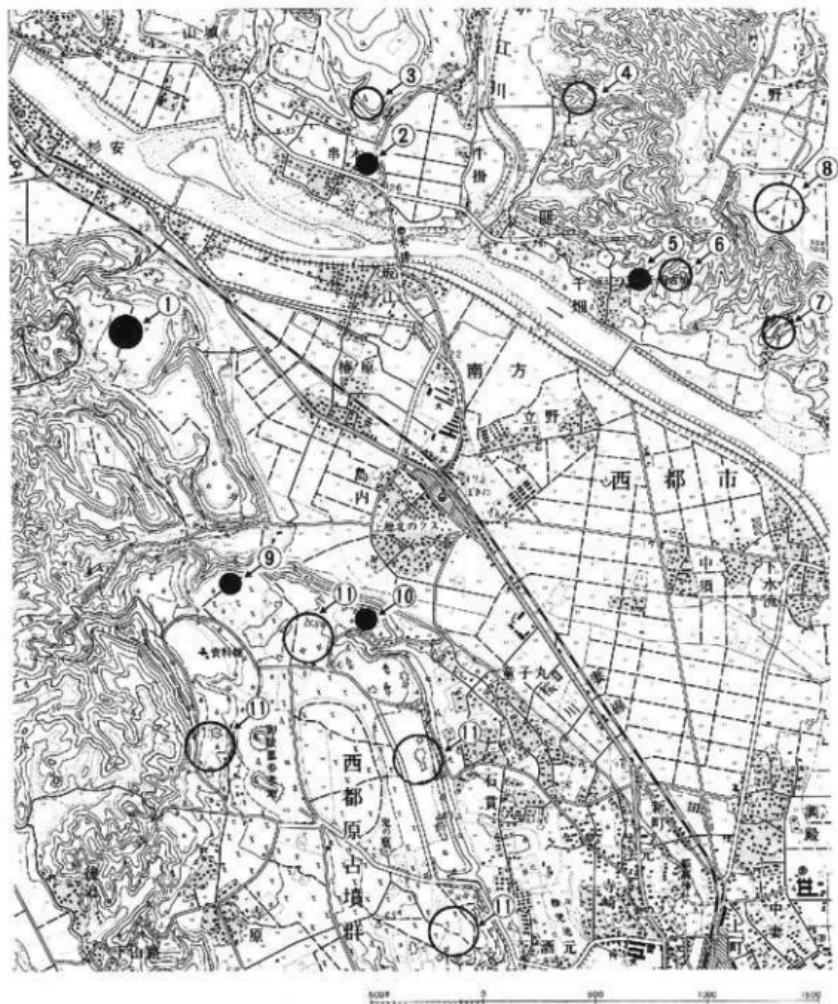
西都市の遺跡は、この幾状にも延びた台地上を中心に分布しており、宝財原遺跡も南東に延びた標高約80m程の宝財原台地上に位置している。その宝財原台地は南東に向かって舌状に延びた台地であるが、中央部に小さな谷が入っており、台地は2つに区切られている。眼下には總北平野が広がり、その北部を一つ瀬川が東流し、周辺の水田地帯を潤している。なお、遺跡と低地平野の比高差は約62mを計る。

この宝財原台地は、従来から石器などが採取される周知の台地で、昭和60年度に実施された遺跡詳細分布調査及び昭和63年度一つ瀬土地改良事業のパイプライン埋設工事の立合調査の際にもコンテナケース1箱分程の石錘を含む多量の遺物が出土しており、このようなことから大規模の集落跡の存在が想定されていた。

宝財原遺跡の北東、一つ瀬川を隔てた対岸茶臼原台地上には国指定・茶臼原古墳群が分布し、さらに、その茶臼原台地西側及び南側傾斜面には国指定・千畳古墳（前方後円墳）をはじめ数十基程の横穴墓が点在している。茶臼原古墳群は前方後円墳3基・円墳52基で構成され、なかでも首長墓とみられる児屋根塚古墳（茶臼原1号墳）は全長110m、後円部径64m・同高さ5.7m、前方部幅61m・同高さ7.1m、楯型の周堀を有する前方後円墳で、内区に青竜と白虎、外周の銅帯には24文字が浮彫りされた舶載の四獸鏡や蛇行劍など貴重な資料が出土している。そして、千畳古墳は市内に3基存在する有石室古墳のうちの1基で、その規模は有名な鬼の古墳（西都原206号墳）をも凌ぐ大きさである。

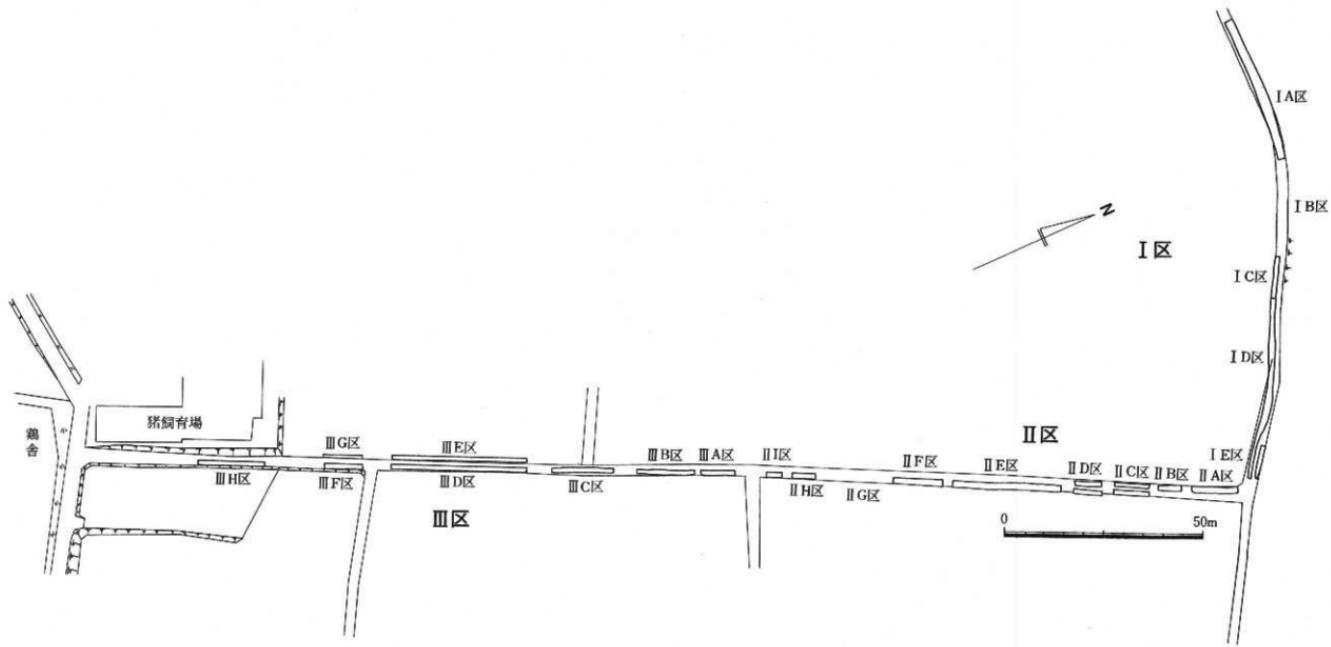
また、宝財原台地谷で隔てた南南東、通称“西都原台地”には特別史跡・西都原古墳群が群在し、その中央部には九州隨一を誇る御陵墓の男狹穂塚・女狹穂塚古墳の兩巨大古墳がその偉容を誇っている。

さらに、一つ瀬川を隔てた南東には新田原古墳群が所在する新田原台地を眺望することができる。



- | | | | |
|----------|-----------|------------|-----------|
| 1. 宝財原遺跡 | 2. 串木第2遺跡 | 3. 串木横穴墓群 | 4. 上江横穴墓群 |
| 5. 千烟古墳 | 6. 千烟横穴墓群 | 7. 杉尾横穴墓 | 8. 茶臼原古墳群 |
| 9. 丸山遺跡 | 10. 新立遺跡 | 11. 西都原古墳群 | |

第1図 遺跡位置図



第2図 宝財原遺跡発掘区配置図 (1/1000)

第Ⅲ章 遺構と遺物

第1節 調査区の設定（第2図）

調査は水兼農道が建設される部分2,500mが対象になったが、道路は中央部分に大口径のパイプが埋設されていることから、括幅の幅が広い道路東部分を中心に、トレンチ状に区切って実施した。そして、全区をI～III区に分け、I区（北側）から順次発掘調査を行った。I区及びII区は石川、III区は森方が調査担当した。

第2節 I区の調査

宝財原台地を通る水兼農道部分のうち、台地北側縁辺を東西へ走る道が北側取り付け道及び台地南北縱断農道とぶつかる地点までをI区とし、A～E区の5小区に分割した。そのうちB区は未発掘区である。

〔1〕IA区の調査

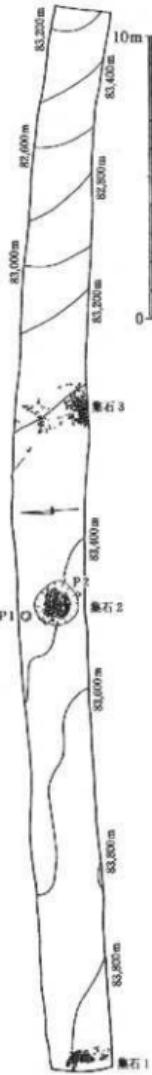
（1）調査区の概要（第3図、図版2）

IA区は幅2.3m、長さ38mで現道なりにゆるやかに湾曲した発掘区である。現状はほぼ水半だが、アカホヤ下層の黄褐色土は西から東へ緩やかに下っており、発掘区両端では約2mの比高差がある。西半では既にアカホヤ層下位まで削平されていて、縄文早期の黄褐色層上面で集石遺構3基とピット5を検出した。東半はアカホヤ層が残在し、その上面で溝1、ピット12を検出した。

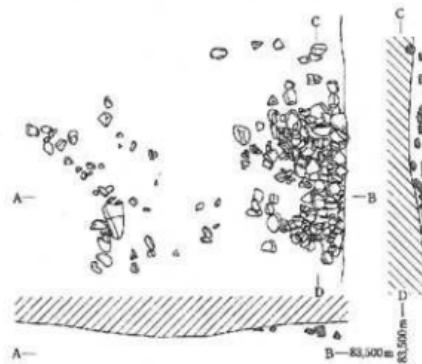
（2）遺構

1. 集石1（第4図、図版2）

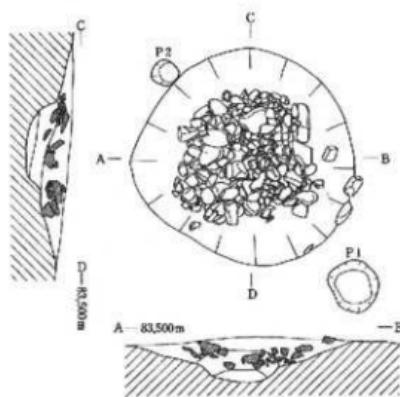
調査区西端で検出した。黄褐色土上面に構築されていた。半分は調査区外にかかり、かつ表土除去時に重機による削平を受けたため全体の規模ははっきりしないが、直径1mほどの規模と推定される。集石株の掘り込みは認められず、配石も無く、石の重なりもせいぜい2重程度であった。集石を構成している石は基本的に円礫で、それが熱を受けて赤化、角礫化していた。集石の周囲には、焼け石の散乱が見られた。遺物は検出されなかった。



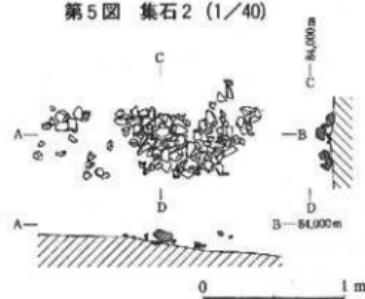
第3図 IA集石遺構分布図 (1/200)



第6図 集石3 (1/40)



第5図 集石2 (1/40)



第4図 集石1 (1/40)

2. 集石 2 (第5図、図版2)

調査区のはば中央、黄褐色土上面で検出した。集石は直径約1.5mの擂鉢状の土壤の中に構築されていて、平面形は一辺が約90cmの正方形を呈している。明瞭ではないが、比較的大型の石を周間に配し、その中にこぶりの石を充填している状況が伺える。集石を構成している石は円礫で、熱を受けて赤化、角礫化している。土壤は集石下部で一段深く掘り込まれていて、平面形が方形に近いその規模は一辺がおよそ60cm、深さは検出面から約35cmである。土壤の周辺には、集石から排除されたと思われる礫が散乱していた。遺物の出土は見られなかった。

3. 集石 3 (第6図、図版3)

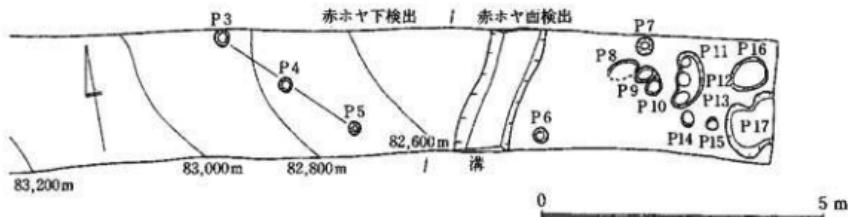
集石 2 のおよそ7m東で検出した平面円形と推定される集石である。半分は調査区外にあり、直径は1.2m程と推定される。下部土壤は見られず石の重なりも顕著ではない。使用された石は円礫で、熱を受けて赤化、角礫化したものが多い。周囲には排除されたと見られる礫が散乱していた。遺物は検出できなかった。

4. 溝 (第7図)

発掘区東端から約5m西で検出した。幅は約80cm、深さは検出面からおよそ20cmの規模を持ち、台地の縁辺に向かって南北に掘られている。遺物の検出は無く、時期、性格などは不明である。

5. ピット (第5・7図)

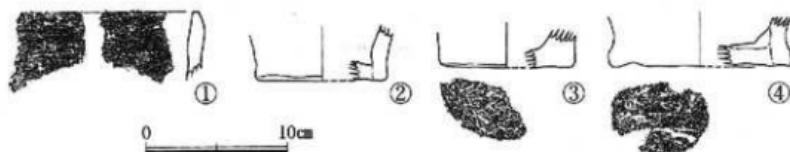
ピットには直径20~30cm、深さ15cm程度の柱穴状のP1~P7、P9~P15と小土壤のP8、P16、P17がある。P1、P2は集石2の周囲にあり、可能性としては集石2の上屋の痕跡が考えられるが、時期等が判せんとしない。P3~P5は一列に並んでおり掘立柱建物の一部をなす可能性があるが対応する柱穴が見当たらない。P16は長径65cm、短径50cm、深さ15cm程度の楕円形土壤である。P17は幅1m、長さ1m以上、深さ約15cm程の不整形土壤である。両者とも遺物の出土は無く、時期、性格等不明である。



第7図 IA区溝・ピット (1/100)

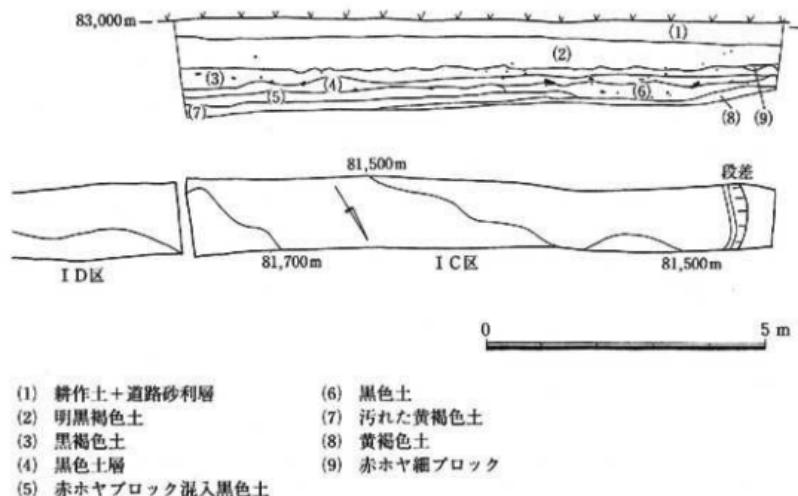
(3) 包含層出土の遺物 (第8図、第1・3表、図版16)

I A区出土の遺物は少ない。出土層位は耕作土直下でアカホヤ層上層の黒色土である。第8図1は無文深鉢の口縁部、2、3、4は底部破片で、いずれも縄文後期の土器と思われる。第44図198は両面打ち欠き石錐である。



第8図 I A区出土縄文土器 (1/4)

(2) I C区の調査



第9図 I C区 土層図・コンター図 (1/100)

(1) 調査区の概要 (第9図、図版3・4)

調査除外のB区を挟んで、IA区の東に幅1m前後、長さ約15mのIC区を設定した。顯著な遺構は検出できず、包含層の遺物取り上げが主たる調査となった。IC区の基本層位は上から順に30cm程度の第1層耕作土、60cm程の第2層明るい黒褐色土、およそ20cmの第3層黒褐色土、約15cmの第4層黒色土、20cm前後の第5層アカホヤ層、約15cmの第7層汚れた黄褐色土、第8層黄褐色土と堆積していく、部分的に5、7層に替って4層類似の第6層黒色土が見られる。

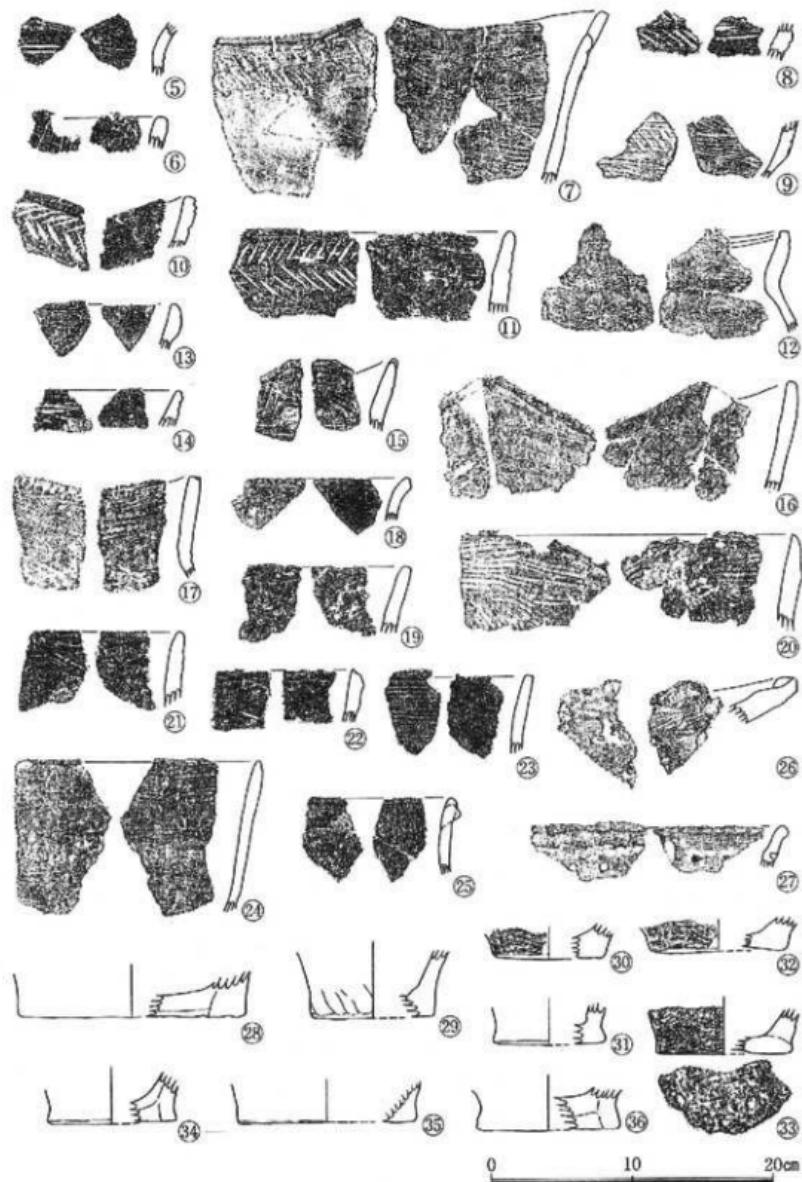
(2) 包含層出土の遺物 (第10・11図、第1・2・3表、図版12・16・20・21)

I区の中ではC区出土の遺物が最も多く、番号を付けて取上げたものが336点、図化できたものは縄文土器38点、石器6点である。遺物はC区全体に散在していたが、相互に接合する破片は少ない。遺物は3、4、6層の黒、黒褐色土に包含され、一部2層にも土器細片が散見された。縄文土器片は、早期の塞ノ神式とみられる第10図5以外はほとんど後期の土器で、市米式や北久根山式並行の上器が認められる。第10図27、36、38、40、42等一部に晩期の可能性のある土器もある。石器には石錐30点（うち図化5点）と円盤状石製品1点（第48図-289）がある。石錐はすべて両面打ち欠きタイプである。

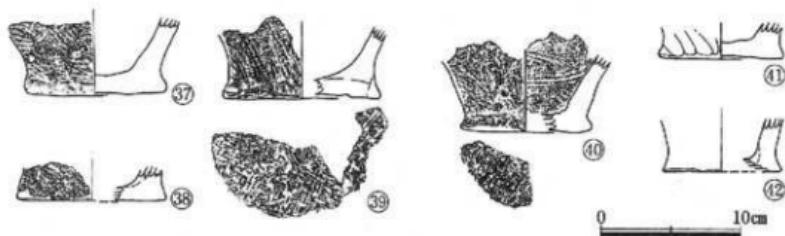
[3] ID区の調査

(1) 調査の概要 (第14・15図、図版4)

ID区に連続して東側に長さ約20cm、幅約1.5mのID区を設定した。IA区、IC区と緩やかに下ってきた旧地形はID区の西端で起伏の谷を形成し、そこから東、IE区に向かって緩やかな上り勾配に転じていく。ID区の基本層序は上から約90cmの第1層耕作土及び道路敷設時の砂利層と下部に散かれた明黒褐色土、アカホヤブロックが混入した20~30cmの第2層黒褐色土、10cm前後の第3層アカホヤ、およそ20cm程の第4層汚れた黄褐色土、約40cmの厚さを持つ第5層黄褐色土、20cm前後の第6層褐色土、同じく20cm程の第7層黄褐色土、10cm程度の第8層である堅いアワオコシ、第9層明黄褐色土の順に堆積が見られた。しかし、アカホヤ層が良好に遺存していたのは溝4の東側だけで、その西側ではアカホヤ層は削平を受けていた。ID区で検出された遺構には4条の谷に向かって南北に掘られた溝と若干のピット、性格不明の小さな島状の高まりがある。4条の溝のうち、溝2、3は平面的に検出できず、断面での確認となった。



第10図 I C区出土縄文土器1 (1/4)



第11図 IC区出土縄文土器2 (1/4)

(2) 遺構と遺物

1. 溝1 (第12・14図、図版4)

IC区に隣接するD区西端に南北方向に掘られている。幅1mから2m、深さ40cmの規模で、台地端に傾斜している。断面形は逆台形状である。第2層もしくはその直下の層位から掘り込まれている。溝に伴う遺物は無い。

2. 溝2 (第13図)

溝1に東接する溝で、平面では確認できず断面実測時に気が付いた。断面での規模は上面幅1m、底部幅が20cm、深さ約50cmの小規模な溝である。

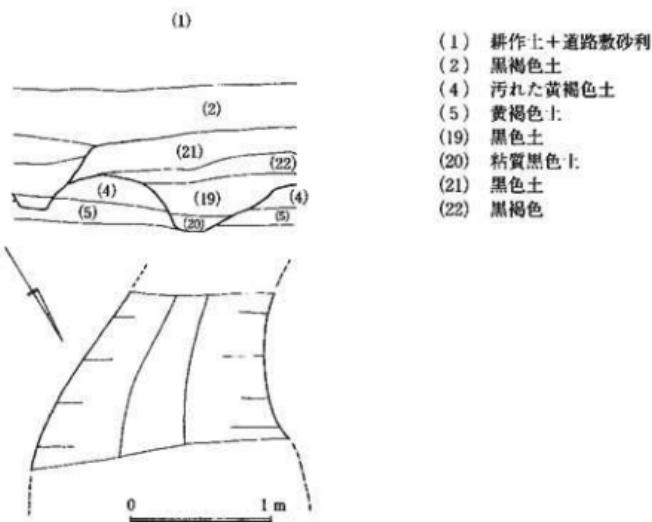
3. 溝3 (第13図)

溝2に東接する溝で、これも平面では確認できず断面実測時に気が付いた。断面での規模は上面幅2.4m、底部幅が40cm、深さ約60cmである。

4. 溝4 (第14・16・17図、図版4・5)

溝1から東におよそ15mほど離れた、IE区に近い位置にある。溝上部幅は2.9m、検出面からの深さは90cmである。底は一段テラスを持ちその部分の幅は80cm、最下層の幅は約20cmを測る。

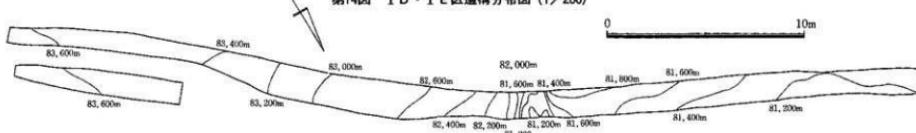
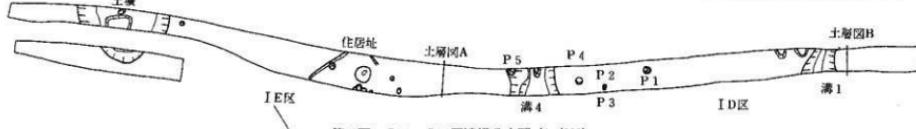
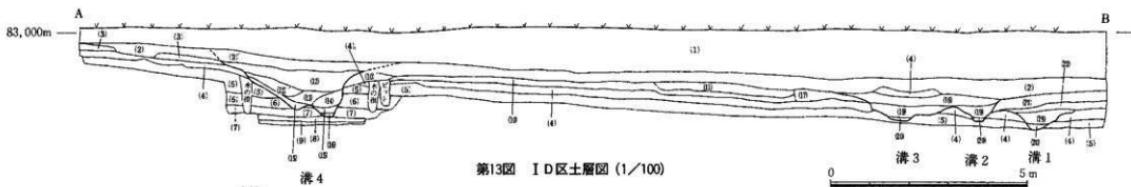
— X — Y — Y — Y — Y — 8,300m



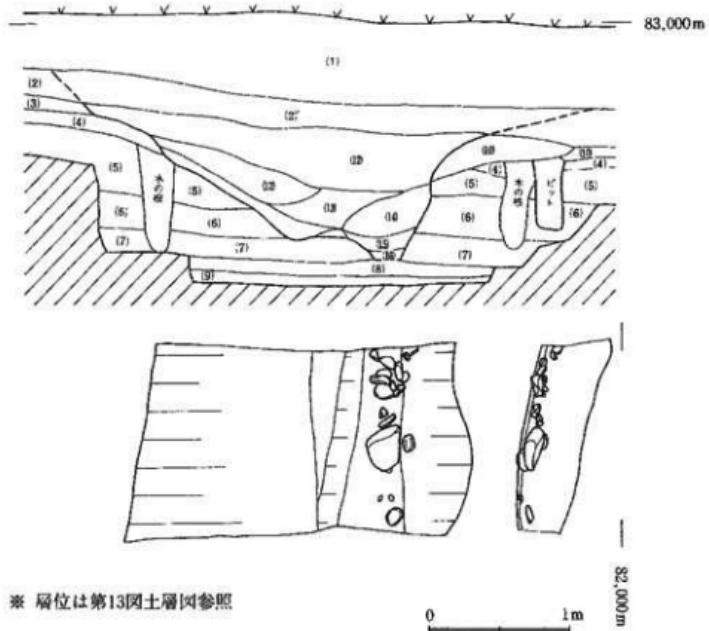
第12図 ID区溝1 (1/40)

断面形は東側が緩やかで西側が急なV字形で、最下底部はアワオコシ層上面に達している。溝の東側肩直下にピットが掘り込まれているが溝に伴うものかどうか確認できない。溝下部の南壁際に幅30cm、高さ10cm程度の仕切状の突起があり、未発掘区へと続いている。溝の肩は不明瞭で、第3層アカホヤ層を切っているのは確認できるが、その上の第2層黒褐色土を切っているかどうか判然としなかった。溝理土15層上面に縄文時代後期のものと思われる石錐等の石器が含まれているものの、溝最下層のアワオコシ上面に、古墳時代の土師器と思われる丹塗土器細片が検出され、はっきりした検出層位は不明ながら古代の土師器も包含されていたので、少なくとも縄文後期土器包含層である第2層は切っているものと考えられる。あるいは、第2層そのものが古墳時代以降に再堆積した可能性もある。

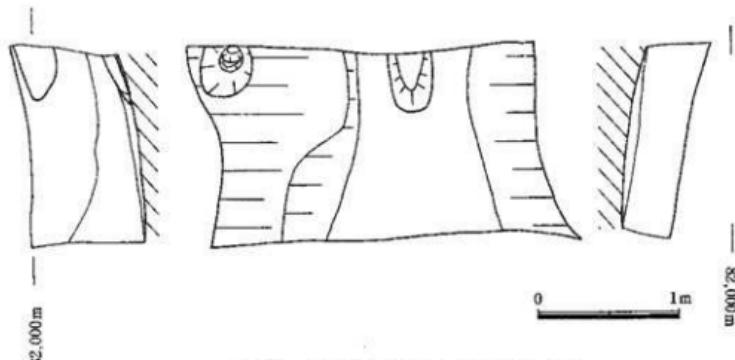
- | | | | |
|------------------|--------------------|-----------------------|----------|
| (1)耕作土+道路敷ジャリ | (7)明黄褐色土 | (13)暗黒褐色土 | (19)黒色土 |
| (2)赤ホヤブロック混入黒褐色土 | (8)岩オコシ | (14)黒色土 | (20)黄褐色土 |
| (3)赤ホヤ | (9)明黄褐色土 | (15)明渠褐色土 | (21)黒色土 |
| (4)汚れた黄褐色土 | (10)赤ホヤブロック混入黄褐色土 | (16)粘質黒色土に(7),(8)が混じる | (22)黒褐色土 |
| (5)黄褐色土 | (11)明黄褐色土 | (17)黒褐色土 | (23) |
| (6)褐色土 | (12)黒褐色土 | (18)暗黒褐色土 | |
| | (12)(12)に混色土細粒が混じる | | |



第15図 ID・IE区センター図 (1/200)



第16図 ID区溝4 遺物包含面及び土層図 (1/40)



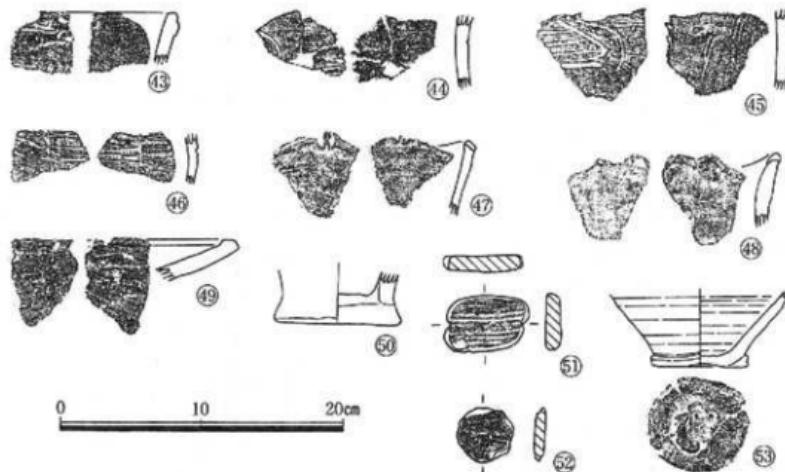
第17図 ID区溝4 平面・側面図 (1/40)

出土遺物（第18図、表1・2・3、図版18・19）

溝底に貼り付いた状態で出土したのは、前述のとおり丹塗土師器の細片数点のみであるが、図示できるものではなかった。溝理土15層上面からは、縄文時代後期と思われる石錘10点、磨石1点、他が検出された。53は土師器坏で調整は内外共ナデ、底部はへら切り底である。溝中の検出だが確實な出土層位はわからない。275は尾鈴山酸性岩類製の磨石で両端がかなり使い込まれている。262は完形の両端打ち欠き石錘である。その他の図示しなかった石錘も、石錘の“未製品”（川原石）1点を除いてすべて両端打ち欠き石錘であった。

5. ピット（第14図）

溝1と溝2の間でP1～P4、溝4の東肩直下でP5を検出した。P1、P2、P5は直径約35cm、P3、P4は10cm程度の小柱穴である。いずれも性格は不明である。



第18図 ID区出土縄文土器・土器片錘・土器片加工円盤・土師器坏 (1/4)

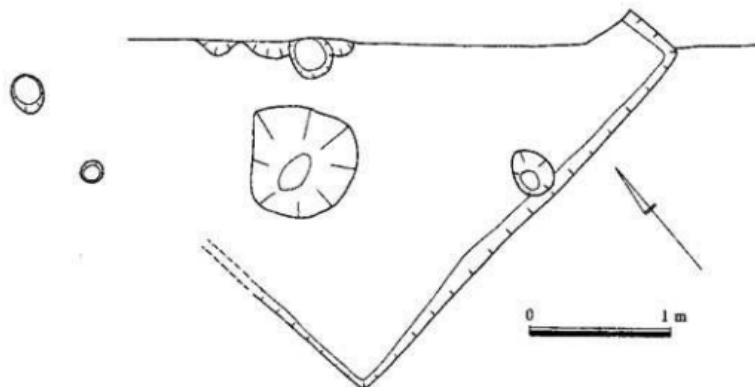
(3) 包含層出土の遺物（第18・44図、表1・2・3、図版12・16・21）

遺物の出土はほとんどが第2層であるアカホヤブロックの混入した黒褐色土層からであった。D区包含層の遺物出土量は多くはないが、図化した土器には縄文土器片6点（第18図43～46、48～50）、土器片錐1点（51）、土器片加工円盤1点（52）がある。石器には石錐47点（うち図化4点207～210）がある。切れ目石錐209を除いてすべて両端打ち欠き石錐である。

[4] I E区の調査

(1) 調査区の概要（第14図）

I D区に連続して東側に長さ約22m、幅約1.8mのI E区を設定した。排水管が道路中央に埋設されているので、I E区東半分では排水管を挟んで南北に2本発掘区を設定する形となった。I E区の基本層序は上から約20cmの第1層道路基盤層、15cmの第2層黒色土、10cm前後の第3層アカホヤ、堅いおよそ20cm程の第4層褐色土、約40cmの厚さを持つ第5層暗黄褐色土の順に堆積が



第19図 I E区住居址 (1/40)

見られた。IE区で検出された遺構には若干のピット、性格不明の擂鉢状土壙、堅穴住居跡がある。包含層中の遺物はすくなかった。

(2) 遺構と遺物

1. 堅穴住居跡（第19図、図版6）

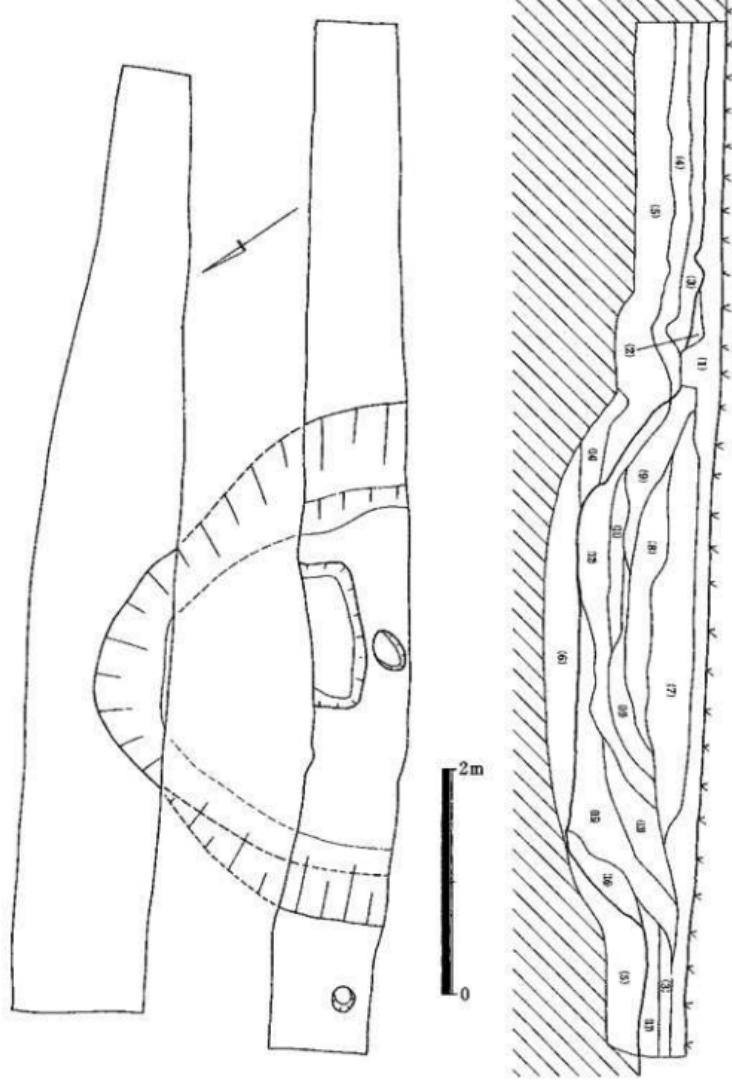
対角線から半分の調査で辛うじて規模のわかった床面の一辺の長さは3.14mである。残りは排水管敷設時に破壊されて正確な規模はわからないが、およそ3m四方の方形住居であったと考えられる。残存部の深さは20cm前後であった。住居はほぼ東西南北に壁が構築されていて、コーナー部はほぼ直角をなしている。堅穴内に直径約30cm、深さおよそ20cmほどの柱穴が2つ存在するが、この住居に伴う確証は無い。真ん中の柱穴の南西に径が60cm程で深さが10cm程度の擂鉢状不整形ピットがあり、焼土面と炭化物が確認できたので、これが地床炉であると思われる。住居跡埋土から縄文土器や石器が、床面直上から土師器が検出された。

住居跡出土遺物（第21図、表1・3、図版21）

54～56、58～60は床面で検出した土師器である。54～56、58は壺の破片で56は格子叩き目が施されている。59、60は高壺の脚部で円盤充填であり脚裾部は外に大きく屈曲して広がっている。60の脚軸部はエンタシス状を呈している。縄文土器62、65、71、石錘213は埋土中から検出された。62は深鉢の胴上半部で貝殻文による疑似磨消縄文が施文されている。65は深鉢の胸部小破片で数条の沈線が施されている。いずれも後期後半のものと考えられる。70、71は晩期のものと思われる深鉢の底部で70の底部は木の葉底である。石錘213は両端打ち欠きの完形品である。石錘はこれに8個あり、“未製品”的ひとつを除いてすべて両端打ち欠きタイプである。

2. 土壙（第20図、図版7）

IE区の東端、住居跡からおよそ10mほど離れて性格不明の楕円形土壙を検出した。土壙の南半部は未発掘区にあり、かつ、北半部も排水溝により半分が破壊されている。土壙の短径は約4.7m、深さは約1mの規模を持つ。短軸の断面形は底の広い擂鉢状で、短軸幅はおよそ3mを測る。床面中央には長径37cm、短径25cmで深さ20cmの柱穴状ピットがあり、その北側には長さ1.3m、推定幅50cm程度、深さ10cm程の長方形土壙が長軸を南北にして掘られている。土壙は第1層直下から掘り込まれていて埋土は一挙にではなく、徐々に充満した状況を示している。遺物は埋土中から若干が検出された。



- | | | |
|-------------------|---------------|----------------|
| (1) 耕作土 | (7) 汚れた硬い黄褐色土 | (13) 汚れた黄褐色土 |
| (2) 黒色土 | (8) 暗褐色土 | (14) 黄褐色土+白バミス |
| (3) 赤ホヤ | (9) 硬い褐色土 | (15) 褐色土 |
| (4) 硬い褐色土 | (10) 暗褐色土 | (16) 黑色土 |
| (5) 噴黄褐色土 | (11) 暗褐色土 | (17) 硬い褐色土 |
| (6) 白バミスブロック混入褐色土 | (12) 黑褐色土 | |

第20図 IE区土壤 (1/50)

土壌出土の遺物（第22図、表1・3、図版16）

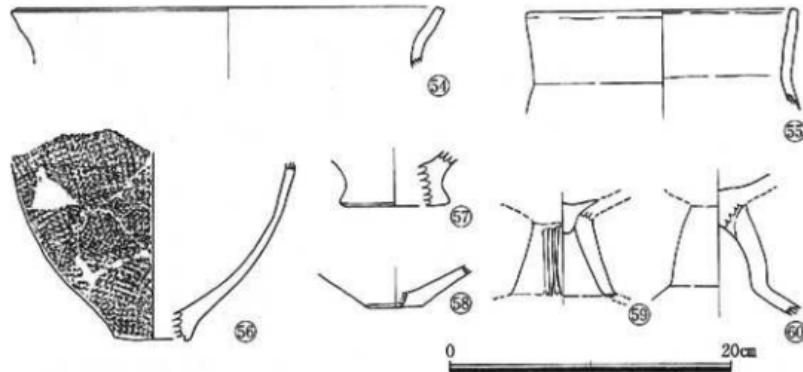
縄文土器片は幾つか出土しているが、図示できたのは63、70の2点である。63は後期後半頃の浅鉢の脇部小片で磨消縄文が施文されている。70は晩期前半と思われる深鉢の底部で底は木の葉底である。両端打ち欠きの石錘212も出土した。

3. ピット（第19・20図）

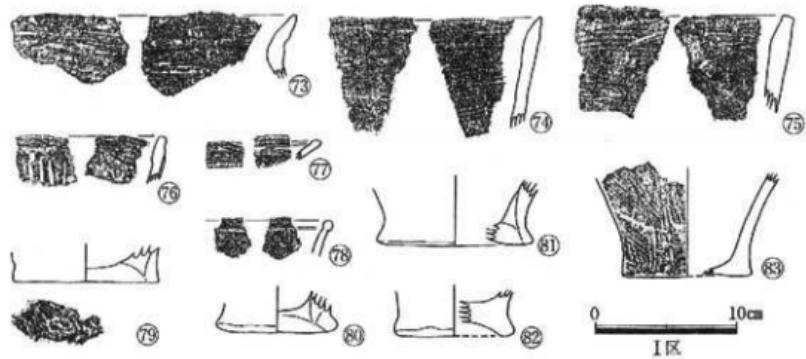
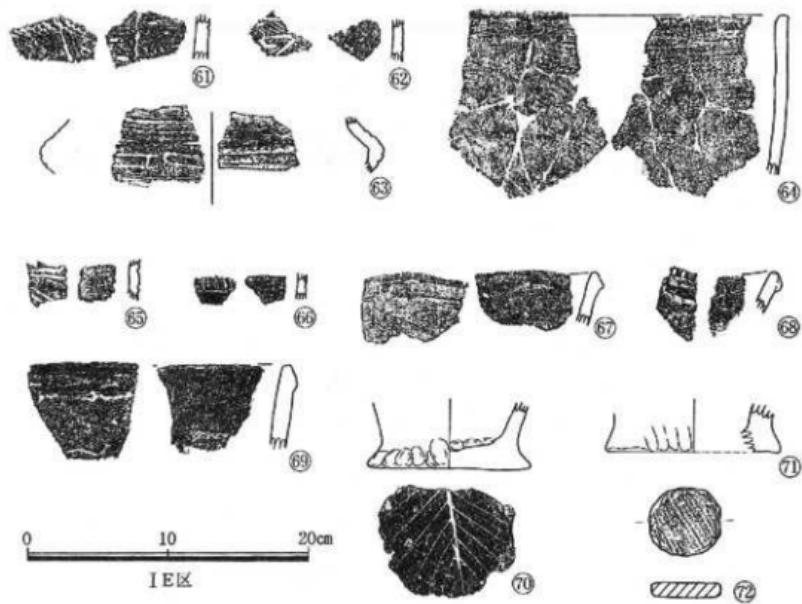
住居の西壁外及び土壌の西に隣接してピットを3つ検出した。土壌際のピットは径20cm、深さ45cm、住居趾際のピットは径25cm、15cmで深さはいずれも15cm程度のものであった。

(3) 包含層出土の遺物（第22図、表1・3、図版13・16）

遺物のほとんどはアカホヤ層上面の耕作土出土のもので、図示できた土器は7点（61、64、66～68、72、57）あり、1点は土器片加工円盤（72）である。縄文土器には市来式（61）など後期のものが多く、一部晩期と思われるの突帯文土器（68）等が認められる。石器は石錘が10点程出土した。いずれも両端打ち欠き石錘である。



第21図 IE区住居址出土土師器（1/4）



第22図 I E区・I区出土縄文土器・土器片錘 (1/4)

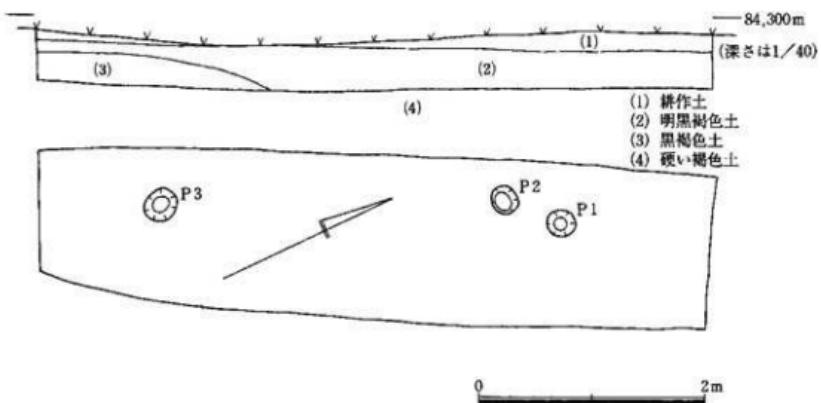
第3節 II区の調査

台地横断農道のうち、北端から中央にかけての部分をII区とした。II区は排水施設等の関係上AからIまで9分割した。そのうちII A区は遺構、遺物が皆無のため、II G区は排水施設で発掘できる余地がほとんどなく未調査区としたため記述から割愛した。

(1) II B区の調査

(1) 調査区の概要 (第23図、図版8)

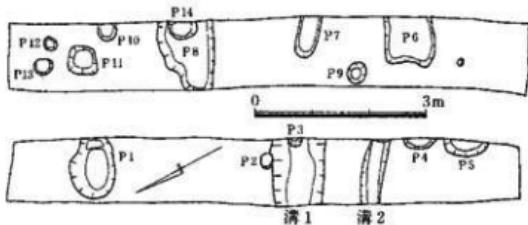
II A区の南に長さ6m、幅1.5mの発掘区を南北に設定した。II B区の基本層序は耕作土の第1層、第2層の明黒褐色土、遺物包含層である第3層の黒褐色土、硬い褐色土の第4層である。3層はB区北半では見られない。



第23図 II B区遺構分布図・土層図 (1/50)

(2) 遺構 (第23図)

B区に顕著な遺構はほとんど無く、3つのピットを検出したのみであった。いずれも径25cm、深さ50cm程度の柱穴と思われる小ピットである。



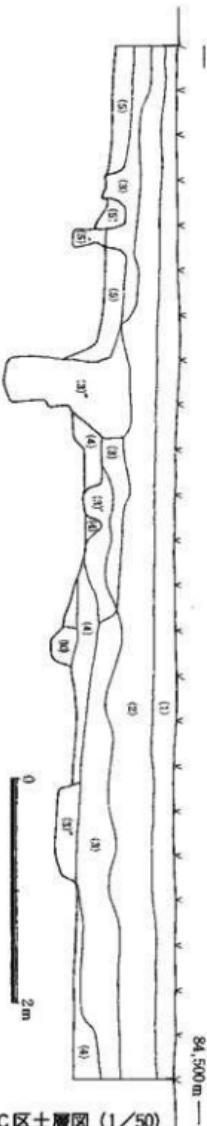
第24図 II C区遺構分布図 (1/100)

- | | |
|-------------|------------------|
| (1) 耕作土 | (5) 硬褐色土 |
| (2) 耕作土 | (6) 粘質暗褐色土 |
| (3) 明黒褐色土 | (7) 粘質褐色土 |
| (3)' 暗褐色土 | (8) 白色バミス混入粘質褐色土 |
| (3)" ピット8埋土 | (9) 粘質硬褐色土 |
| (4) 軟褐色土 | (10) 黒褐色土 |

[2] II C区の調査

(1) 調査区の概要 (第24図、図版8・9)

II B区の南に長さ9m、幅3.3m程のII C区を設定した。C区は調査区の真ん中に排水溝が敷設されていたため、それを挟んでの掘り下げとなつた。II C区の基本層序は現耕作土で20cm程度の第1層、第2層で20~40cmの搅乱土(ビニール混入)、遺物包含層である30cm程の第3層明黒褐色土及び10~20cm程度で柔らかい褐色土の第4層、第5層で20cm程度の硬い褐色土である。4層はC区北半では見られない。アカホヤ火山灰は存在しない。遺構は比較的密度が高く、14のピットと2条の溝を検出した。



第25図 II C区土層図 (1/50)

(2) 遺構と遺物

1. 溝（第24図）

上部幅90cm、底部幅45cm、深さ20cm程の溝1と上部幅40cm、底部幅25cm、深さ12cm程の溝2がある。いずれも東西方向に掘られているが、時期、性格ともわからない。

遺物（第26図、表1・2・3、図版13・16・18・19）

溝1から沈線の施された縄文後期土器片（85）と石錘2個、叩石が出土した。

2. ピット（第24図）

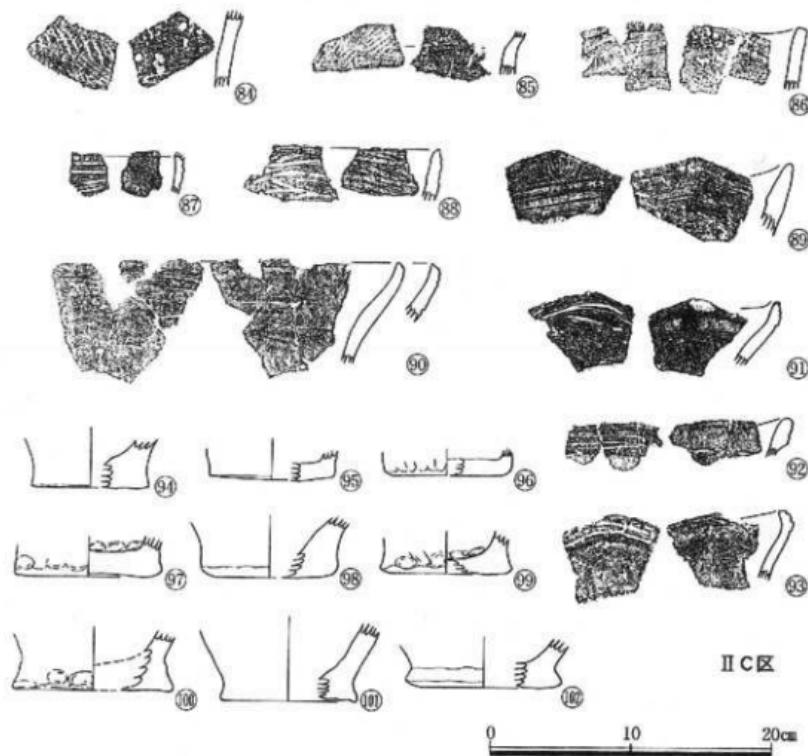
ピットにはL横状のP1、P4～P8、P11と柱穴状のP2、P3、P9、P10～P12、P14がある。P1は長径1.2m、短径75cm、深さ17cm程度の楕円形土壙、P4、P5は半分程度調査区外に存在し、径がそれぞれ60cm、70cm、深さが15cm程度の浅い円形土壙と推定される。P6は調査区外に一部が延びており長さ80cm以上、幅80cm、深さ15cm程度の方形土壙である。P7は幅30cm、長さ75cm以上、深さ20cm程度の長椭円土壙で、一部未発掘区に延びている。P8は最大幅1m、長さ1.25m以上、深さ13cm程度の不整形土壙、P11は一辺が50cm、深さ10cm程度の方形小土壙である。柱穴状のピットは径20～30cm、深さ30cm程度の規模を持つ。

遺物（第26図、表1・3）

P4から縄文後期の貝殻条痕調整土器片（88）、P8から波状口縁で内面に曲沈線文の施された後期土器片と西平期の磨消縄文土器片、P10から両端打ち欠き石錘3点が出土した。

(3) 包含層出土の遺物（第26・47・48図、表1・2・3、図版13・16・18・19）

遺物は3層の黒褐色土と4層の褐色土層から出土した。同層で土器の時期差は見られない。番号を付して取上げた遺物のうち図示できた縄文土器は14点で市来式（84）や波状口縁（86、91、93）など後期のものが多い。底部には晩期のもの（100～102）が見られる。石器には磨石（268、269、277）、叩石（272）及び两者兼用石器（264）や石錘がある。磨石の277は尾鈴山酸性岩類製である。64個（うち実測8個）の石錘の未製品の1点を除いてすべて両端打ち欠き石錘である。



第26図 II C区出土縄文土器 (1/4)

[3] II D区の調査

(1) 調査区の概要 (第27・28図、図版9)

II C区の南に長さ7.2m、幅3.3m程のII D区を設定した。D区も調査区の真ん中に排水溝が敷設されていたため、それを挟んでの掘り下げとなつた。II D区の基本層序は20~30cmで現耕作土

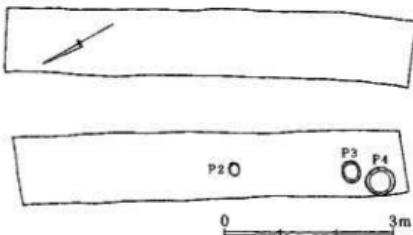
である第1層、第2層で40cm前後の搅乱上、遺物包含層である20cm程度の厚さを持つ第3層明黒褐色土及び20cm程度の柔らかい褐色土の第4層、それぞれ20cm程の厚さを持つ第5層の硬い褐色土、第6層の硬い暗褐色土、15cm程の第7層粘質褐色土、10cm程度の第8層白色バミスが混在する黄褐色粘質土である。アカホヤ火山灰は検出できなかった。顕著な遺構は無く、2つのピットを検出したのみであった。

(2) 遺構と遺物

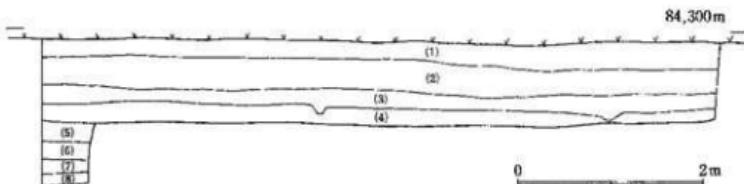
1. ピット (第27図)

直径50cm、深さ15cmのピットと直径30cm、深さ14cmのピットを検出したが時期、性格等は不明である。検出面は第5層の硬い褐色土上面である。

- (1) 耕作土
- (2) 耕作土
- (3) 明黒褐色土
- (4) 黄褐色土
- (5) 粘質硬褐色土
- (6) 粘質暗褐色土
- (7) 粘質褐色土
- (8) 白色バミス混入黄褐色土



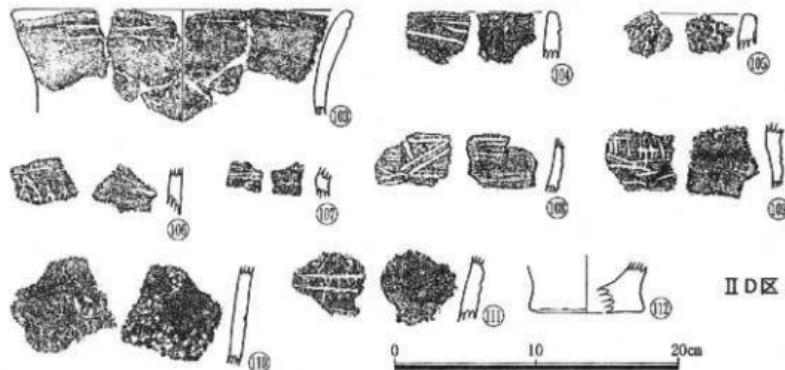
第27図 II D区遺構分布図 (1/100)



第28図 II D区土層図 (1/60)

(3) 包含層出土の遺物 (第29・45・48図、表1・2・3、図版14・17・18・19)

遺物は3層、4層から出土した。番号を付けて取上げた82個のうち図示した縄文土器は4層出土の10点 (103~112) で、沈線の施された後期後半のものが多い。石器には尾鈴山酸性岩製磨石 (276) と砂岩製石皿 (265) 、スクレーパー、石錐35個 (うち実測223、224) がある。石錐は未製品の1点を除いてすべて両端打ち欠き石錐である。



第29図 II D区出土縄文土器 (1/4)

[4] II E区の調査

(1) 調査区の概要 (第31・32図、図版10・11)

II D区の南に長さ約28cm、幅1.6mの発掘区を設定した。II E区の基本層序は約20cmの耕作土と道路床のパラスである第1層、現耕作土下部に当たる第2層で10cm前後の硬い褐色土、やはり幾分占い耕作土と思われる20cm程度の厚さを持つ第3層硬い明褐色土層、土器包含層である20~40cm程度の第4層黒褐色土、20cm程の厚さを持つやや汚れた明褐色土の第5層、10~20cmの厚さを持つ第6層のアカホヤ、20cm程度の厚さの暗褐色土の第7層、硬い褐色粘質土の第8層である。遺構には半分検出した堅穴住居1軒、48個のピット群がある。

(2) 造構と遺物

1. 堪穴住居跡 (第30図、図版10)

E区北端から17.5mの位置で堪穴住居跡を検出した。堪穴部は方形平面と考えられるが半分以上が未発掘区にあるため、はっきりした形状、規模はわからない。南北方向の幅は3.6m、東西方向の検出幅は1.5mを測る。検出面であるアカホヤ上面からの深さは30cm前後である。堪穴床面中央部には幅1.3m、深さ15cm程度の円形基調の不整土壙があり、北東部には長さ58cm、幅50cm、深さ7cm程の長方形土壙が壁と平行に掘られている。北と西側壁沿いに幅15cm、深さ5cm程の小溝が掘られているが、北では75cm、西では1.7m続くだけでとぎれている。柱穴は5つあるが主柱穴とするには浅過ぎる。可能性としては4本柱ではなく、無柱もしくは2本柱が考えられる。堪穴の掘り込みは第5層上面からであるが、第5層は縄文後期の包含層なので、本來の掘削面は削平されていると見られる。

遺物 (第33・35・45・47・48図、表1・2・3、図版14・15・17・19・21)

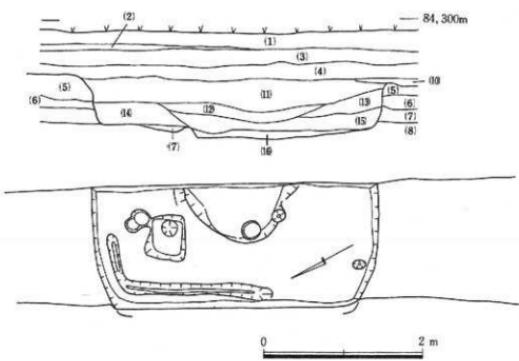
住居跡に伴う遺物は埋土上層に多く床面検出のものは多くない。上層の遺物には新石器時代式(132)や西平期の沈線文土器(122)など縄文後期後半の上器や後期の沈線文土器などがある。石器には尾鉢山酸性岩製磨石(273、284)、両端打ち欠き石錐(232)などがある。住居跡本來の出土遺物に床面出土の土師器がある。159～161は叩き調整された甕で159には脚が付く。162～165も甕と思われる底部である。古墳時代であるが詳細な時期は判然としない。

2. ピット (第31図、図版10)

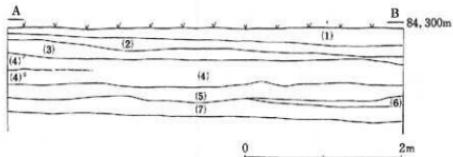
2つの土壤状ピットと46の柱穴状ピットを検出した。P8、P48は土壤状のピットでP8は幅約85cm、深さ10cm程度の深い不整方形土壙、P48は長径75cm、短径50cm、深さ10cm程度の楕円形土壙で、底部中央に径25cm、深さ20cm程の柱穴が穿たれていた。P1～P7、P9～P47は柱穴状のピットで径20～30cm程度である。深さは5～18cm程度の浅いもの、25～58cm程度の深いものの2つのグループがある。いずれも建物等に復元することはできなかった。

遺物 (表3)

P38、39から完形の両端打ち欠き石錐が1点ずつ出土した。

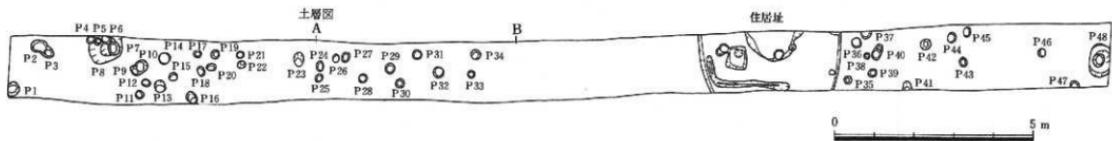


第30図 II E 区住居址平面図・土層図 (1/50)

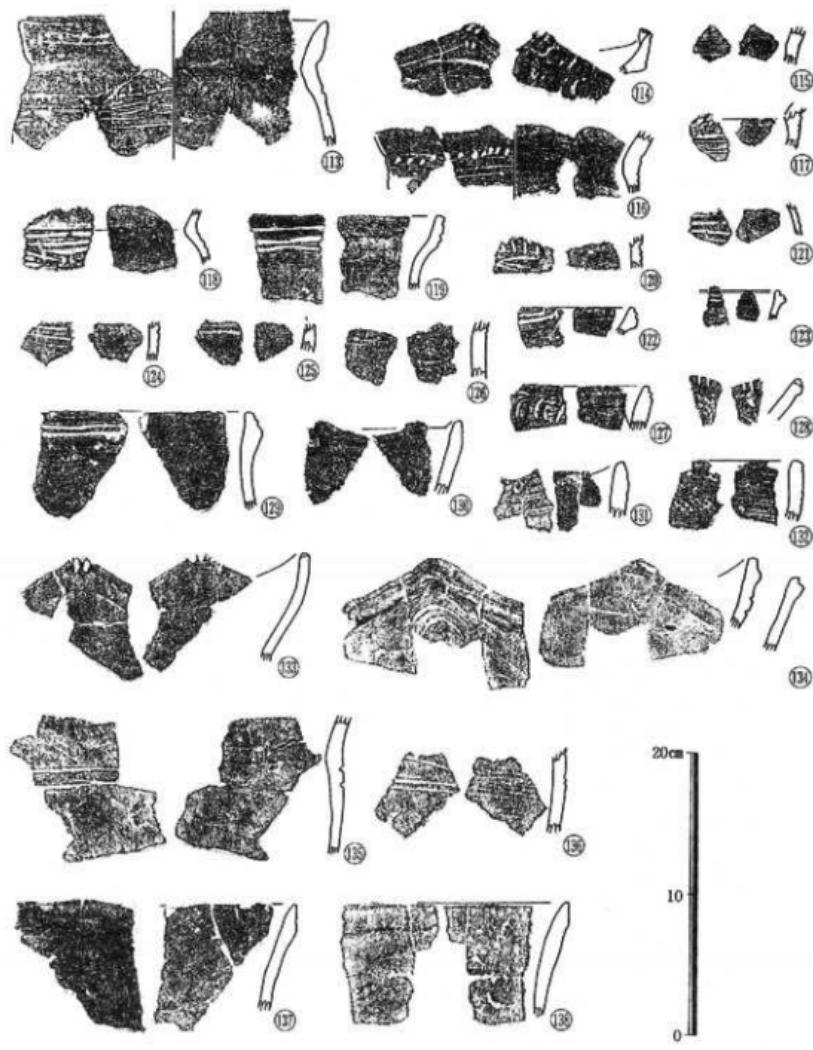


- | | |
|-----------------|----------------------|
| (1) 耕作土+道路敷パラス | (8) 粘質硬褐色土 |
| (2) 耕作土上 | (9) 淡れた褐色土 |
| (3) 黄褐色土 | (10) 淡ホヤブロック混入褐色土 |
| (4) 黑褐色土 | (11) 淡ホヤブロック混入褐色土 |
| (4') 黑褐色土 | (12) 淡ホヤブロック混入黑褐色土 |
| (4'') やわらげた黒褐色土 | (13) 淡ホヤブロック混入黑褐色土 |
| (5) 明褐色土 | (14) 淡ホヤブロック混入暗黒褐色土 |
| (6) 赤土や | (15) 淡ホヤブロック混入暗黒褐色土 |
| (7) 喀褐色土 | (16) (8)層が混じた凹肩(粘床)? |

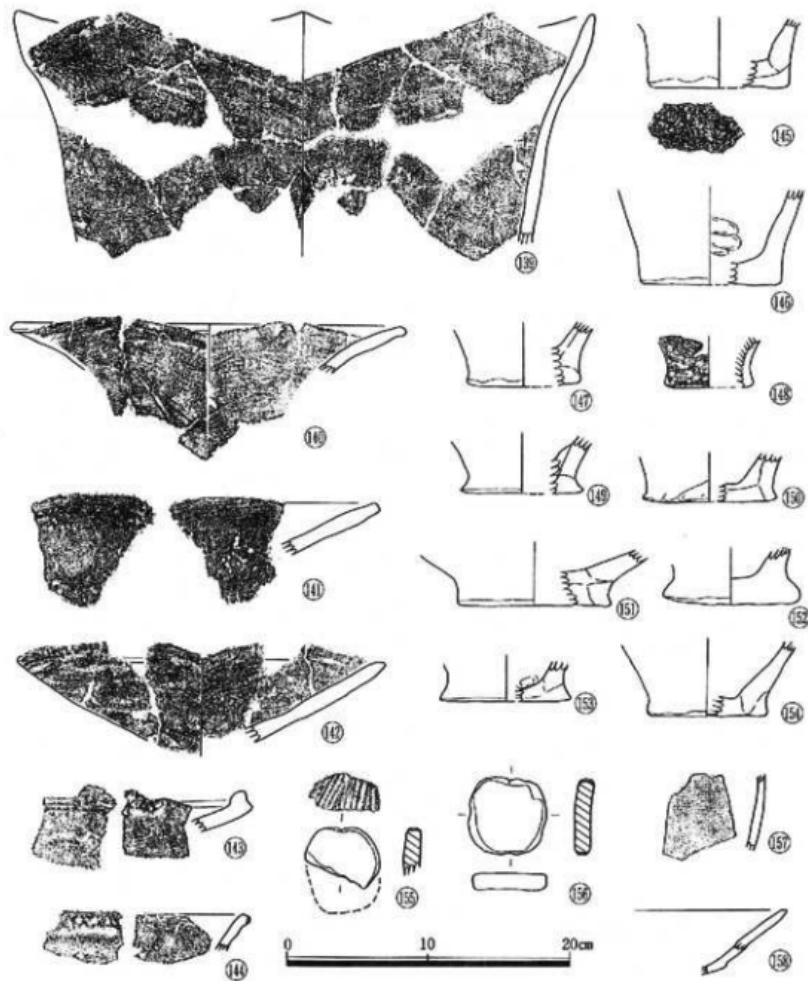
第32図 II E 区土層図 (1/50)



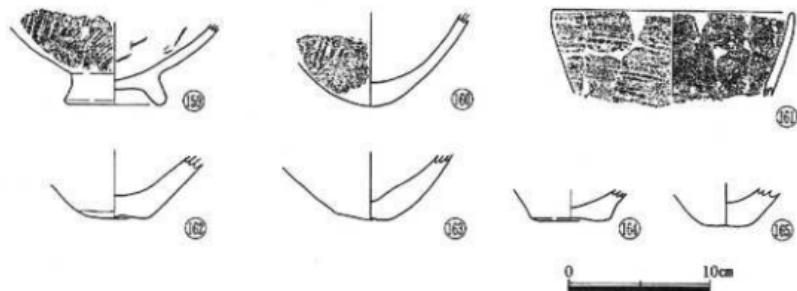
第31図 II E 区造構配図 (1/100)



第33図 II E 区出土繩文土器 (1/4)



第34図 II E 区出土縄文土器・土器片錘・土師器 (1/4)



第35図 II E 区住居址出土土器 (1/4)

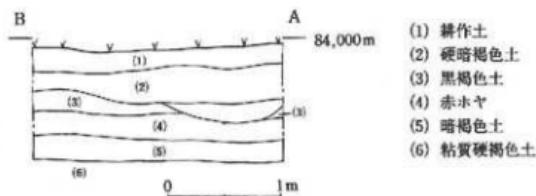
(3) 包含層出土の遺物 (第33・34・45・47・48図、表1・2・3、図版14・15・17・18・19・20・21)

E区の包含層出土の遺物は番号付きで取上げたものだけで375点あり発掘区全面に散布していた。出土層位は4層黒褐色土と5層褐色土である。両者出土土器に時期差は認められなかった。縄文土器には西平式類似の磨消繩文土器(121)や沈線文(114、124、125、127、131)、刺突文(117)の施されたもの、波状口縁(128、133、139)のものなど、後期後半のものが多く見られる。曲沈線文の施された波状口縁深鉢(134)も見られる。石器には未製欠損品である磨製石斧(287、286)、スクレーパー(290)、磨石(278、279、280、281～285)、叩石(274)、叩・磨石兼用石器(271)、石皿(266)、凹石(267)、円盤状石製品(292)、石錘がある。叩石と270、278、281を除いた磨石は尾鈴山酸性岩製である。石錘は67個（実測は4個）出土した。未製品である4個を除いてすべて両端打ち欠き石錘である。

[5] II F区の調査

(1) 調査区の概要 (第36図)

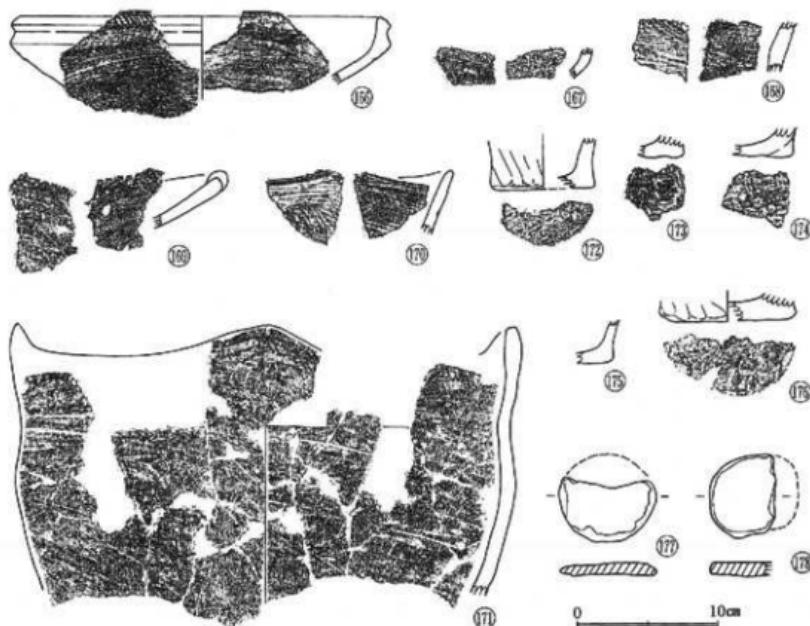
II E区の南に長さ約12.5m、幅1.8mの発掘区を設定した。II F区の基本層序は約20cmの現耕作土である第1層、第2層で30cm前後の硬い褐色土、遺物包含層である20cm程度の厚さを持つ第3層黒褐色土層、20cm程度の第4層アカホヤ、20cm程の厚さを持つ第5層暗褐色土、第6層の硬い粘質褐色土である。遺構は検出できなかったが調査区北側で幅40cm、長さ75cm、厚さ4cm程度の不整形な焼土面をアカホヤ層上面で確認した。



第36図 II F 区土層図 (1/50)

(2) 包含層出土の遺物 (第37・45図、表1・2・3、図版15・17・21)

遺物はアカホヤ上の第2層褐色土と第3層黒褐色土から出土した。取上げた71個の遺物の内図示したのは縄文土器片13個と石錘5個で、縄文土器には新相の市来式(168、170)、鐘崎期の磨消縄文(166、167)、など後期後半の土器がある。底部には網代底(172～174)と木の葉底(176)のものがある。177は土器片加工円盤である。石錘はすべて両端打ち欠き石錘である。

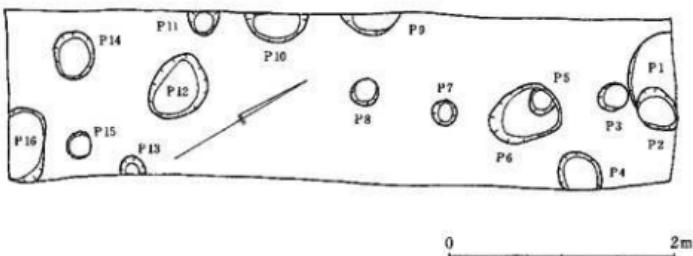


第37図 II F 区出土縄文土器・土器片加工円盤 (1/4)

[6] II H区の調査

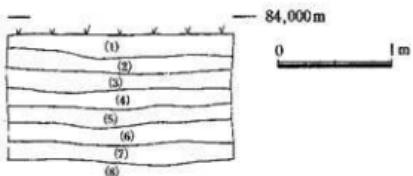
(1) 調査区の概要 (第38・39図)

II F区の19m南に、未発掘区のII G区を挟んで長さ約5.9m、幅1.5mのII H区を設定した。II H区の基本層序は約20cmの耕作土である第1層、第2層で20cm前後の明褐色土（下部耕作土）、20cm程度の厚さを持つ、陶磁器を包含する第3層硬い黒褐色土、15cm程度の第4層黒褐色土、20cm程度の厚さを持つ、縄文後期遺物包含層である第5層明黒色土、第6層のアカホヤ、第7層の黒褐色土、硬い粘質の褐色土である。遺構は6層アカホヤ上面で16のピットを検出したが、実際の掘り込み面はさらに上層と考えられる。



第38図 II H区遺構分布図 (1/50)

- | | |
|-----------|------------|
| (1) 耕作土 | (5) 黒褐色土 |
| (2) 明黒褐色土 | (6) 赤ホヤ |
| (3) 黒褐色土 | (7) 黒褐色土 |
| (4) 黑褐色土 | (8) 粘質硬褐色土 |



第39図 II H区土層図 (1/50)

(2) 遺構と遺物

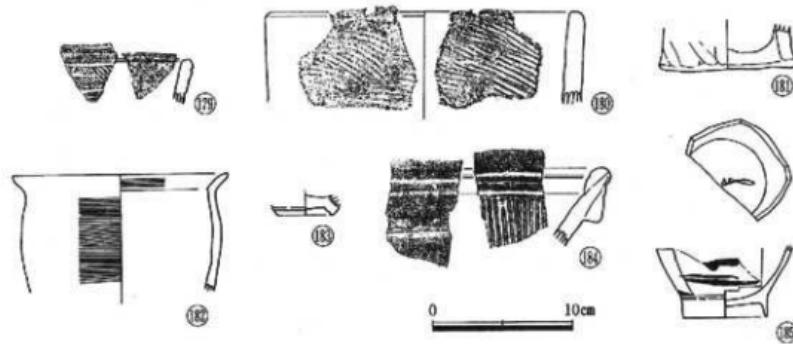
1. ピット (第38図)

ピットには土壤状P1、P4、P6、P9、P10、P12、P14、P16と柱穴状のP2、P3、P5、P7、P8、P11、P13、P15がある。P1は長径88cm、短径40cm以上、深さ16cm程度の楕円形土壙、P4は径38cm、深さ25cmの円形土壙、P6は長径63cm、深さが29cm程度の楕円形土壙である。P9は調査区外に一部が延びており長さ55cm、幅25cm以上、深さ29cm程度の楕円形土壙である。

壙である。P10は幅30cm、長さ55cm、深さ26cm程度の楕円土壙で、一部未発掘区に延びている。P12は最大幅50cm、長さ63cm、深さ30cm程度の楕円形土壙、P14は径が43cm、深さ31cm程度の円形小土壙である。P16は幅38cm、長さ68cm、深さ19cm程度の長方形土壙である。柱穴状のピットは径20~30cm、深さ15~65cm程度の規模を持つ。そのうちP2はP1の、P5はP6の中に掘られている。

(3) 包含層出土の遺物（第40・45図、表1・3、図版15・17・21）

遺物の出土は第2層明黒褐色土と第5層黒褐色土である。遺物は130点ほど出土したが、図示できたのは土器7点、石錘5点である。陶磁器(183~185)は第2層出土で青磁(183)、染付(185)、擂鉢(184)がある。古墳時代以降の土師器と思われる182と縄文土器は第5層から出土した。磨消縄文(179)など後期の土器である。石錘は図示したものなどほとんどが両端打ち欠き石錘だが、片端打ち欠き石錘と未製品1点ずつがある。

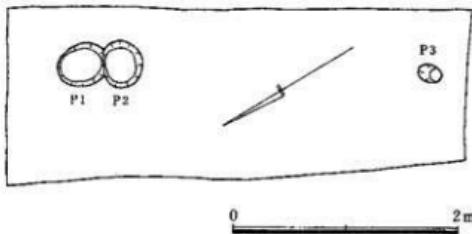


第40図 II H区出土縄文土器・土師器・陶磁器 (1/4)

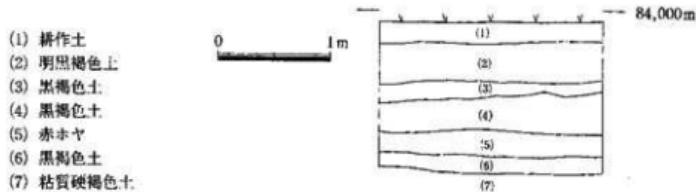
[7] II I区の調査

(1) 調査区の概要（第41・42図、図版11）

II H区の南に長さ約4m、幅1.5mの発掘区を設定した。II I区の基本層序は約20cmの耕作土である第1層、第2層で30cm前後の明褐色土、20cm程度の厚さを持つ第3層黒色土層、40cm程度の第4層黒褐色土、20cm程の厚さを持つ第5層アカホヤ、第6層の黒褐色土、硬い粘質褐色土の第



第41図 II I 区遺構分布図 (1/50)



第42図 II I 区土層図 (1/50)

7層である。遺構は検出できなかったが調査区北側で幅40cm、長さ75cm、厚さ4cm程度の不整形な焼上面をアカホヤ層上面で確認した。第2層には陶磁器が、第3、4層には縄文後晩期の土器片が含まれていた。顕著な遺構は無いが、ピットが3つ検出された。

(2) 遺構 (第41図)

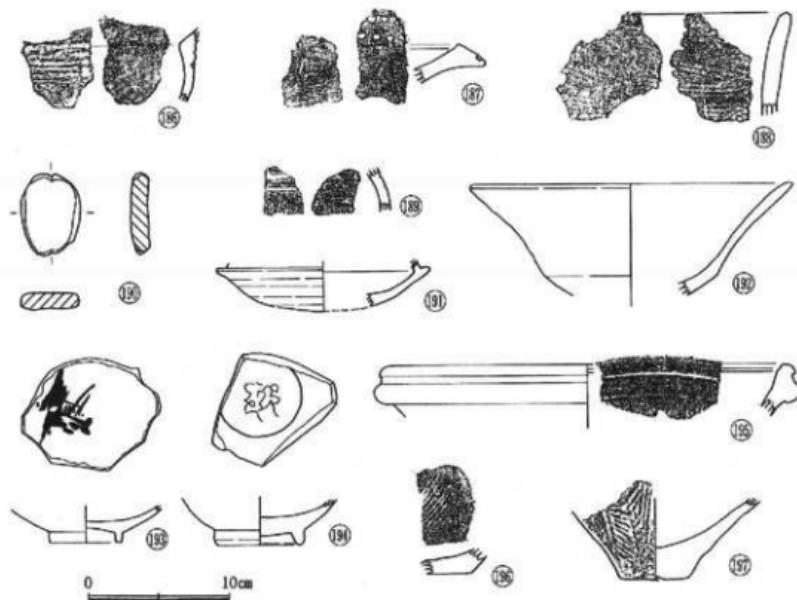
1 ピット

P1、P2はそれぞれ径42cm、35cm、深さ20cm程度の円形土壙、P3は径20cm、深さ30cm程の柱穴である。

(3) 包含層出土の遺物 (第43・46図、表1・3、図版17)

遺物包含層は陶磁器を出土する第2層明黒褐色土と縄文後晩期土器を出土する3、4層の黒褐色土である。60点の遺物のうち図示したのは土器3点、石錐6点で、186は沈線文の施された後期

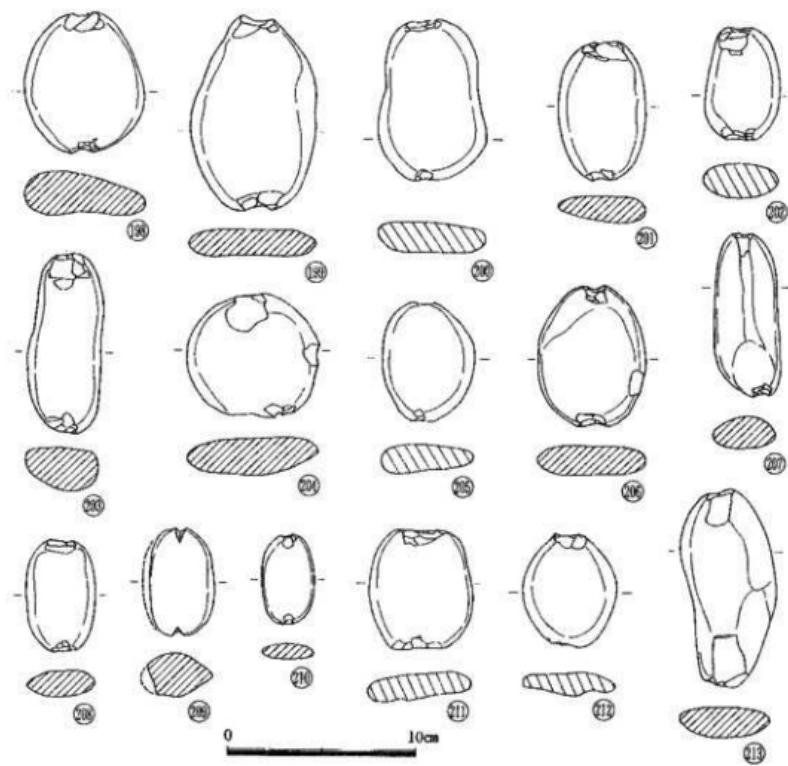
縄文土器、190は縄文後期と思われる土器片錘、193は近世の染付皿である。石錘はすべて両端打ち欠き石錘である。



186、190、193：II I 区 187、189：II 区

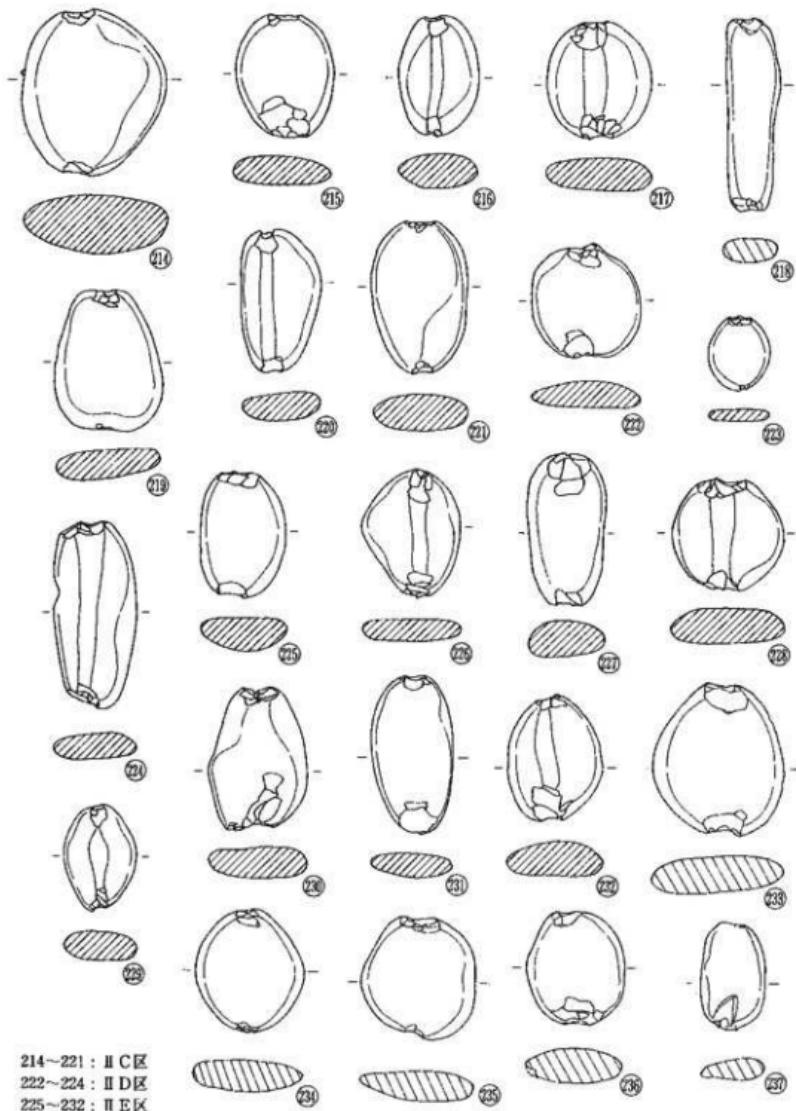
188、191、192、194～196：表採 197：猪飼育場付近

第43図 II I 区出土及び表採縄文土器・土器片錘・土師器・須恵器・陶磁器 (1/4)

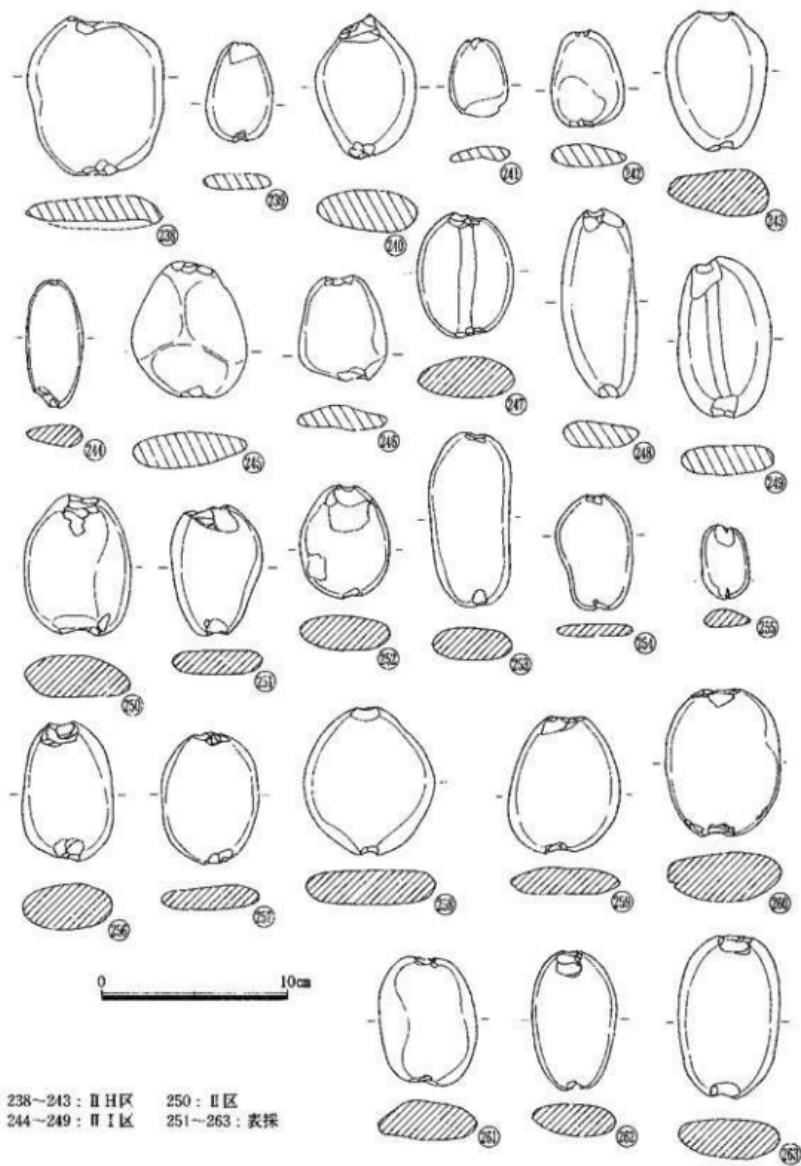


198~199 : IA区
 200~206 : IC区
 207~210 : ID区
 211~213 : IE区

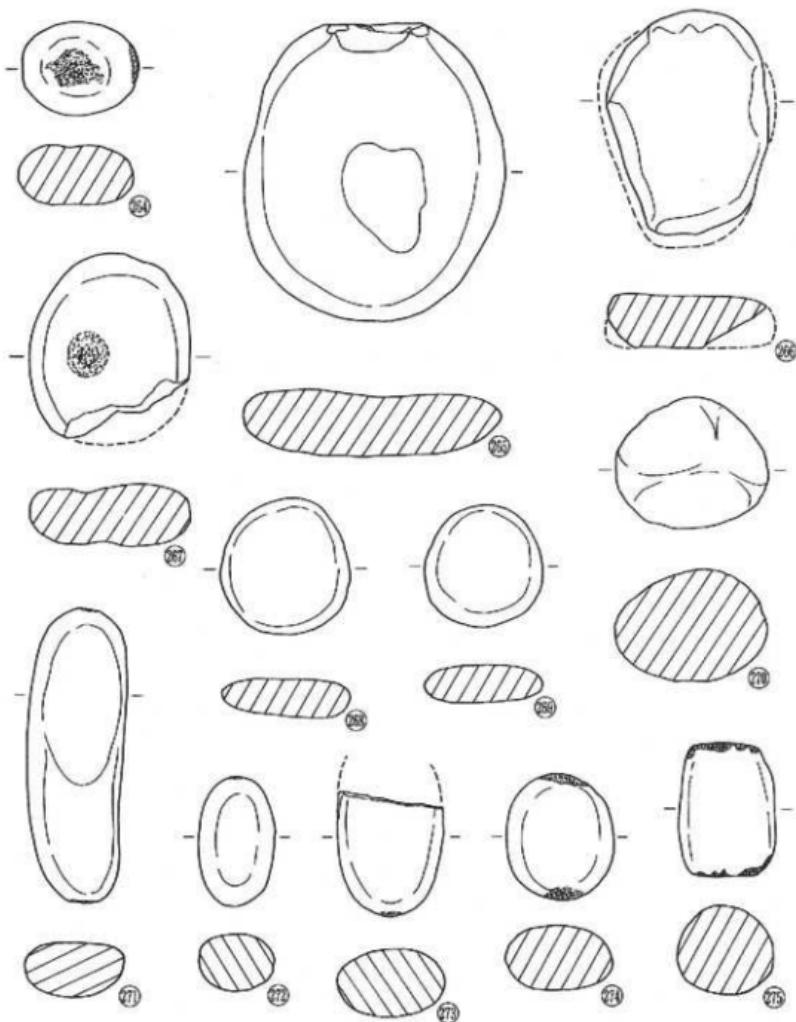
第44図 IA~IE区出土石錐 (1/3)



第45図 II C~II F区出土石錘 (1/3)



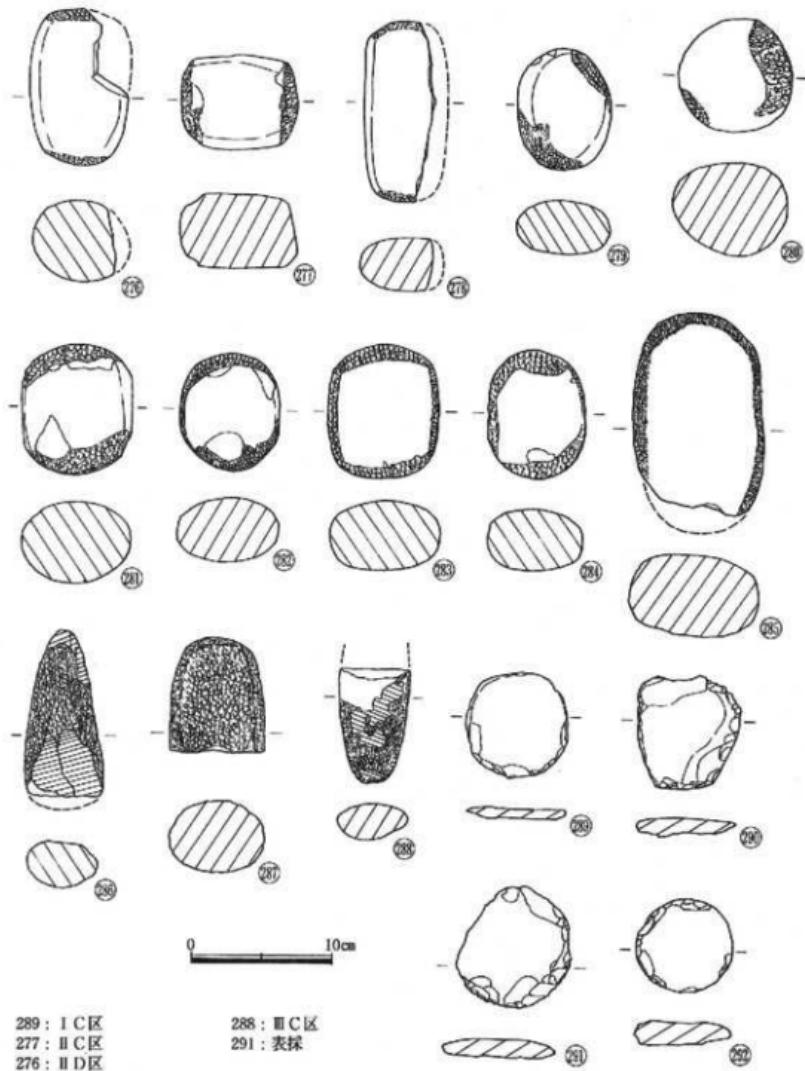
第46図 II H~II I区出土石錘 (1/3)



272 : I C 区 265 : II D 区
 275 : I D 区 266, 267, 270, 271, 273, 274 : II E 区
 264, 268, 269, 272 : II C 区

0 10 20cm

第47図 I～II区出土石皿・凹石・磨石・叩石 (1/4)



第48図 I～II区出土及び表探石器 (1/4)

第1表 土器一覧表(1)

器種等	部位	出上区	時期	遺存度	時期	調整等	備考
深鉢	口縁部	I A	1	破片	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I A	2	1/4	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I A	3	1/4	縄文後期	内外 ナデ	底 条痕
深鉢	底部	I A	4	1/6	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	胴上半部	I C	5	破片	縄文早期?	内外 ナデ	沈縄文、塞ノ神式?
深鉢?	口縁部	I C	6	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文、脚台付き皿?
深鉢	口縁部	I C	7	破片	縄文後期	外 具設条痕内 具設条痕	波紋口縁、具設波線割引文、市来式
深鉢	胴上半部	I C	8	破片	縄文後期	内外 具設条痕	具設腹線刻文、市来式
深鉢	口縁部	I C	9	破片	縄文後期	内外 具設条痕	市来式
深鉢	口縁部	I C	10	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄羽状文、北久根山式?
深鉢	口縁部	I C	11	破片	縄文後期	外 ナデ 内 ナデ、条痕	沈縄羽状文、北久根山式?
深鉢	口縁部	I C	12	破片	縄文後期	内外 ナデ	波状口縁、内外沈縄
深鉢	口縁部	I C	13	破片	縄文後期	内外 ナデ	押序縄文
深鉢	口縁部	I C	14	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	口縁部	I C	15	破片	縄文後期?	外 ナデ 内 具設条痕	波紋口縁、沈縄文
深鉢	口縁部	I C	16	破片	縄文後期?	外 条痕内 ナデ 内 ナデ	波状口縁
深鉢	口縁部	I C	17	破片	縄文後期?	内外 ナデ	鹿角彫、鹿頭彫刻文、鹿頭彫刻文 口唇部縄文、北久根山式?
深鉢	口縁部	I C	18	破片	縄文後期	内外 ミガキ	
深鉢	口縁部	I C	19	破片	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	I C	20	破片	縄文後期	内外 具設条痕	
深鉢	口縁部	I C	21	破片	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	I C	22	破片	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	I C	23	破片	縄文後期	外 具設条痕 内 ナデ	
深鉢	口縁部	I C	24	破片	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	I C	25	破片	縄文後期?	内外 ナデ	突帶1条
深鉢	口縁部	I C	26	破片	縄文後期?	外 具設条痕 内 ナデ	波紋口縁?
深鉢	口縁部	I C	27	破片	縄文晚期	内外 ナデ	孔列文
深鉢	口縁部	I C	28	1/5	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	29	1/4	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	30	1/4	縄文後期?	外 具設条痕 内 ナデ	
深鉢	底部	I C	31	1/6	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	32	1/4	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	33	1/2	縄文後期	外 具設条痕 内 ナデ	網代底
深鉢	底部	I C	34	1/4	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	35	1/6	縄文後期	外 ナデ	
深鉢	底部	I C	36	1/4	縄文晚期?	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	37	1/1	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	38	1/2	縄文晚期?	外 具設条痕 内 ナデ	網代底?
深鉢	底部	I C	39	1/2	縄文後期?	外 具設条痕 内 ナデ	網代底
深鉢	底部	I C	40	1/4	縄文晚期?	内外 具設条痕	木の葉底
深鉢	底部	I C	41	1/4	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	42	1/3	縄文晚期?	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	I D	43	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	口縁部	I D	44	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	胴上半部	I D	45	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文、刺突文
深鉢	胴上半部	I D	46	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	口縁部	I	47	破片	縄文後期	内外 具設条痕	波紋口縁
深鉢	口縁部	I D	48	破片	縄文後期?	内外 ナデ	波紋口縁
浅鉢	口縁部	I D	49	破片	縄文後期?	内外 ナデ	脚台付き皿?
深鉢	底部	I D	50	1/6	縄文晚期	内外 ナデ	
土器片	縁部	I D	51	完形	縄文後期?	内外 具設条痕	沿部研磨

第1表 土器一覧表(2)

器種等	部位	出土区	鉢形	遺存度	時期	測定等	備考
土器片加山形		I D	52	完形	縄文後期?	内外 ナデ	端部未研磨
土師器坏		I D-SA	53	平安	内外 ナデ		ハラ切り底
土師器壺?	口縁部	I E-SA	54	1/12	古墳	内外 ナデ	
土師器壺?	口縁部	I E-SA	55	1/5	古墳	内外 ナデ	
土師器壺?	胴部~底部	I E-SA	56	1/2	古墳	外 格子タキ 内 ナデ	壺?
漆鉢	底部	I E	57	1/6	縄文晚期	内外 ナデ	
土師器壺?	底部	I E-SA	58	1/2	古墳	内外 ナデ	
土師器壺?	底部	I E-SA	59	1/2	古墳	外 ミガキ 内 ナデ	
土師器壺坏	脚輪部	I E-SA	60	軸部/1	古墳	内外 ナデ	黒斑
土師器壺坏	脚輪部	I E-SA	61	破片	縄文後期	外 条痕ナ消 内 ナデ	貝殻腹材文、市来式
深鉢	胴上部	I E-SA	62	破片	縄文後期後半	内外 ナデ	貝殻疑似唇消繩文
深鉢	胴上部	I E-SC	63	1/8	縄文後期	内外 ナデ	磨清縄文、北久根山式期?
深鉢	口縁部	I E-ID	64	破片	縄文後期	内外貝殻条痕	
深鉢	胴上部	I E-SA	65	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢?	胴上部	I E	66	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢?	口縁部	I E	67	破片	縄文後期?	内外 ナデ	波状口縁
深鉢	口縁部	I E	68	破片	縄文晚期?	内外 ナデ	貼付突起、II唇部刻印
深鉢	口縁部	I C-SC	69	破片	縄文晚期?	内外 ナデ	
深鉢	底部	I E-SC	70	縄文晚期?	内外 ナデ		木の葉底
深鉢	底部	I E-SA	71	1/5	縄文晚期?	内外 ナデ	
上器片加山形		I E	72	完形	外 貝殻条痕 内 ナデ		端部未研磨
深鉢	口縁部	I	73	破片	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	I	74	破片	縄文後期	外 貝殻条痕 内 ナデ	
深鉢	口縁部	I	75	破片	縄文後期	内外 貝殻条痕	
深鉢	口縁部	I	76	破片	縄文後期	外 ナデ 内 貝殻条痕	限沈縄
浅鉢?	口縁部	I	77	破片	縄文晚期	内外 ミガキ	磨研土器、内面沈縄
深鉢?	口縁部	I	78	破片	縄文晚期	内外 ミガキ	沈縄、磨研土器
深鉢	底部	I	79	1/1	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I	80	1/4	縄文晚期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I	81	1/5	縄文晚期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I	82	1/3	縄文晚期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I D	83	1/3	縄文後期?	外 貝殻条痕 内 ナデ	
深鉢	胴部	I C	84	破片	縄文後期	内外 ナデ	貝殻腹材制突文、市来式
深鉢	胴部	I C-SD	85	破片	縄文後期	外 ナデ 内 貝殻条痕	縄文、沈縄
深鉢	口縁部	I C	86	破片	縄文後期?	内外 ナデ	波状口縁、内面刺突文
深鉢	口縁部	I C-IPB	87	破片	縄文後期	内外 ナデ	磨清縄文、西平期
深鉢	口縁部	I C-CPA	88	破片	縄文後期	内外 貝殻条痕	
深鉢	口縁部	I C-IPB	89	破片	縄文後期	内外 貝殻条痕	波状口縁、内面曲沈縄文
深鉢	口縁部	I C	90	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文、轉突文、北久根山式期?
深鉢	口縁部	I C	91	破片	縄文後期	内外 ナデ	波状口縁、沈縄文
深鉢	口縁部	I C	92	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄 3 条、轉突文
深鉢	口縁部	I C	93	破片	縄文後期	外 ナデ 内 ミガキ	波状口縁、北久根山式期?
深鉢	底部	I C	94	1/3	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	95	1/4	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	96	1/3	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	97	1/2	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	98	3/4	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C-SC	99	1/3	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	100	1/7	縄文晚期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	101	1/4	縄文晚期	内外 ナデ	
深鉢	底部	I C	102	1/4	縄文晚期	内外 ナデ	

第1表 土器一覧表(3)

器種等	部位	出土区	編目	造存度	時期	測定等	備考
深鉢	口縁部	II D	103	1/8	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	口縁部	II D	104	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	口縁部	II D	105	破片	縄文後期	内外 ナデ	竹管文
深鉢	刷部	II D	106	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢?	脚部~口縁部	II D	107	破片	縄文後期?	内外 ナデ	沈縄文、北久根山式削?
深鉢	刷部	II D	108	破片	縄文後期	外 ナデ 内 貝殻条痕	沈縄文、利突文、北久根山式削?
深鉢	刷部~口縁部	II D	109	破片	縄文後期?	内外 ナデ	沈縄文、北久根山式削?
深鉢	脚部	II D	110	破片	縄文後期?	内外 ナデ	沈縄文、短辺縫文
深鉢	脚部	II D	111	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文、利突文
深鉢	底部	II D	112	1/4	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	口縁部~肩部	II E	113	1/6	縄文後期後半	内外 ナデ	波状口縁、北久根山新
深鉢?	口縁部	II E	114	破片	縄文後期	内外 ナデ	波状口縁、沈縄文
深鉢	肩部	II E	115	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	肩部	II E	116	1/4	縄文後期後半	内外 ナデ	北久根山削
深鉢?	肩上半部	II E	117	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文、利突文
深鉢	刷部	II E	118	破片	縄文後期?	内外 ナデ	北久根山~西平削
深鉢	口縁部	II E-SA	119	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	刷部	II E	120	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
浅鉢?	肩上半部	II E	121	破片	縄文後期	内外 ナデ	磨擦縄文、西平式削
浅鉢?	口縁部	II E-SA	122	破片	縄文後期後半	内外 ナデ	沈縄文、利突文、西平~人頭追跡
深鉢	口縁部	II E	123	破片	縄文後期	外 ミガキ 内 ナデ	口唇部沈縄、西平~人頭追
深鉢	肩上半部	II E-SA	124	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	肩部	II E	125	破片	縄文後期	外 ミガキ 内 ナデ	沈縄文
深鉢	肩上半部	II E	126	破片	縄文後期	内外 ナデ	貝殻腹縫利突文
深鉢	口縁部	II E	127	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	口縁部	II E	128	破片	縄文後期?	内外 ナデ	波状口縁
深鉢	口縁部	II E-SA	129	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	口縁部	II E	130	破片	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	II E	131	破片	縄文後期	内外 ナデ	沈縄文
深鉢	口縁部	II E-SA	132	破片	縄文後期	内外 ナデ	貝殻腹縫利突文、市来式削?
深鉢	口縁部	II E	133	破片	縄文後期	内外 ナデ	波状口縁
深鉢	口縁部	II E	134	破片	縄文後期	内外 ナデ	波状口縁、曲沈縄文
深鉢	刷部	II E	135	破片	縄文後期?	内外 ナデ	北久根山削
深鉢	肩上半部	II E-SA	136	破片	縄文後期	外 ナデ 内 貝殻条痕文	沈縄文
深鉢	口縁部	II E	137	破片	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	II E	138	破片	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	口縁部	II E	139	破片	縄文後期	外 刃型状のナデ 内ナデ	波状口縁
浅鉢?	口縁部	II E	140	1/5	縄文後期?	外 貝殻条痕 内 貝殻条痕ナデ	
浅鉢?	口縁部	II E	141	破片	縄文後期?	内外 ナデ	脚台付き?
浅鉢	口縫部~脚部	II E	142	1/4	縄文後期?	外 ミガキ 内 ナデ	
浅鉢?	口縁部	II E	143	破片	縄文後期?	内外 ナデ	脚台付き?
土師器變	口縁部	II E	144	破片	古墳	内外 ナデ	口唇部キザミ
深鉢	底部	II E	145	1/4	縄文後期	内外 ナデ	木の蓋底
深鉢	底部	II E	146	1/2	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	II E	147	1/4	縄文後期?	内外 ナデ	
深鉢	底部	II E	148	1/4	縄文後期?	外 貝殻条痕文	
深鉢	底部	II E	149	1/4	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	II E	150	1/2	縄文後期	内外 ナデ	
深鉢	底部	II E	151	1/3	縄文晚期	内外 ナデ	
深鉢	底部	II E	152	1/1	縄文晚期	内外 ナデ	
深鉢	底部	II E-SA	153	1/4	縄文晚期?	内外 ナデ	

第1表 土器一覧表(4)

器種等	部位	出上区	時期	遺存度	時期	調整等	備考
154 深鉢	底部	II E	154	1/4	縄文後期	内外 ナデ	
155 土器片鍤		II E	155	1/2	縄文後期?	外 片段条痕 内 ナデ	端部未研磨
156 土器片鍤		II E	156	完形	縄文後期?	内外 ナデ	端部未研磨
157 土師器壺	胴部	II E	157	破片	古墳	外 カキメ 内ナデ	
158 土師器高环	口縁部	II E	158	破片	古墳	内外ヘラミガキ	
159 土師器壺	底部	II E-SA	159		古墳	外 タタキ 内ナデ	脚付
160 土師器壺	底部	II E-SA	160		古墳後期	外 タタキ 内ナデ	
161 土師器壺	口縁部	II E-SA	161	1/6	古墳後期	外 タタキ 内ナデ	
162 土師器壺	底部	II E-SA	162		古墳後期	内外 ナデ	
163 土師器壺	底部	II E-SA	163	1/1	古墳	内外 ナデ	
164 土師器壺	底部	II E-SA	164		古墳	内外 ナデ	
165 土師器壺	底部	II E-SA	165	1/3	古墳	内外 ナデ	
166 浅鉢?	口縁部	II F	166	1/8	縄文後期半	内外 ミガキ	磨消縄文、縄崎期
167 浅鉢?	胴上半部	II F	167		縄文後期	内外 ナデ	磨消縄文
168 深鉢	胴上半部	II F	168		破片	縄文後期	外 片段条痕 内 ナデ
169 浅鉢?	口縁部	II F	169		破片	縄文後期	内外 ナデ
170 深鉢	口縁部	II F	170		破片	縄文後期	内外 片段条痕
171 深鉢	口縁~胴部	II F	171	1/5	縄文後期	内外 ナデ	波状口縁
172 深鉢	底部	II F	172	1/2	縄文後期	内外 ナデ	側代底
173 深鉢	底部	II F	173		破片	縄文後期	内外 ナデ
174 深鉢	底部	II F	174		破片	縄文後期	内外 ナデ
175 深鉢	底部	II F	175		破片	縄文後期?	内外 ナデ
176 深鉢	底部	II F	176	1/2	縄文後期	内外 ナデ	木の葉底
177 土器片加山型		II F	177	3/4	縄文後期?	外 条痕 内 ナデ	端部未研磨
178 土器片加山型		II F	178	3/4	縄文後期?	外 条痕 内 ナデ	端部未研磨、土器片鍤?
179 鉢	口縁部	II H	179		破片	縄文後期	内外 ミガキ
180 深鉢	口縁部	II H	180	1/8	縄文後期	内外 片段条痕	磨消縄文
181 深鉢	底部	II H	181	1/3	縄文後期	内外 ナデ	
182 土師器壺	口縁~胴部	II H	182	1/4	古墳	外 カキメ 内ナデ	
183 青組	底部	II H	183	1/3	近世		
184 瓢鉢	口縁部	II H	184		破片	近世	備前?
185 爪付碗	底部~底部	II H	185	1/2	近世		
186 深鉢	胴上半部	II I	186		破片	縄文後期	内外 ナデ
187 浅鉢	口縁部	II	187		破片	縄文後期	外 ミガキ 内 ナデ
188 深鉢	口縁部	表採	188		破片	縄文後期	外 ナデ 内 片段条痕
189 深鉢	胴上半部	II	189		破片	縄文後期	内外 ナデ
190 土器片鍤		II I	190	完形	縄文後期?	内外 ナデ	端部未研磨
191 細胞器環身		表採	191	1/7	古墳後期		
192 土師器高环	口縁~坏部	表採	192	1/4	古墳	内外 ナデ	黒斑
193 染付器	底部	II I	193	3/4	近世		
194 輸入青磁	底部	表採	194	2/3			花紋
195 瓢鉢	口縁部	表採	195	1/10	近世		備前?
196 瓢鉢	底部	表採	196	1/7	近世		備前?
197 土師器壺?	底部	鑑削削跡	197	3/4	古墳時代?	外 タタキ 内 ナデ	

第2表 石器一覧表

器種	標識番号	出土区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	遺存度	石材	備考
1	スクレイパー	291		8.70	8.05	1.30	125.0	完形	
2	円盤状石製品	289	I C	7.50	7.20	0.80	68.0	完形	
3	磨石	275	I D-SD	9.60	6.80	6.30	662.0	完形	尾鈴山酸性岩類
4	磨石	277	II C	8.15	6.80	5.30	495.0	完形	尾鈴山酸性岩類
5	磨石?	269	II C	8.63	8.35	2.75	290.0	完形	
6	叩石?	272	II C	9.30	5.15	4.10	300.0	完形	
7	叩・磨石	264	II C	8.05	6.65	4.23	310.0	完形	砂岩
8	磨石?	268	II C	9.72	9.10	2.60	365.0	完形	
9	石皿	265	II D	20.90	18.30	4.55	2820.0	一部欠損	砂岩
10	磨石	276	II D	11.20	6.95	5.85	563.0	一部欠損	尾鈴山酸性岩類
11	磨石	280	II E	8.10	8.10	6.75	600.0	完形	
12	磨石	283	II E	9.50	7.80	5.10	640.5	完形	尾鈴山酸性岩類
13	磨製石斧	287	II E	8.15	6.70	5.10	440.0	半折	砂岩
14	磨石	279	II E	8.80	6.60	3.75	323.0	完形	尾鈴山酸性岩類
15	叩き石	274	II E	8.85	7.65	4.70	481.0	完形	尾鈴山酸性岩類
16	磨石	278	II E	13.05	5.15	3.85	390.0	半欠	
17	石皿	266	II E	15.90	11.50	3.80	1020.0	一部欠損	砂岩
18	四石	267	II E	12.50	11.30	4.50	980.0	一部欠損	尾鈴山酸性岩類
19	磨石	281	II E	9.40	7.80	5.95	694.0	完形	砂岩?
20	円盤状石製品	292	II E	6.65	6.80	1.80	111.0	完形	
21	磨石	282	II E	8.40	7.18	4.65	427.5	完形	尾鈴山酸性岩類
22	磨石	285	II E	13.95	9.20	6.85	1150.0	先端欠損	尾鈴山酸性岩類?
23	磨石?	270	II E	9.30	10.85	8.00	950.0	完形	
24	磨製石斧	286	II E	11.97	5.62	3.30	280.0	刃部欠損	
25	叩・磨石	271	II E	20.90	7.00	3.90	1080.0	完形	砂岩
26	スクレイパー	290	II E-SA	8.10	7.20	1.45	105.0	完形	
27	磨石	284	II E-SA	9.30	6.30	4.50	444.0	完形	尾鈴山酸性岩類
28	叩石	273	II E-SA	8.80	7.57	4.92	525.0	半折	尾鈴山酸性岩類
29	磨製石斧	288	III C	8.27	5.10	2.62	150.0	半折	

第3表 石錘一覧表(1)

実測番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	遺存度	備考
1	6.76	5.51	0.81	1.48	80		完	
2	6.70	5.80	0.86	2.05	96		完	
3	7.58	4.98	0.65	1.68	101		完	
4	6.21	5.29	0.85	1.99	91		欠	
5	7.57	4.92	0.64	1.95	120		完	
6	7.89	6.41	0.81	1.55	125		完	
7	7.88	5.63	0.71	2.38	134		完	
8	5.85	5.18	0.88	1.53	63		完	
9	6.29	5.18	0.82	1.91	103		完	
10	6.58	5.25	0.79	1.81	85		完	
11	251	6.94	5.05	0.72	1.33	66	形完	
12		8.12	4.34	0.53	1.50	79	完	
13		8.72	4.05	0.46	1.83	90	完	
14		6.61	5.00	0.90	2.22	114	完	
15		7.84	6.45	0.82	1.50	120	形完	
16		7.44	3.83	0.51	1.22	46	完	
17	255	4.05	2.50	0.61	0.94	14	完	切目
18		6.62	5.94	0.89	2.01	113	完	
19		6.45	4.84	0.75	1.11	55	形完	
20		7.12	4.62	0.64	1.62	69	完	
21		8.30	6.38	0.76	2.10	170	完	
22	222	6.12	5.78	0.94	1.44	77	完	
23		6.43	6.25	0.97	2.28	124		
24		6.19	5.70	0.92	1.51	88	完	
25	228	5.98	6.01	1.00	1.95	102	完	
26		8.32	4.91	0.59	1.79	128	完	
27	225	6.80	4.57	0.67	1.80	86	完	
28	254	6.23	3.95	0.63	0.67	28	完	
29		6.63	5.38	0.81	1.52	86	完	
30		8.41	3.89	0.46	1.23	80	完	
31		6.22	3.48	0.55	1.22	39	完	
32		7.39	4.22	0.57	1.58	80	完	
33		7.70	5.38	0.69	1.75	101	完	
34		7.02	4.28	0.60	1.32	65	完	
35		6.61	3.25	0.49	1.75	66	完	
36		5.97	5.12	0.85	1.88	93	完	
37		6.22	5.84	0.93	1.33	67	形完	
38		6.89	3.95	0.57	1.48	66	完	
39		6.73	5.11	0.75	1.65	71	完	
40		6.18	5.23	0.84	1.62	75	完	
41		6.28	5.42	0.86	1.93	79	欠	
42		7.10	5.61	0.79	1.43	105	完	
43		6.21	4.68	0.75	1.28	63	完	
44		8.52	5.43	0.63	1.22	94		
45		6.62	4.98	0.75	2.19	98	完	
46	205	6.33	4.82	0.76	1.51	68	完	
47		8.28	3.70	0.44	1.40	83	完	
48		7.68	4.54	0.59	1.18	54	形完	
49	227	8.33	4.12	0.49	1.96	114	完	

第3表 石錘一覧表(2)

実測番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	遺存度	備考
50	7.42	4.20	0.56	1.38	62		完	
51	258	7.82	0.92	0.88	165		完	
52		8.10	5.82	0.71	1.67	130	欠	
53		5.10	4.02	0.78	1.42	44		
54	203	9.73	3.88	0.39	2.17	132	完	
55	199	10.58	6.58	0.62	1.37	166	完	
56		8.82	5.39	0.61	2.32	176	完	
57	263	8.72	5.47	0.62	2.18	158	完	
58		7.12	5.40	0.75	1.57	87	完	
59		6.38	4.98	0.78	1.63	84	完	
60		8.02	5.18	0.64	1.51	98	完	
61		6.65	5.00	0.75	1.97	101		
62		5.88	3.89	0.66	1.45	48	完	
63		7.43	4.12	0.55	1.31	65	完	
64		5.22	3.51	0.67	1.03	29	完	
65		8.97	6.05	0.67	1.28	115	完	
66		6.12	5.00	0.81	1.23	69	完	
67	252	6.11	4.73	0.77	1.94	79	完	
68		6.83	5.22	0.76	1.45	57	欠	
69		6.51	4.44	0.68	1.61	62	形完	
70		4.50	3.84	0.85	1.51	39	半	
71		6.72	5.34	0.79	2.23	122	完	
72		5.95	5.00	0.84	2.09	84	完	
73		5.44	4.11	0.75	2.33	70		本製品
74		4.62	3.72	0.80	0.84	23	完	
75		6.00	3.51	0.58	0.94	30	欠	
76		2.40	6.40	2.66	0.80	17	半	
77		6.40	4.62	0.72	0.84	45		未製品
78		5.61	4.60	0.81	1.50	50	形完	
79		7.11	4.11	0.57	1.62	71	完	
80		4.34	5.73	1.32	1.11	42	半	
81		8.22	3.62	0.44	1.70	73	欠	
82		7.30	5.45	0.74	1.22	72	完	
83		8.40	4.40	0.52	2.00	119	完	
84		7.45	3.61	0.48	1.50	59	完	
85		7.95	5.80	0.72	1.94	125	完	
86		7.33	4.95	0.67	2.00	120	完	
87		6.51	5.11	0.78	1.62	78	完	
88		6.20	4.72	0.76	1.40	49	欠	
89		5.95	5.51	0.92	1.83	90	形完	
90		4.70	4.62	0.98	1.95	54	半	
91		5.90	4.01	0.67	0.72	18	備	
92		6.77	4.62	0.68	1.28	73	完	
93		5.94	3.94	0.66	1.06	40	形完	
94		5.21	4.40	0.84	1.58	49	形完	
95		4.98	4.51	0.90	1.08	42	破	
96		7.11	5.99	0.84	2.17	140	完	
97		7.26	4.97	0.68	1.50	85	1	欠
98		6.03	4.94	0.81	1.62	70	1	完

第3表 石錘一覧表(3)

実測図番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	遺存度	備考
99	6.62	6.23	0.94	2.44	140	I	完	
100	6.23	5.22	0.83	1.73	83	I	完	
101	5.96	4.98	0.83	1.32	55	I	完	
102	5.45	4.50	0.82	1.00	36	I	完	
103	6.73	5.94	0.88	2.33	130	I	完	
104	6.33	5.44	0.85	2.22	108	I	完	
105	8.72	4.50	0.51	1.51	83	I	欠	
106	6.95	5.51	0.79	1.73	103	I	欠	
107	7.83	5.51	0.71	1.72	89	I	欠	
108	6.94	5.50	0.79	1.44	81	I	欠	
109	7.34	4.61	0.62	1.45	71	I	欠	
110	6.01	4.11	0.68	1.50	59	I	本製品	
111	7.67	4.33	0.56	1.46	87	I		
112	7.40	5.88	0.79	2.08	128	I	形完	
113	198	7.50	6.45	0.86	2.33	155	I A	完
114		7.33	6.73	0.91	1.50	99	I A	形完
115		7.08	4.71	0.66	1.68	73	I C	形完
116		6.18	4.71	0.76	1.33	66	I C	完
117		7.92	5.85	0.73	2.29	140	I C	形完
118		7.37	5.92	0.80	1.71	125	I C	完
119		5.75	5.48	0.95	1.83	77	I C	完
120	206	7.61	5.72	0.75	1.95	107	I C	完
121		7.22	6.72	0.93	2.11	136	I C	完
122	200	8.50	5.72	0.67	1.73	127	I C	完
123	201	7.51	4.53	0.60	1.30	72	I C	完
124	202	6.01	4.05	0.67	1.84	69	I C	完
125		6.23	4.34	0.69	1.51	61	I C	完
126		6.62	5.22	0.78	1.88	96	I C	完
127		7.61	4.73	0.62	1.84	93	I C	形完
128		7.01	5.51	0.78	1.62	103	I C	完
129	204	6.72	6.94	1.03	1.81	139	I C	完
130		5.94	6.50	1.09	1.95	95	I C	形完
131		6.61	4.72	0.71	1.73	82	I C	完
132		5.50	4.01	0.72	1.34	45	I C	形完
133		6.34	4.34	0.68	2.00	70	I C	形完
134		5.00	4.61	0.92	1.72	49	I C	半
135		5.00	3.84	0.76	1.11	27	I C	欠
136		8.11	5.80	0.71	1.62	118	I C	完
137		7.61	5.50	0.72	1.44	97	I C	完
138		7.11	5.22	0.73	1.83	98	I C	欠
139		5.84	5.33	0.91	1.50	73	I C	完
140		6.50	5.60	0.86	1.10	90	I C	半
141		6.61	3.82	0.57	1.67	58	I C	完
142		4.50	4.58	1.01	1.74	48	I C	欠
143		7.51	4.90	0.65	1.44	68	I C	完
144		6.34	6.72	1.05	1.45	98	I C	完
145		8.52	4.42	0.51	1.70	115	I D	完
146		5.47	4.18	0.76	1.83	60	I D	完
147		6.59	2.98	0.45	0.89	27	I D	完

第3表 石錘一覧表(4)

実測番号	長 (cm)	幅 (cm)	長幅比	厚 (cm)	重 (g)	出土区	遺存度	備考
148	6.61	4.58	0.69	1.42	70	I D	完	
149	208	5.95	3.62	0.60	1.50	52	I D	完
150	207	8.83	3.60	0.40	1.75	79	I D	完
151		6.51	6.22	0.95	1.62	93	I D	完
152		6.12	5.83	0.95	1.62	83	I D	形完
153	209	5.73	3.47	0.60	2.30	63	I D	欠
154		5.23	4.62	0.88	1.61	49	I D	切目
155		5.84	3.95	0.67	1.33	44	I D	完
156	210	4.85	2.72	0.55	0.85	19.5	I D	完
157		5.23	4.50	0.86	1.01	39	I D	完
158		5.72	4.62	0.80	2.00	79	I D	完
159		7.44	4.62	0.62	2.01	101	I D	完
160		6.22	5.95	0.95	2.10	105	I D	完
161		8.65	5.15	0.59	2.38	150	I D	形完
162		6.73	6.41	0.95	1.53	106	I D	完
163		4.95	4.51	0.91	1.61	51	I D	完
164		8.01	5.50	0.68	1.95	104	I D	欠
165		6.94	5.22	0.75	2.22	105	I D	完
166		7.34	4.22	0.57	1.50	69	I D	完
167		7.23	3.34	0.46	1.23	43	I D	形完
168		7.22	5.11	0.70	1.84	98	I D	形完
169		7.23	4.83	0.66	1.50	77	I D	完
170		7.83	4.61	0.58	1.62	75	I D	欠
171		5.95	3.73	0.62	1.61	54	I D	形完
172		7.50	4.70	0.62	2.22	94	I D	欠
173		6.12	5.23	0.85	1.50	75	I D	完
174		4.78	5.40	1.12	1.67	73	I D	欠
175		7.92	4.82	0.60	1.35	81	I D	完
176		6.46	4.69	0.72	1.12	53	I D	欠
177		6.38	4.97	0.77	1.61	85	I D	完
178		6.85	4.42	0.64	1.82	68	I D	完
179		6.23	5.52	0.88	1.95	95	I D	完
180		6.52	3.29	0.50	1.14	70	I D	形完
181		7.13	4.24	0.59	2.08	100	I D	完
182		6.07	3.88	0.63	1.77	67	I D	完
183		6.38	4.37	0.68	1.81	79	I D	形完
184		7.32	3.30	0.45	1.22	54	I D	完
185		6.81	3.90	0.57	1.38	62	I D	完
186		7.13	4.05	0.56	1.86	74	I D	欠
187		6.40	4.23	0.66	0.95	44	I D	完
188		7.89	4.89	0.61	2.22	108	I D	欠
189		5.83	4.44	0.76	2.01	67	I D	欠
190		7.23	5.39	0.74	0.72	47	I D	形完
191		6.83	4.84	0.70	1.23	46	I D	欠
192		6.12	5.44	0.88	1.94	92	I D-SD	完
193		7.94	4.72	0.59	1.45	79	I D-SD	完
194		6.69	4.28	0.63	2.20	112	I D-SD	完
195		7.62	4.84	0.63	2.34	127	I D-SD	欠
196		5.72	5.45	0.95	1.44	62	I D-SD	未製品

第3表 石锤·一览表(5)

	実測器番号	長 (cm)	幅 (cm)	長幅比	厚 (cm)	重 (g)	出土区	遺存度	備考
197		6.40	4.42	0.69	1.48	57	I D-SD	完	
198		6.15	4.18	0.67	1.30	51	I D-SD	完	
199		4.77	5.45	1.14	1.30	53	I D-SD	半	
200		6.12	3.78	0.61	1.10	46	I D-SD	欠	
201	262	7.40	4.38	0.59	1.68	79	I D-SD	完	
202		6.72	4.83	0.71	1.50	73	I E	完	
203		6.11	4.12	0.67	1.11	39	I E	完	
204	212	5.95	4.84	0.81	1.12	44	I E	完	
205		6.51	4.83	0.74	1.22	62	I E	破	
206		7.22	6.22	0.86	2.00	130	I E	完	
207		7.62	5.00	0.65	2.61	144	I E	完	
208		5.49	4.01	0.74	1.11	36	I E	欠	
209		6.50	4.72	0.72	1.51	59	I E	欠	
210		6.25	5.60	0.89	1.12	61	I E	形完	
211	211	6.46	5.48	0.84	1.60	79	I E	完	
212		6.04	3.22	0.46	1.21	50	I E	完	
213		7.83	4.02	0.51	1.32	73	I E-SA	形完	
214		6.44	5.45	0.84	1.00	73	I E-SA	完	
215		6.33	4.62	0.72	0.94	35	I E-SA	形完	
216		7.12	6.00	0.84	1.84	133	I E-SA	完	
217		5.62	4.23	0.75	1.60	60	I E-SA	欠	
218	213	10.70	4.85	0.45	1.72	121	I E-SA	完	
219		5.99	4.96	0.82	1.78	72	I E-SA	形完	
220		7.07	4.34	0.61	1.49	70	I E-SA	完	
221		8.29	5.51	0.66	1.97	135	I E-SA		未製品
222		7.28	5.38	0.73	1.19	73	II	完	
223		8.22	4.51	0.54	2.22	113	II	完	
224	250	7.55	5.62	0.74	2.25	148	II	完	
225		6.33	4.45	0.70	1.12	53	II	完	
226		6.73	5.50	0.81	1.40	69	II	欠	
227		6.50	5.51	0.84	2.45	127	II	完	
228		6.12	5.25	0.85	1.19	62	II	完	
229		6.73	5.01	0.74	1.70	79	II B	完	
230		7.82	3.31	0.42	1.17	45	II C	完	
231	216	6.67	4.22	0.63	1.87	75	II C	完	
232		7.20	3.70	0.51	1.32	51	II C	形完	
233		6.72	4.32	0.64	1.60	75	II C	完	
234		6.59	5.10	0.77	1.78	102	II C	完	
235		7.11	5.35	0.75	1.39	78	II C	完	
236		6.28	4.17	0.66	1.21	49	II C	完	
237		7.22	4.33	0.59	1.62	70	II C	形完	
238	221	8.30	5.11	0.61	1.84	119	II C	完	
239		5.83	5.72	0.98	1.61	60	II C	完	
240		7.51	5.11	0.68	2.01	99	II C	完	
241		8.83	5.94	0.67	1.34	114	II C	完	
242		6.22	3.50	0.56	1.61	48	II C	完	
243		6.23	5.45	0.87	1.11	62	II C	完	
244		5.84	3.84	0.65	1.50	54	II C	完	
245		6.44	4.84	0.75	1.01	51	II C	完	

第3表 石錘一覧表(6)

実測器番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	遺存度	備考
246	6.94	4.95	0.71	1.83	85	II C	完	
247	217	6.40	5.60	0.87	1.72	94	II C	完
248		7.33	4.50	0.61	1.12	63	II C	完
249		7.11	4.45	0.62	1.33	56	II C	形完
250		7.22	4.45	0.61	1.50	79	II C	完
251		6.12	5.11	0.83	1.61	74	II C	完
252		6.23	5.51	0.88	1.12	56	II C	完
253		6.22	4.62	0.74	1.33	56	II C	完
254		6.34	4.61	0.72	1.95	87	II C	完
255		6.73	4.12	0.61	2.00	84	II C	完
256	220	7.61	4.12	0.54	1.44	70	II C	完
257		8.11	5.44	0.67	2.00	119	II C	完
258		7.22	4.72	0.65	1.34	65	II C	完
259		6.23	4.84	0.77	1.62	77	II C	完
260	219	7.61	5.83	0.76	1.73	108	II C	完
261		5.72	4.73	0.82	1.51	60	II C	完
262		7.23	5.22	0.72	1.44	78	II C	完
263		6.61	5.41	0.81	1.90	94	II C	完
264		5.90	4.88	0.82	1.32	56	II C	形完
265		5.84	4.73	0.80	1.12	57	II C	形完
266	214	9.15	7.80	0.85	3.20	320	II C	完
267		5.84	5.12	0.87	1.45	65	II C	完
268		6.12	4.72	0.77	1.94	80	II C	形完
269		6.94	4.61	0.66	1.50	80	II C	形完
270		6.84	3.72	0.54	1.11	39	II C	欠
271		7.33	3.50	0.47	1.72	72	II C	欠
272	215	6.72	5.11	0.76	1.72	85	II C	完
273		6.00	3.50	0.58	1.11	26	II C	欠
274		5.23	4.01	0.76	1.22	46	II C	完
275		7.84	5.22	0.66	1.50	85	II C	欠
276		3.50	3.62	1.03	1.01	16	II C	破
277	218	10.50	2.83	0.26	1.45	67	II C	完
278		6.73	4.72	0.70	2.45	109	II C	完
279		6.00	5.02	0.83	1.56	52	II C	欠
280		5.81	4.78	0.82	1.66	76	II C	完
281		4.98	3.26	0.65	1.45	31	II C	欠
282		4.95	4.31	0.87	1.29	46	II C	完
283		6.29	4.82	0.76	1.99	80	II C	完
284		5.92	4.89	0.82	1.30	46	II C	半
285		6.42	4.30	0.66	1.21	49	II C	欠
286		4.73	4.45	0.94	1.12	37	II C	欠
287		7.06	3.39	0.48	1.61	47	II C	完
288		4.28	4.06	0.94	1.44	34	II C	半
289		9.16	4.50	0.49	1.61	87	II C	完
290		7.73	5.49	0.71	1.49	95	II C	完
291		7.62	4.72	0.61	1.50	86	II C	未製品
292		5.95	4.34	0.72	1.61	51	II C	形完
293		7.50	4.84	0.64	2.33	108	II C	完
294		4.33	4.00	0.92	0.89	23	II C	半

第3表 石錐一覧表(7)

支滴回番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	遺存度	備考
295	6.08	5.40	0.88	1.70	69	II C-P10	完	
296	5.84	5.23	0.89	1.84	71	II C-P10	完	
297	7.62	4.73	0.62	1.62	95	II C-P10	形完	
298	6.51	5.62	0.86	1.95	99	II C-SD	完	
299	7.39	6.50	0.87	2.72	194	II C-SD		卯石
300	223	4.04	3.32	0.82	0.59	13	II D	完
301		7.27	4.29	0.59	1.48	74	II D	完
302		6.62	5.25	0.79	1.60	75	II D	完
303		6.91	4.42	0.63	0.61	70	II D	完
304		7.18	5.70	0.79	1.79	124	II D	完
305		6.82	4.69	0.68	1.45	71	II D	形完
306		7.61	5.05	0.66	2.34	115	II D	完
307		6.22	4.23	0.68	1.44*	52	II D	完
308		6.72	3.61	0.53	1.45	55	II D	完
309		7.95	3.62	0.45	1.33	54	II D	完
310		6.12	4.00	0.63	1.00	44	II D	完
311		6.83	5.23	0.76	1.50	81	II D	完
312		7.62	4.50	0.59	1.44	65	II D	完
313		5.83	6.01	1.03	1.11	63	II D	完
314	224	10.18	4.45	0.43	1.40	85	II D	完
315		6.34	4.44	0.70	1.50	59	II D	完
316		6.83	5.83	0.85	2.11	119	II D	完
317		5.97	5.11	0.85	1.93	76	II D	完
318		5.72	4.94	0.86	1.51	61	II D	完
319		6.50	4.95	0.75	1.12	45	II D	破
320		6.72	5.44	0.80	1.73	95	II D	完
321		6.84	4.61	0.67	1.62	67	II D	欠
322		8.45	4.84	0.57	1.61	101	II D	完
323		6.34	4.84	0.76	1.84	82	II D	完
324		6.01	4.73	0.78	2.11	67	II D	欠
325		7.01	5.12	0.73	2.22	110	II D	木製品
326		3.38	4.96	0.46	0.82	24	II D	半
327		7.03	4.62	0.65	1.52	81	II D	欠
328		6.53	5.18	0.79	1.37	62	II D	欠
329		7.95	5.56	0.69	1.45	88	II D	形完
330		8.40	7.39	0.87	1.50	140	II D	完
331		5.56	4.28	0.76	1.89	69	II D	完
332		6.73	5.34	0.79	1.56	82	II D	完
333		5.00	4.49	0.89	1.56	40	II D	欠
334		7.12	4.62	0.64	1.84	75	II D	完
335		7.45	6.61	0.88	2.22	143	II D	スケレイバー
336		6.40	4.95	0.77	1.52	83	II E	完
337		7.18	5.00	0.69	1.29	68	II E	完
338		8.55	4.77	0.55	1.30	86	II E	完
339		6.95	4.73	0.68	1.42	75	II E	完
340		6.19	5.78	0.93	1.48	63	II E	形完
341		6.58	4.58	0.69	1.72	80	II E	完
342		6.51	4.44	0.68	1.50	53	II E	完
343		6.83	5.11	0.74	2.00	95	II E	完

第3表 石錘一覧表(8)

実測品番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	造形度	備考
344	8.11	5.10	0.62	1.61	106	II E	完	
345	6.01	4.61	0.76	1.45	53	II E	半	
346	226	6.72	5.12	0.76	1.22	59	II E	完
347		8.01	5.34	0.66	1.73	124	II E	完
348		6.94	5.94	0.85	1.33	78	II E	完
349	230	7.60	5.20	0.68	1.62	98	II E	完
350		8.83	5.44	0.61	1.44	102	II E	完
351		10.61	4.73	0.44	1.50	117	II E	完
352		5.50	4.11	0.74	1.45	49	II E	完
353		6.84	5.00	0.73	2.00	84	II E	完
354		6.45	4.62	0.71	1.31	64	II E	完
355		5.51	4.45	0.80	1.84	59	II E	完
356	229	5.55	3.90	0.70	1.50	46	II E	完
357		7.01	5.01	0.71	2.23	124	II E	完
358		6.38	5.13	0.80	1.26	58	II E	形完
359		6.83	4.62	0.67	1.96	98	II E	完
360		5.37	5.16	0.96	1.28	76	II E	完
361		6.99	5.33	0.76	0.82	53	II E	形完
362		7.22	4.58	0.63	2.26	114	II E	完
363		7.50	4.62	0.61	2.21	109	II E	完
364		7.24	4.02	0.55	1.68	77	II E	形完
365	231	8.49	4.35	0.51	1.27	75	II E	完
366		6.22	4.61	0.74	1.34	59	II E	欠
367		6.84	5.45	0.79	1.83	100	II E	完
368		6.94	4.23	0.60	1.51	62	II E	形完
369		5.34	5.12	0.80	1.00	47	II E	形完
370		7.50	5.50	0.73	1.73	109	II E	形完
371		6.23	4.51	0.72	1.33	61	II E	完
372		7.72	6.33	0.81	2.11	136	II E	破
373		7.23	6.83	0.94	2.50	175	II E	未製品
374		6.00	4.45	0.74	2.00	55	II E	欠
375		7.00	5.11	0.73	1.62	75	II E	欠
376		5.45	6.61	1.21	2.00	115	II E	半
377		6.62	4.22	0.63	2.11	79	II E	完
378		7.01	4.11	0.58	0.94	29	II E	欠
379		10.01	4.11	0.41	2.45	128	II E	完
380		6.12	5.45	0.89	1.45	73	II E	未製品
381		6.95	4.50	0.64	1.11	43	II E	破
382		4.84	4.94	1.02	1.22	32	II E	破
383		3.72	4.59	1.30	1.83	39	II E	半
384		5.78	4.32	0.74	1.64	59	II E	欠
385		6.53	4.92	0.75	1.54	68	II E	欠
386		6.77	4.83	0.71	1.58	87	II E	完
387		7.87	5.30	0.67	1.99	133	II E	完
388		5.00	4.01	0.80	1.07	30	II E	欠
389		4.05	5.07	1.25	0.60	15	II E	半
390		7.02	5.52	0.78	0.68	37	II E	半
391		7.03	4.92	0.69	1.80	92	II E	完
392		7.14	4.77	0.66	1.68	96	II E	完

第3表 石錘一覧表(9)

	実測番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	遺存度	備考
393		6.30	5.57	0.88	1.82	88	II E	完	
394		6.74	4.33	0.64	0.82	32	II E	破	
395		5.40	3.67	0.67	1.30	44	II E		未製品
396		6.72	5.01	0.74	1.73	77	II E	完	
397		7.59	5.80	0.76	1.56	106	II E	完	
398		7.17	5.39	0.75	1.61	102	II E	完	
399		7.00	5.72	0.81	1.61	83	II E	欠	
400		9.83	5.23	0.53	1.34	82	II E	形完	
401		5.34	3.90	0.73	0.90	23	II E	破	
402		8.20	5.00	0.60	2.62	149	II E		
403		6.72	4.94	0.73	1.84	100	II E	完	
404		4.97	5.50	1.10	1.68	60	II E-P38	完	
405		7.71	5.88	0.76	2.24	155	II E-P39	完	
406		7.30	4.27	0.58	1.72	81	II E-SA	完	
407	232	6.83	5.12	0.74	1.83	89	II E-SA	完	
408		6.70	4.28	0.63	1.39	64	II E-SA	完	
409		5.61	4.84	0.66	1.73	73	II E-SA	欠	
410		6.84	5.50	0.80	1.40	62	II E-SA	形完	
411		7.33	4.83	0.65	2.00	91	II F	完	
412		6.34	5.44	0.85	1.50	76	II F	形完	
413		7.84	4.23	0.53	1.84	95	II F	完	
414	234	6.57	5.57	0.84	1.75	93	II F	完	
415	233	8.11	6.67	0.82	1.88	160	II F	完	
416		7.61	4.73	0.62	1.84	82	II F	欠	
417		6.83	4.50	0.65	1.45	71	II F	欠	
418		4.00	4.12	1.03	0.50	15	II F	手	
419	235	6.45	6.31	0.97	1.83	100	II F	完	
420		7.11	5.90	0.82	1.79	113	II F	完	
421	236	5.98	5.21	0.87	1.88	84	II F	形完	
422	237	5.67	3.48	0.61	1.00	29	II F	完	
423		6.82	4.57	0.67	1.52	59	II F	完	
424		7.59	10.03	1.32	2.32	308	II F	手	
425		3.72	3.50	0.94	0.92	20	II F		
426		7.74	4.30	0.55	1.82	91	II H	完	
427	243	7.43	5.32	0.71	2.38	145	II H	完	
428		7.61	6.40	0.84	1.53	115	II H	完	
429		7.95	4.72	0.59	1.83	105	II H	完	
430		7.83	4.12	0.52	1.50	66	II H	完	
431		7.22	6.11	0.84	1.95	120	II H	完	
432		7.83	5.34	0.68	1.84	117	II H	完	
433		7.62	4.84	0.63	1.73	103	II H	完	
434		5.73	4.95	0.86	1.95	76	II H	完	
435	239	5.23	3.44	0.65	0.83	23	II H	形完	
436		6.95	6.22	0.89	2.01	124	II H	完	
437		4.62	4.00	0.86	1.23	34	II H		未製品
438		6.12	4.34	0.70	1.34	53	II H	欠	
439	242	5.11	3.94	0.77	1.22	32	II H	完	
440		5.95	3.94	0.66	0.62	25	II H	形完	
441	238	8.50	7.23	0.85	1.51	145	II H	形完	

第3表 石斧一覧表(10)

実測番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	通密度	備考
442	7.11	5.11	0.71	1.23	58	II H	欠	
443	10.33	3.90	0.37	1.40	66	II H	欠	
444	241	4.23	2.90	0.68	0.82	15	II H	完
445		6.79	6.08	0.89	1.23	74	II H	欠
446	240	7.69	5.28	0.68	2.28	114	II H	形完
447		4.33	3.45	0.79	1.00	22	II H	完
448		6.33	4.50	0.71	1.94	79	II H	完
449	248	11.68	3.92	0.33	1.29	85	II I	完
450	247	6.68	5.12	0.76	2.28	108	II I	完
451	246	5.57	4.42	0.79	1.29	47	II I	完
452		7.94	4.10	0.51	1.50	72	H	完
453		7.95	4.72	0.59	1.50	83	II I	完
454		6.02	4.72	0.78	1.73	72	II I	完
455	249	8.55	4.87	0.56	1.49	97	II I	完
456	244	6.83	2.95	0.43	1.12	35	II I	完
457	245	7.22	6.05	0.83	1.84	108	II I	完
458		9.34	5.72	0.61	1.45	104	II I	形完
459		6.40	5.49	0.85	1.72	85	II I	完
460		7.50	3.23	0.43	1.72	62	III?	形完
461		7.68	5.12	0.66	2.15	131	III A	完
462		6.95	4.12	0.59	1.95	73	III A	破
463		9.50	4.45	0.46	1.23	82	III B	形完
464		6.31	4.21	0.66	1.55	51	III B	形完
465		8.21	3.54	0.43	1.58	88	III B	形完
466		6.92	4.48	0.64	1.68	71	III B	形完
467		5.66	5.08	0.89	2.31	95	III B	形完
468		6.45	5.07	0.78	1.50	69	III B	形完
469		5.60	4.41	0.78	1.60	60	III B	形完
470		8.35	7.00	0.83	1.94	175	III B	形完
471		7.60	4.83	0.63	2.44	129	III B	完
472		7.33	6.00	0.81	1.44	90	III B	形完
473		8.11	6.45	0.79	1.72	130	III B	破
474		6.61	5.50	0.83	1.50	61	III B	破
475		5.90	4.73	0.80	1.20	51	III B	破
476		7.62	4.84	0.63	1.23	62	III B	
477		6.12	3.97	0.64	1.43	52	III B	形完
478		5.91	3.00	0.50	1.02	32	III B	
479		7.48	3.84	0.51	1.53	68	III B	破
480		6.84	4.83	0.70	1.12	61	III B	形完
481		6.48	3.32	0.51	1.46	45	III C	完
482		7.72	4.50	0.58	1.33	54	III C	破
483		10.11	5.70	0.56	3.23	268	III C	
484		6.13	4.85	0.79	1.11	46	III C	形完
485		7.83	3.94	0.50	1.73	92	III C	欠
486		6.72	4.90	0.72	1.97	100	III D	形完
487		7.19	5.68	0.78	1.81	121	III D	完
488		6.32	4.38	0.69	1.21	46	III D	形完
489		6.83	4.94	0.72	1.73	73	III D	完
490		6.95	5.34	0.76	1.50	82	III D	完

第3表 石錐一覧表(1)

	実測四番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	遺存度	備考
491		8.95	4.73	0.52	1.50	97	Ⅲ D	形完	
492		6.72	6.50	0.96	1.72	115	Ⅲ D	完	
493		7.00	6.34	0.90	1.84	125	Ⅲ D	形完	
494		6.84	5.12	0.74	1.33	79	Ⅲ D	完	
495		5.72	4.23	0.73	0.83	31	Ⅲ D	欠	
496		7.30	5.91	0.80	1.41	87	Ⅲ D	完	
497		4.89	4.61	0.94	1.39	49	Ⅲ D		未製品
498		5.45	5.50	1.00	1.61	79	Ⅲ D		未製品
499		6.43	4.75	0.73	1.21	60	Ⅲ E	形完	
500		6.01	4.73	0.78	2.34	89	Ⅲ E	形完	
501		6.72	4.61	0.68	1.73	73	Ⅲ E	形完	
502		6.73	5.45	0.80	1.50	83	Ⅲ E	形完	
503		6.73	4.62	0.68	1.11	53	Ⅲ E	完	
504		6.44	5.23	0.81	1.94	96	Ⅲ E	形完	
505		5.51	4.48	0.81	1.33	45	Ⅲ E		
506		7.50	4.50	0.60	1.90	91	Ⅲ E	形完	
507		6.34	5.56	0.87	2.39	116	Ⅲ E	完	
508		7.72	6.34	0.82	2.11	112	Ⅲ E		未製品
509		7.22	5.50	0.76	1.73	118	Ⅲ F	形完	
510		7.22	4.01	0.55	1.72	76	Ⅲ F	形完	
511		3.62	3.39	0.93	0.83	14	Ⅲ F		
512	260	7.80	6.09	0.78	2.58	203	表採	完	
513		7.81	5.50	0.70	1.52	122	表採	完	
514		6.76	5.29	0.78	1.38	74	表採	完	
515	261	6.88	5.25	0.76	2.03	109	表採	完	
516		6.43	3.95	0.61	1.52	60	表採	完	
517		7.49	6.25	0.83	1.69	119	表採	欠	
518		7.19	4.72	0.65	1.78	90	表採	完	
519		5.95	5.84	0.98	1.95	94	表採	完	
520		6.84	5.04	0.73	1.83	82	表採	完	
521		7.50	5.61	0.74	1.61	93	表採	完	
522		6.62	5.10	0.77	1.34	101	表採	完	
523	256	7.50	4.48	0.59	2.38	138	表採	完	
524	259	7.20	5.83	0.80	1.61	91	表採	完	
525		8.22	5.33	0.64	2.45	175	表採	完	
526		10.73	4.62	0.43	1.61	132	表採	完	
527		9.11	5.95	0.76	2.00	165	表採	完	
528		7.60	4.22	0.55	2.22	86	表採	完	
529		7.22	5.45	0.75	1.83	106	表採	完	
530		7.84	6.33	0.80	2.23	149	表採	完	
531		7.94	5.00	0.62	1.45	93	表採	完	
532		8.22	4.23	0.51	1.61	94	表採	完	
533		8.34	5.23	0.62	1.51	100	表採	完	
534		6.73	5.79	0.86	1.11	70	表採	完	
535		6.22	5.01	0.80	1.78	79	表採	完	
536		7.11	4.62	0.64	1.47	77	表採	形完	
537	253	9.44	4.35	0.46	1.72	123	表採	完	
538		6.25	4.12	0.65	1.31	55	表採	完	
539		6.15	5.13	0.83	1.67	84	表採	完	

第3表 石錐一覧表(12)

実測番号	長(cm)	幅(cm)	長幅比	厚(cm)	重(g)	出土区	遺存度	備考
540	257	6.95	5.12	0.73	1.43	72	表採	完
541		6.34	5.11	0.80	1.83	82	表採	形完
542		8.23	5.83	0.70	1.80	101	表採	欠
543		7.94	4.96	0.61	2.01	109	表採	半
544		8.45	4.80	0.56	2.12	125	表採	完
545		7.44	6.34	0.85	2.40	162	表採	完
546		7.07	5.61	0.79	0.99	47	表採	形完
547		6.45	4.61	0.71	1.02	49	表採	破
548		7.87	3.65	0.46	1.38	70	表採	完
549		7.22	4.84	0.67	1.45	74	表採	完
550		7.23	5.17	0.71	1.28	71	表採	完
551		8.40	5.50	0.65	2.12	131	表採	形完
552		7.83	6.78	0.86	1.45	113	表採	欠

第4節 III区の調査

III区はII区の南側にあたる道路の直線部分で、延長は165m、面積的には約500m²が対象となつた。調査はI区・II区同様、道路中央部に平行して埋設されているパイプラインを除いた部分を北側から順次（A～II地点）トレンチ状に発掘調査を行つた。

III区の基本土層は第I層表土・第II層擾乱層・第III層黒色土・第IV層アカホヤ火山灰層・第V層黒褐色ローム層・第VI層褐色ローム層・第VII層明褐色ローム層である。全地域アカホヤ火山灰層の残存状況は良好であるが、D地点で傾斜がはじまり、F地点まで続く。深いところでは1.8mもあり、北側とは1.2m以上の差があることから、旧地形では本地域は小さな谷状になつてゐたと考察される。

このうち第II層の擾乱層は最も厚く、遺物もこの第II層から主に出土している。

〔1〕遺構（第49図～第51図・図版22～24）

III区から検出された遺構は別表4のとおりであるが、多数のピットとわずかの溝状遺構及び土坑が検出されているのみで、縄文時代早期の集石遺構や古墳時代後期の竪穴式住居跡などが検出されたI区・II区とは様相を異にしている。

▷溝状遺構

1号溝状遺構はB地点から検出された溝で、ほぼ南北に延びており、幅0.7m・深さ0.1m・現存長2.5mを計る。遺物は出土していない。

2号溝状遺構はF地点から検出されているが、不整形で蛇行している。幅1.0m・深さ0.8m・現存長2.5mを計る。遺物は石錘が1点出土している。

3号溝状遺構はいちばん南側のH地点から検出されている溝で、ほぼ東西に延びており、幅0.8m・深さ0.3m・現存長1.15mを計る。遺物は出土していない。

4号・5号溝状遺構もH地点から検出された溝で、4号は幅不明・深さ0.2m・現存長5.1m・5号は幅0.4m・深さ0.1m・現存長5.8mを計る。

▷土坑

土坑はA地点から1基、B地点から1基、E地点から3基の総計5基が検出されているが、プランは方形のもの2基、円形のもの2基、楕円形のもの1基である。

遺物はB地点の土坑が最も多く、尾鈴山系の石材を使用した敲石をはじめ石錘や縄文土器が多数出土している。その他、A地点の土坑からは砥石様石器、E地点の土坑からは石皿などが出土している。

第4表 Ⅲ区遺構一覧表

図面	地點	検出遺構				出土遺物
		溝状遺構	土坑	ピット	その他	
第49図	A	(条)	(基)	(個)		石皿・石錘
			楕円形1	9		
々	B	1	方形1	17		縄文土器・須恵器・石錘 染付・青磁・陶器・瓦器 石包丁・石皿
々	C			20		縄文土器・染付・青磁 陶器・石錘・砥石様石器・鉄片 石包丁未製品・石皿
第50図	D			12		縄文土器・染付・須恵器 陶器・瓦器・土錘・石錘
々	E		方形2 楕円形1	7		縄文土器・染付・陶器 磨製石斧・石皿・石錘
第51図	F	1		7		縄文土器・染付・石錘
々	G			9		縄文土器
々	H	3		9		

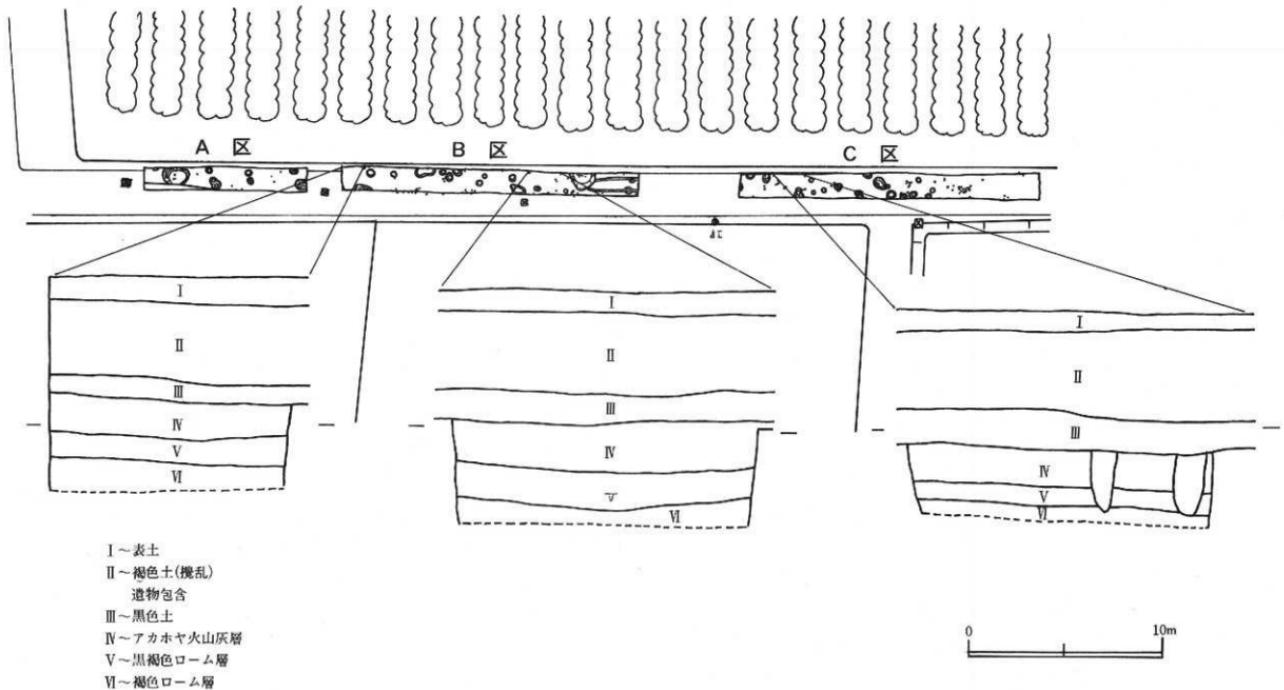
▷ピット

各地点から検出されている。わずかの変形したものを除き、すべて円形で、径0.18~0.47m・深さ0.12~0.47mを計る。このなかには、柱穴も含まれるが、調査範囲が狭小のため掘立柱建物跡の存在は確認できなかった。いずれにしても、何回となく建物が建て替えられたものと推定される。

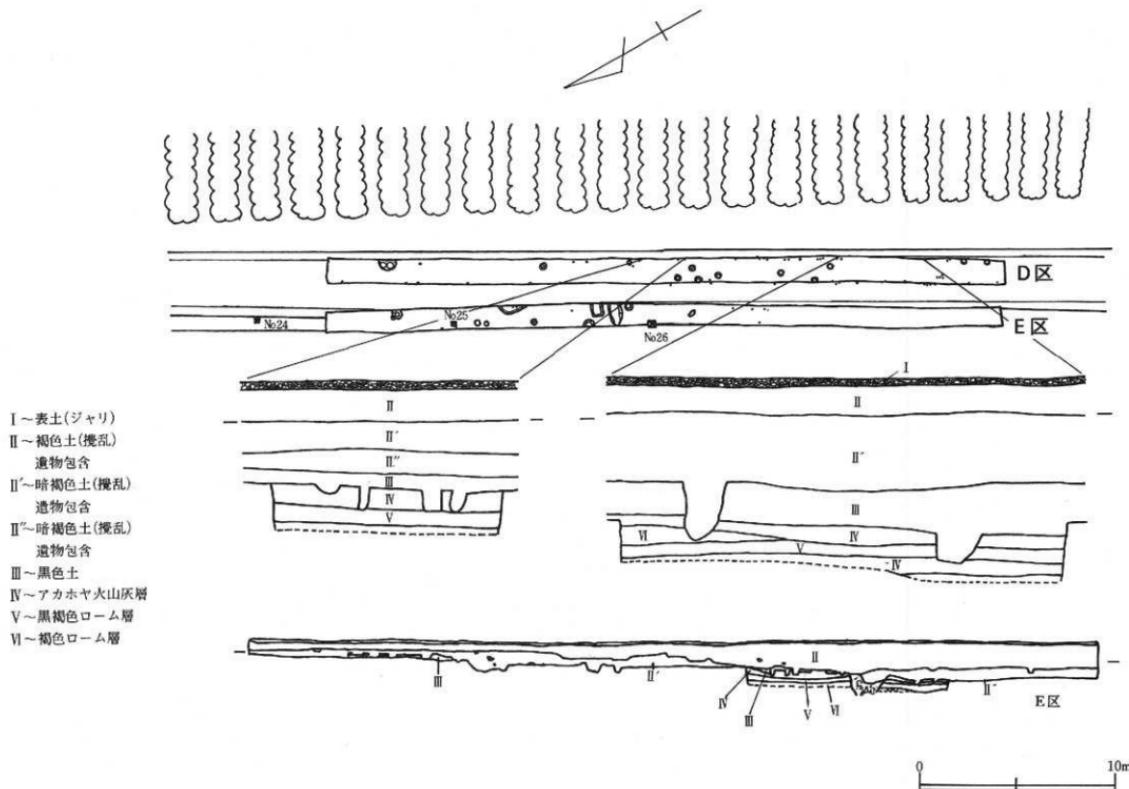
ピット内からは縄文土器・陶器・砥石様石器・石皿などが出土しているが、そのほとんどが混入遺物と思われる。

〔2〕遺物（第52図～55図・図版25～27）

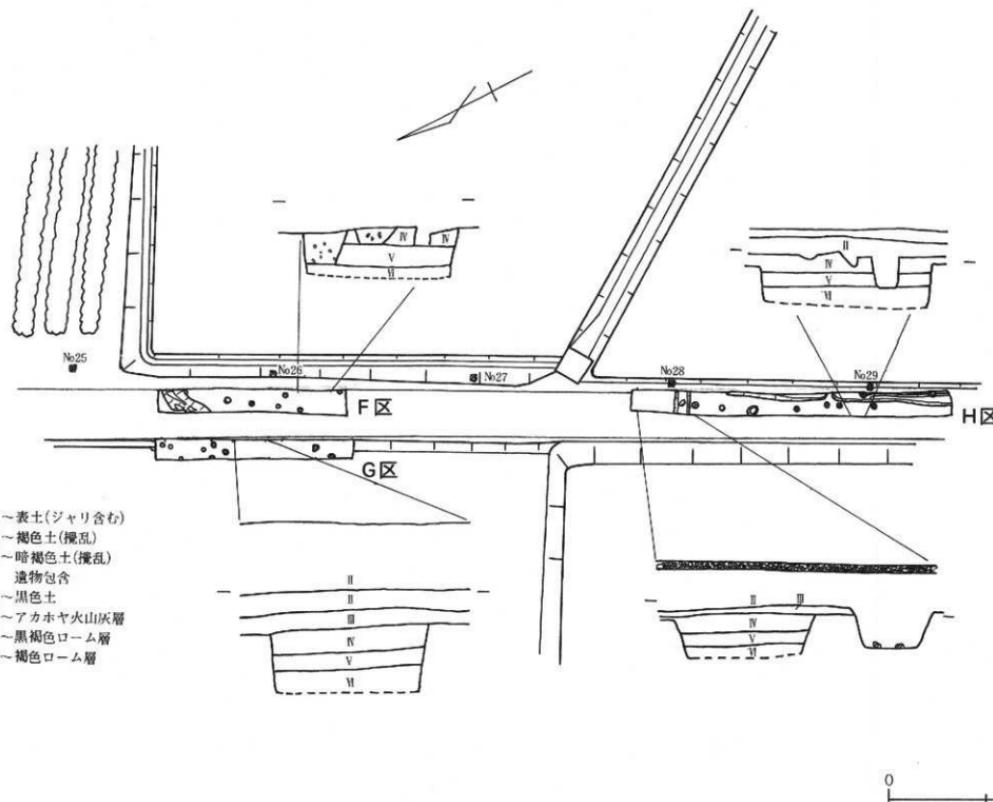
▷縄文土器（第52図・図版25）



第49図 III A区～III C区構造分布図・土層図 (1/200)



第50図 III D区～III E区構造分布図・土層図 (1/200)



第51図 III F区～Ⅲ H区造構分布図・土層図 (1/200)

縄文土器は全体の約50%にあたる約300点程が出土しているが、いずれも小片で、無文土器が多いことから形式や時期など判別が困難なものが多い。圓化した土器は、各形式から主なものを選択したもので、詳細については観察表を参照していただきたい。

- I類 口唇部に斜位の縄文、口縁部内面に沈線によって曲線が描かれたもので、わずかに1点出土している。両面ヘラ磨き調整が施された土器で、磨消縄文系の「北九根山式」前後の鉢形土器と思われる。(1)
- II類 口縁端部が厚く、三角形状を呈するもので、口縁部に1条の沈線が巡らされているものである。(2)
- III類 形に特徴のあるもので、脚台付皿と思われる。(3・4)
- IV類 口縁部付近に円形の孔が連続刺突されたもので、「孔列文土器」と呼ばれているものである。円孔は貫通しているものと(8)いないもの(5~7)があり、内面側から円孔が施されているものも1点出土している。
- V類 貝殻腹縁及びあらいナデ調整が施されたもので、胎土もあらい無文土器である。このV類が量的には最も多い。(9・10)
- VI類 わりと丁寧なヨコナデ調整が施された無文土器で、胎土はV類よりもこまかい。色調もV類の赤褐色系に対し、灰褐色系である。(11)
- 以上、縄文土器を6類に分類したが、文様及び形態などの特徴から、I~III類・V類が縄文後期・IV・VI類が縄文時代晚期に比定される。

▷ 土師器 (第53図・図版25)

B地点及びC地点からそれぞれ1点出土している。14は高台付碗の底部で、胎土は良好で、調整は両面ヨコナデ、色調は浅黄褐色を呈している。

▷ 須恵器 (第53図・図版25)

D地点から1点出土している。15は壺の頸部で、胎土は精良、色調は灰色を呈している。

▷ 青 磁 (第53図・図版25)

B地点及びC地点からそれぞれ1点出土している。16はB地点から出土した稜花皿の口縁部で、色調は灰色を呈し、推定口縁径11.6cmを計る。もう1点は花瓶の把手と思われる。

▷ 染 付 (第53図・図版25)

各地点から全体の約8%にあたる50点程が出土している。器形的には皿類(17・18)及び碗類(19~25)が多く、その他小鉢(26)などが含まれている。文様は草花文や團線などが描かれ、な

かには、見込み部分に蛇目釉剥ぎが施されているもの（24）もあり、バラエティーに富んでいる。

▷ 開 器（第53図・図版25）

B～E地点から12点が出土している。27はC地点のピットから出土した薩摩焼の燭台で、色調は暗褐色を呈し、推定口縁径4.5cm・底部径4cm・器高5.43cmを計る。上部のみ光沢のある釉が施されている。28はC地点から出土した肥前系の碗で、色調は明オリーブ灰色・暗褐色を呈し、高台推定径5.6cmを計る。29はC地点から出土した皿もしくは碗で、両面には光沢のある釉が施され、色調は灰色を呈し、高台推定径3.8cmを計る。30はD地点出土の鉢で、色調は灰色、内面はヨコナデ、底部は糸切り底を呈している。外面のみ釉が施されている。31～33は赤褐色径の色調を呈している擂鉢で、赤備前と言われているものも含まれている。

▷ 土 鐘（第54図・図版26）

D地点から1点出土している。34は現存長3.8cm・最大幅0.85cm・穿孔口径0.45cmを計り、色調はにぶい黄橙色を呈している。

▷ 石 鐘（第54図・図版26）

石鐘は各地点から52点出土している。そのほとんどが頁岩（35～39）及び砂岩（40）が使用されている。形状としては梢円形のもの（35・36・37・38）・長方形状のもの（37）・円形状のもの及び三角形状のものがあるが、梢円形のものが大半を占める。加工はすべて長軸側に施され、そのほとんどが打ち欠き法であるが、唯一切り目石鐘（40）がC地点から出土している。

▷ スクレイバー様石器（第54図・図版27）

B地点及びC地点から出土している。41は半月形状のスクレイバーで、刃部は一部欠損しているものの丁寧に磨かれ加工されている。刃部の反対側直線部分は細かく打ち欠いている。片面は自然面で、かなりの使用痕が残る。片面には主要剥離面を残す。頁岩製。42も刃部を一部欠損するもので、両面に使用痕を残す。頁岩製。

▷ 磨製石斧（第54図・図版27）

E地点から1点出土している。43は刃部は欠損しているものの、蛤刃状を呈している。片面は風化著しく、長さ12.5cm・刃部幅5.5cmを計る。頁岩製。

▷ 砥石様石器（第55図・図版27）

砥石様石器には砂岩製と頁岩製の二種類があり、大きさも大小様々で、量的にもわりと多い。

44は一部欠損し、断面が方形を呈している頁岩製のもので、4面のうち相対する2面に使用痕を残す。45は大きな砂岩製のもので、上部及び側面の片側の2面に使用痕を残す。44はC地点、45はA地点から出土。

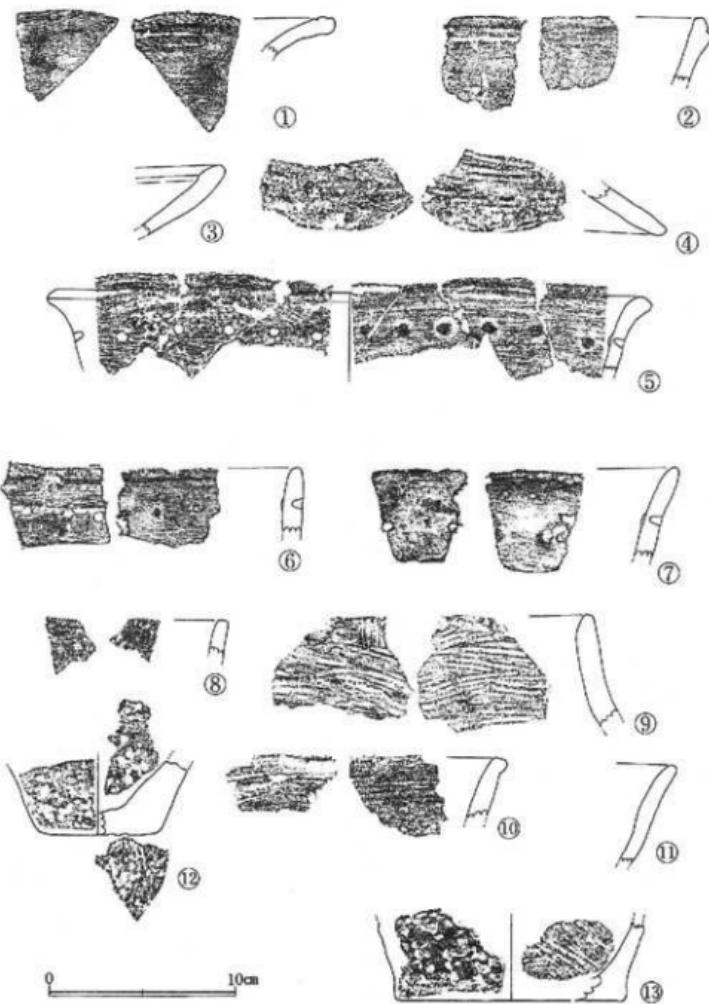
▷石皿（第55図・図版27）

各地点から出土しているが、いずれも砂岩製である。46はE地点の土坑から出土したもので、上面が橢円形状に掘り窪んでいる。

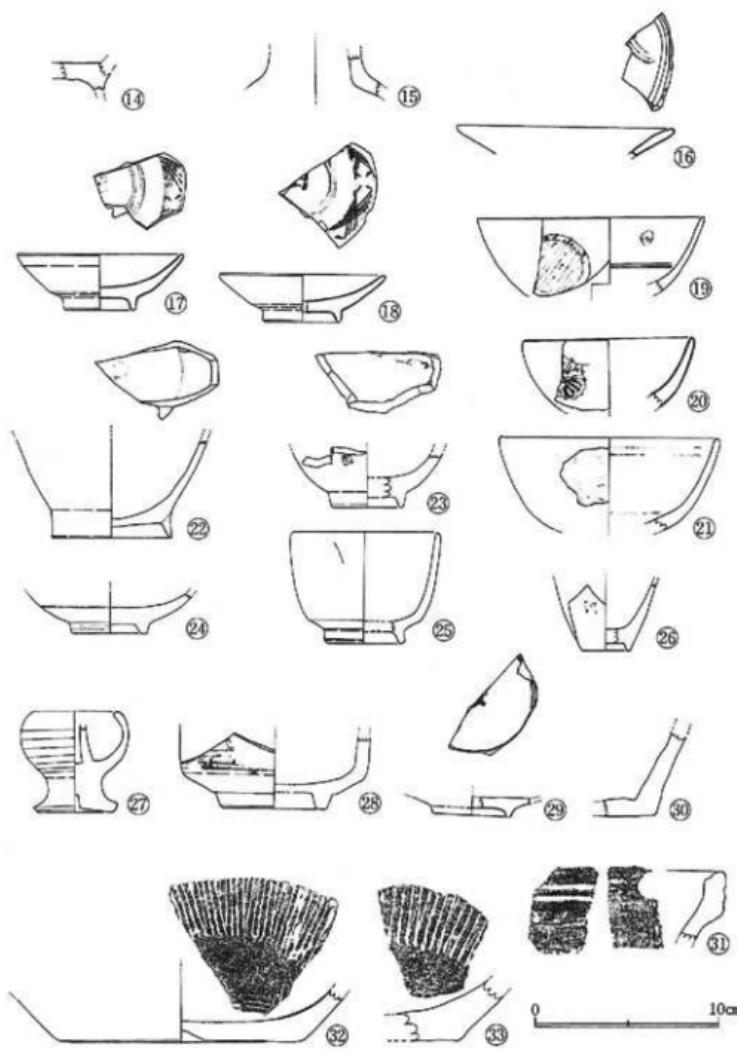
▷敲石（第55図・図版27）

47はB地点の土坑から出土したもので、唯一尾鈴山酸性岩製の石器である。長軸側に敲打面を持つもので、一部が欠損している。

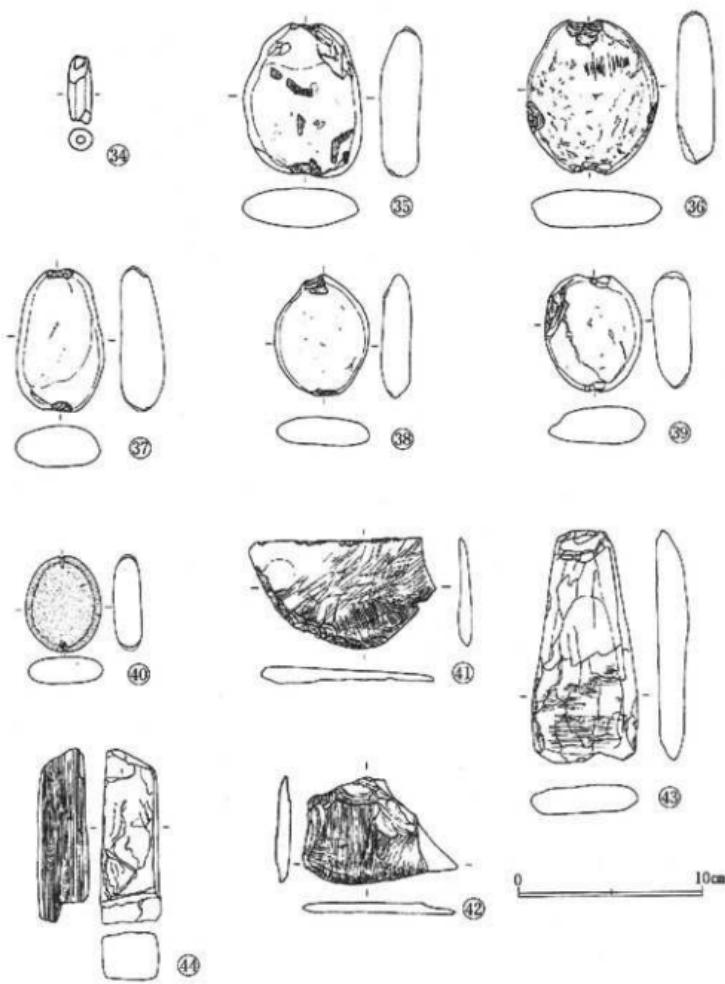
註 遺物については県文化課の菅付和樹氏・東憲章氏・長友郁子氏に御教示をいただいた。ここで、紙面ではありますが厚く御礼を申し上げます。



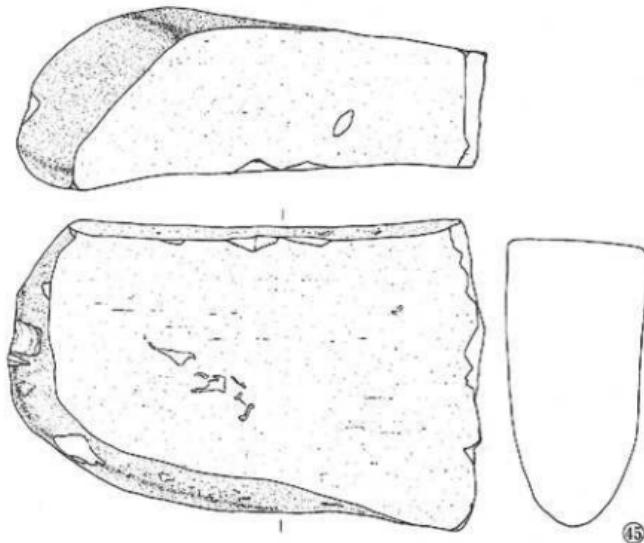
第52図 III区出土 繩文土器 (1/3)



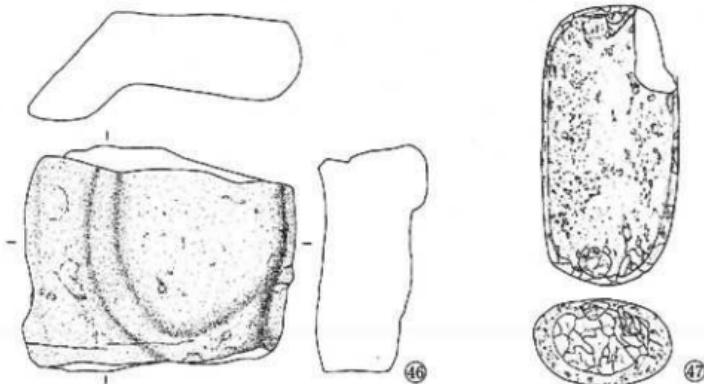
第53図 III区出土 土師器・須恵器青磁・染付・陶器 (1/3)



第54図 III区出土 土錘・石錘・スクレイパー様石器・磨製石斧 (1/3)



⑯



0 10cm

第55図 III区出土 砥石様石器・石皿・敲石 (1/3)

第5表 繩文土器観察表

西面番号	遺物番号	器種	部位	文様及び調査		色調		胎上	備考
				外面	内面	外面	内面		
表記	1	深鉢	口縁部	口唇部に縄文 ヘラ巻き	沈縄による曲線 文ヘラ巻き	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	1mm以下の乳白色の 粒 透明に光る粒	
*	2	*	*	口唇上部に1条 の沈縄・ナデ	ナデ	橙色	橙色	2mm以下の粒少量 透明で光る細砂粒	
*	3	高台付 皿	*	ナデ(鉤)	ヨコナデ	黒褐色	黒褐色	2mm前後の石粒多量	
*	4	*	高台	ナデ	貝殻条痕(横)	橙色	橙色	1~4mmの石粒	
*	5	深鉢	口縁部	連続する無貫通 孔 ナデ(鉤・横)	ヨコナデ	淡黄色	浅黄色	*	
*	6	*	*	連続する無貫通 孔 ナデ(鉤・横)	*	浅 橙 色	灰 褐 色	4~5mmの石粒 1~2mmの砂粒	
*	7	*	*	連続する無貫通 孔 ナデ(鉤)	ナデ(鉤)	にぶい 黄褐色	灰 褐 色	3~4mmの石粒 1~2mmの砂粒	
*	8	*	*	貫通孔 ナデ	ナデ	にぶい 黄褐色	褐灰色	1mm以下の砂粒	風化
*	9	*	*	貝殻条痕 (鉤・横)	貝殻条痕 (鉤・横)			1~2mmの石粒 透明に光る粒	
*	10	*	*	貝殻条痕(横) ナデ	貝殻条痕(横) ナデ	橙色	橙色	4~5mmの石粒 1~2mmの砂粒	
*	11	*	*	ナデ(鉤・横)	ナデ(鉤・横)	褐灰色	褐 青 色	1~3mmの石粒	
*	12	*	底部	ナデ	ナデ	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	1~3mmの石粒 透明に光る粒	風化
*	13	*	*	ナデ	ヨコナデ	橙色	にぶい 黄褐色	4mmの石粒 1~2mmの砂粒	風化

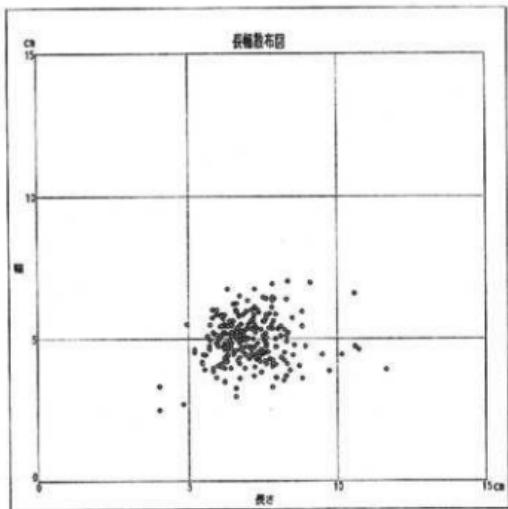
第IV章　まとめ

今回の発掘は、本調査とはいへ長大トレンチによる宝財原遺跡の試掘調査を行ったに等しい。遺跡の全体像を提示することは難しいが、性格の一端は示せよう。確認できた遺跡最古の時期は縄文時代早期で台地の北西縁辺部（I A区）のこの時期の集石遺構3基が検出された。しかし、この時期の遺跡規模はそれほど大きくななく、確認された遺物もI C区で検出された寒ノ神式と見られる深鉢の小破片のみであった。遺跡の最盛期は縄文時代後期（特に後半）で沈線文、磨消縄文系の土器片が多く確認できた。しかし当該期に属する確実な遺構は確認できず。包含層に多量の土器片と石錐等の石器が包蔵されている状況であった。多量の石錐は、この台地に網漁を生業の一つとする集落の存在を推定させるが、少なくとも台地北縁及び中央部では確認できなかつた。集落があったとすれば、II区の西側、I区の南側であったろう。一つの可能性としては、既に破壊されていることが考えられる。というのは、古墳時代、平安後期の住居跡や溝の上部埋土に縄文時代の遺物が包含され、さらに縄文土器包含層の一部にはそれらの遺構を覆っているものが見られたからである。晩期には遺物の減少に見られるとおり、宝財原での営みは衰えてゆき、弥生時代には完全に活動の痕跡がみられなくなる。ここに再び集落が営まれるのは古墳時代の後半期である。I E、II E区で検出された2軒の方形竪穴住居は、古式須恵器出現前後の様相をもつ高坏は見られるものの、それよりは新しい特徴を持つ甕などから古墳時代後期の住居跡と考えられる。しかし、住居跡の密度は低く、ここに大集落が存在したとは考えられない。

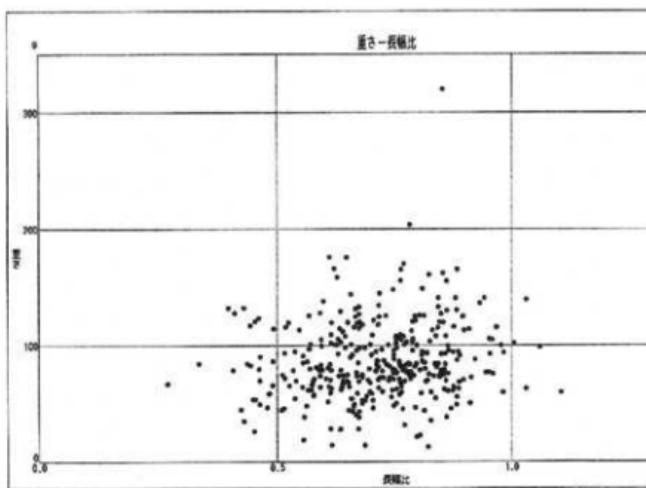
石錐など

石錐は、表採品を含めて536点ある。ほとんどが両端打ち欠き石錐で、切れ目石錐は僅かに2点のみであった。石錐は、長さが7cm前後、幅が5cm前後のものが多く（第56図）、重さは50g～120g程度のものが多い（第57図）。基本的に長軸方向を打ち欠き縱長に使用された（第56図）。切れ目石錐は小型であるが、両端打ち欠き石錐は極端に大、小の石は選択されていない。基本的に網のオモリなど、單一で規格的な大きさの道具のオモリに使用されたようである。

磨石の石材には尾鈴山酸性岩類が使用されていた。採取地としては川南の海岸附近が考えられていて、宮崎県各地に交易された特徴的な石材であるが、宝財原遺跡においては、他の遺跡で発見される磨石とは異なった使用が想定される。一般に尾鈴山酸性岩製の磨石は背と腹が磨り面として使用されるが、ここでは端部、側面が使用され、その部分が極端に摩耗しているのが観察される。単なる、使用者の好みなのか、通常の磨石と使用目的が異なっていたのか判然としない。類例の増加を期待したい。



第56図 石錐長幅散布図



第57図 長幅比—重さ散布図

図 版



(1) 宝財原遺跡遠景（東から）



(2) 遺跡全景（西から）

図版2



(1) IA区 全景(西から)



(2) IA区 集石1



(3) IA区 集石2



(1) IA区 集石3



(2) IC区 遺物出土状況



(3) IC区 土層



(1) ID区・IC区 全景(東から)



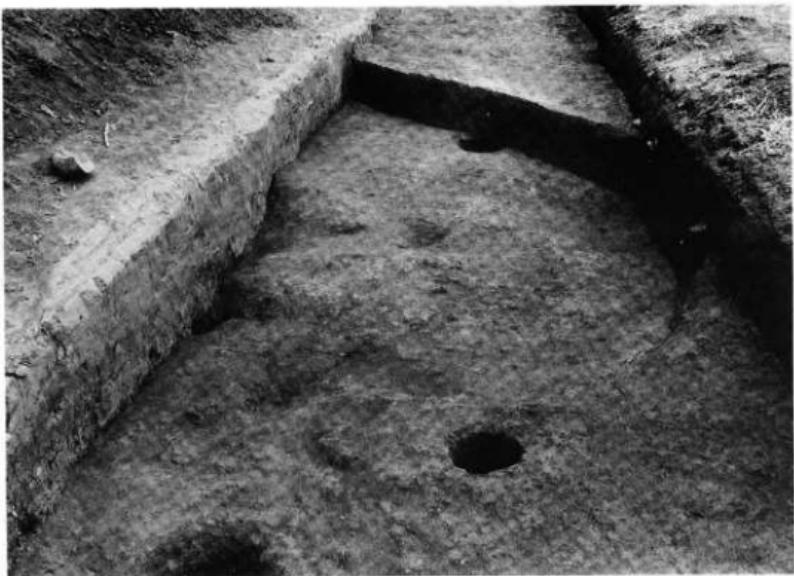
(2) ID区 滅4遺物検出状況



(1) ID区 溝4



(2) I区全景(東E区から)



(1) IE区 住居跡（西から）



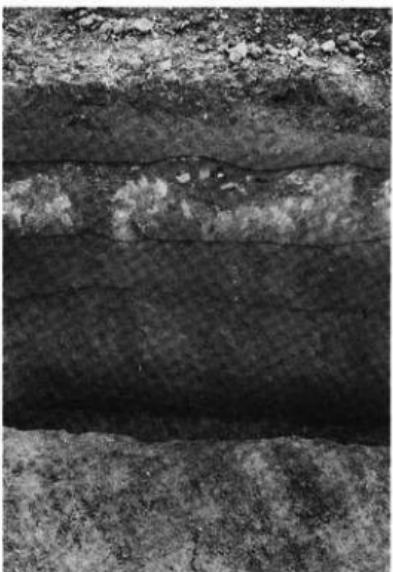
(2) IE区 住居跡（北から）



(1) IE区 土壌(東から)



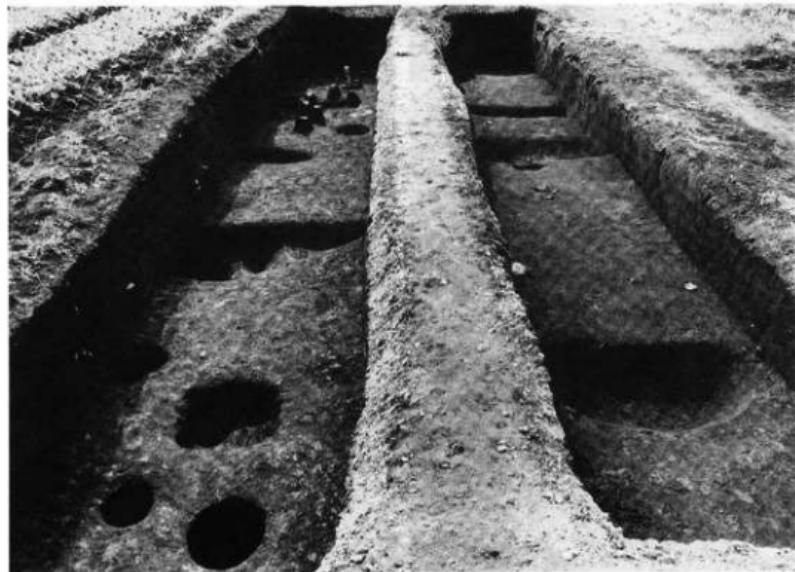
(2) IE区 土壌(東から)



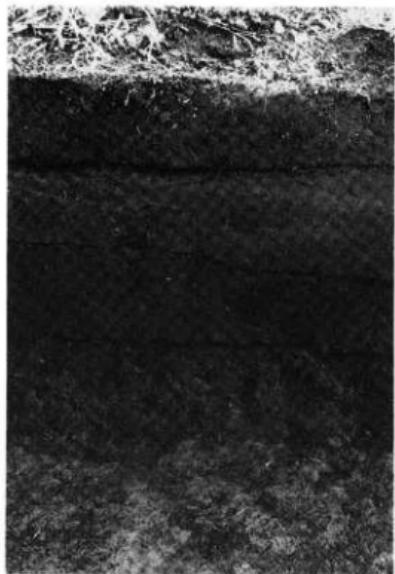
(3) IE区 土層



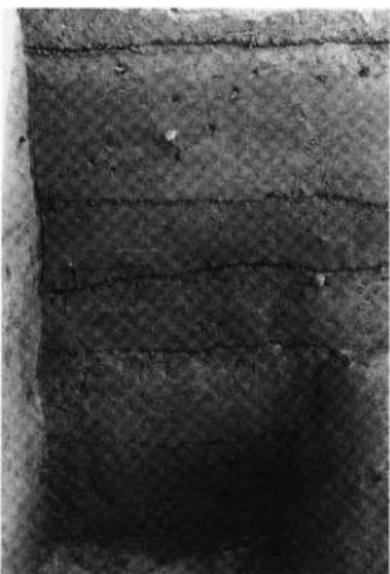
(1) II B区及びII区 全景（北II B区から）



(2) II C区 遺構検出状況（北から）



(1) II C区 土層



(2) II D区 土層



(3) II D区 全景（南から）



(1) II E区 南半遺構検出状況（南から）



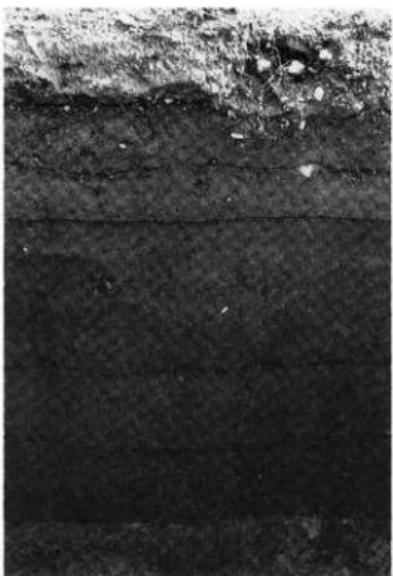
(2) II E区 北半遺構検出状況（北から）



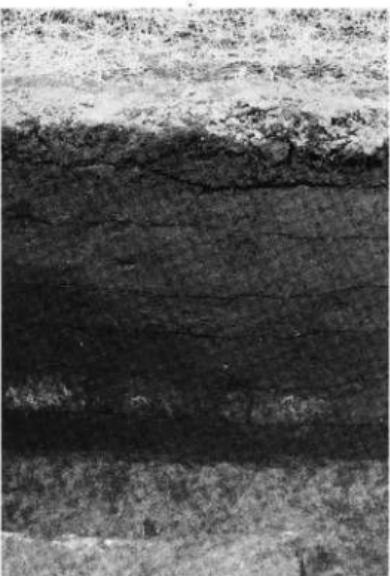
(3) II E区 住居跡埋上遺物検出状況



(4) II E区 住居跡



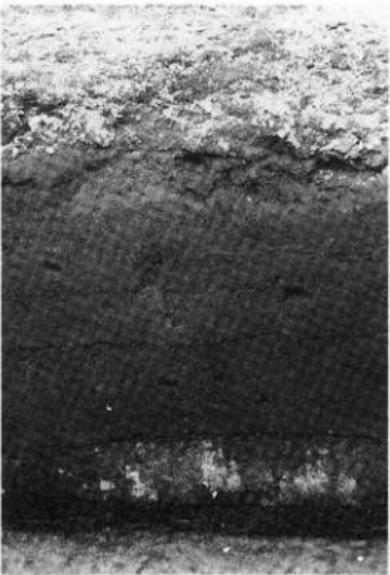
(1) II E区 土層



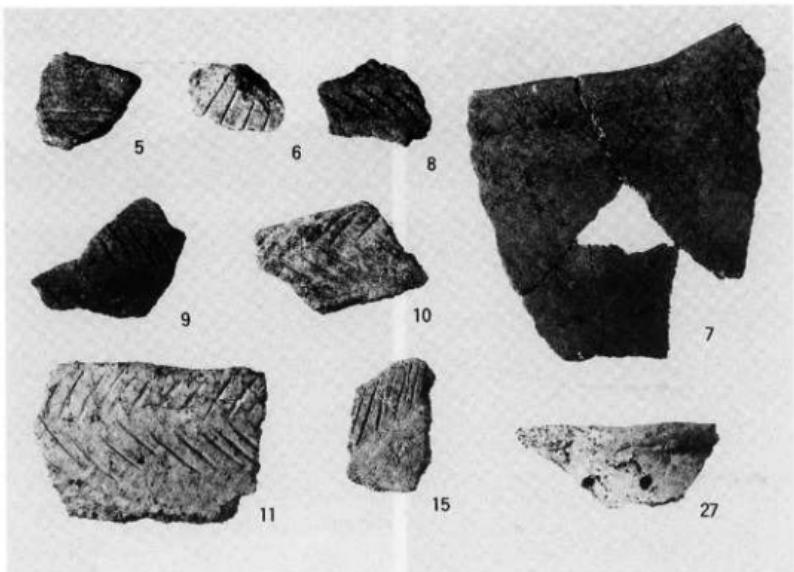
(2) II H区 土層



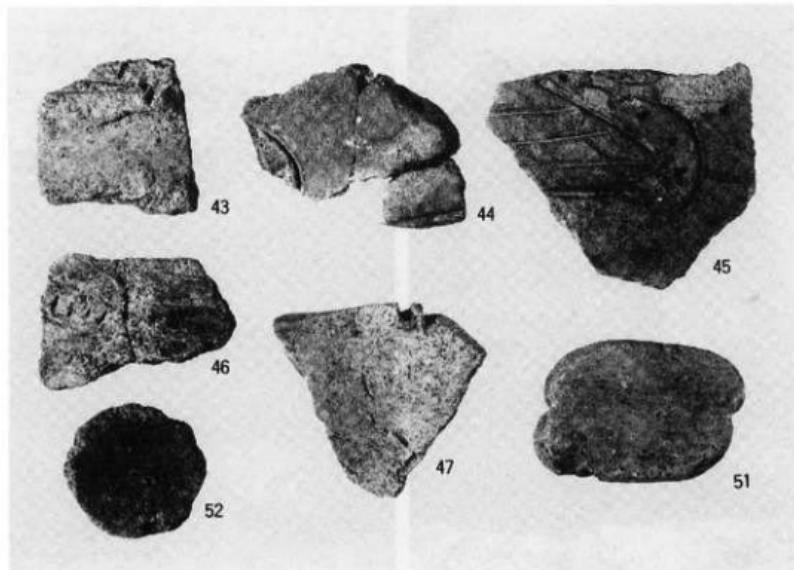
(3) II I区全景(南から)



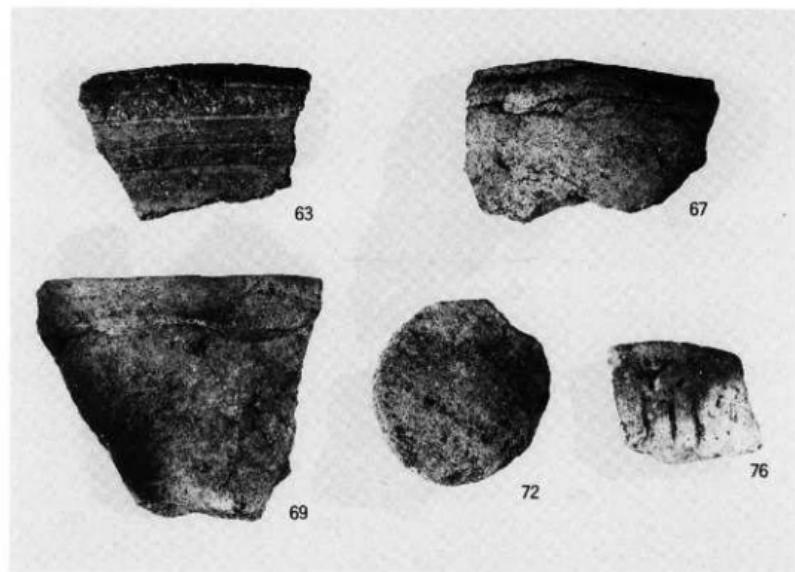
(4) II I区土層



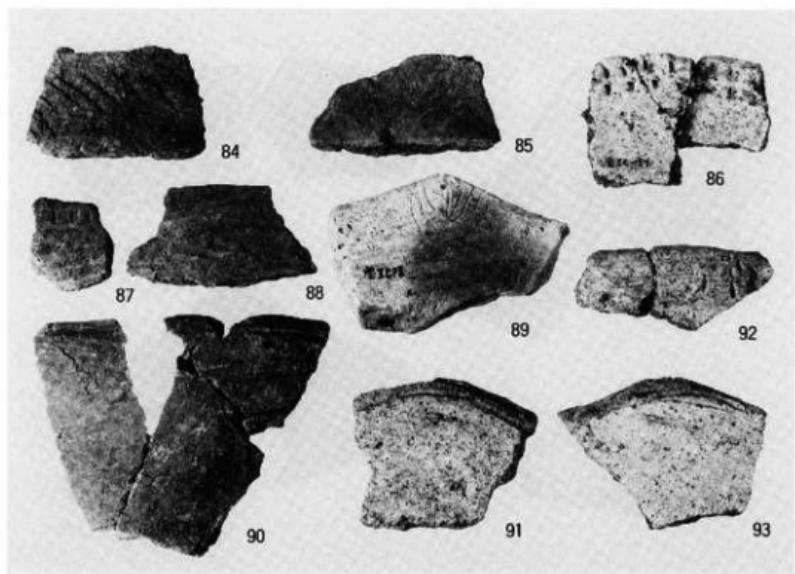
(1) IC区 出土縄文土器 (番号は実測図に同じ)



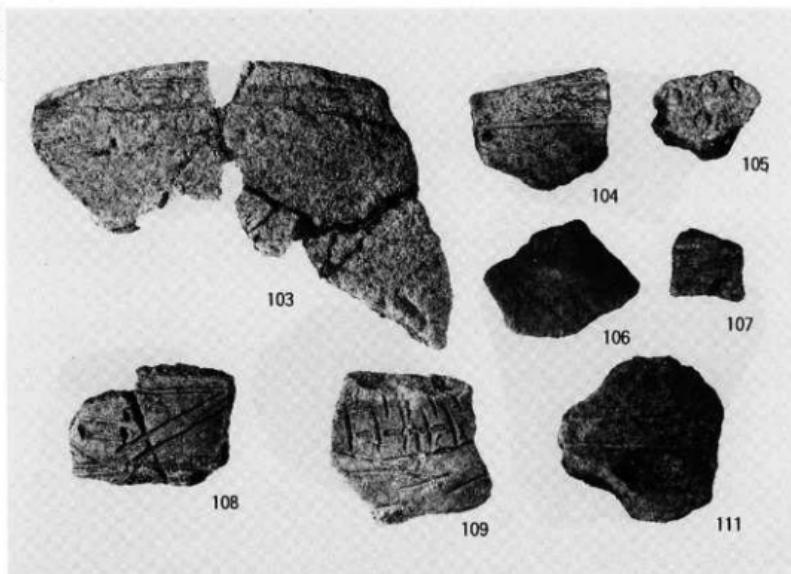
(2) ID区 出土縄文土器



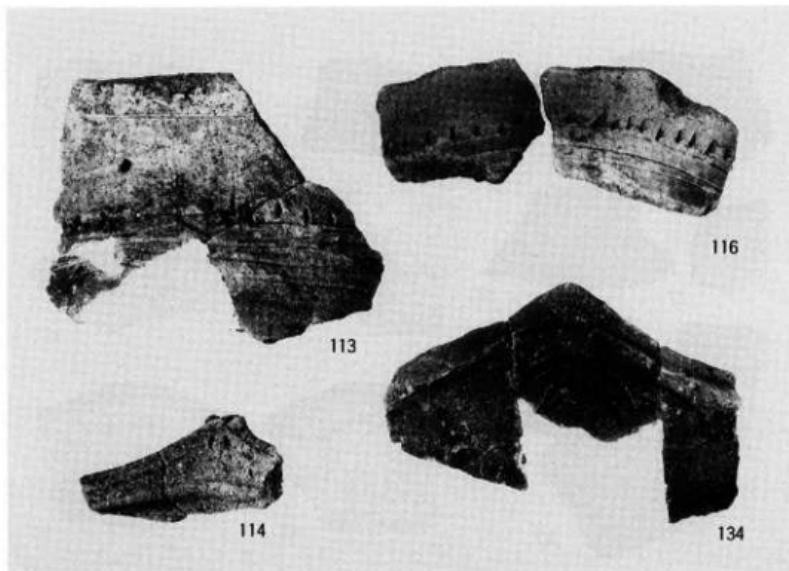
(1) I E区 出土縄文土器 (76は I 区出土)



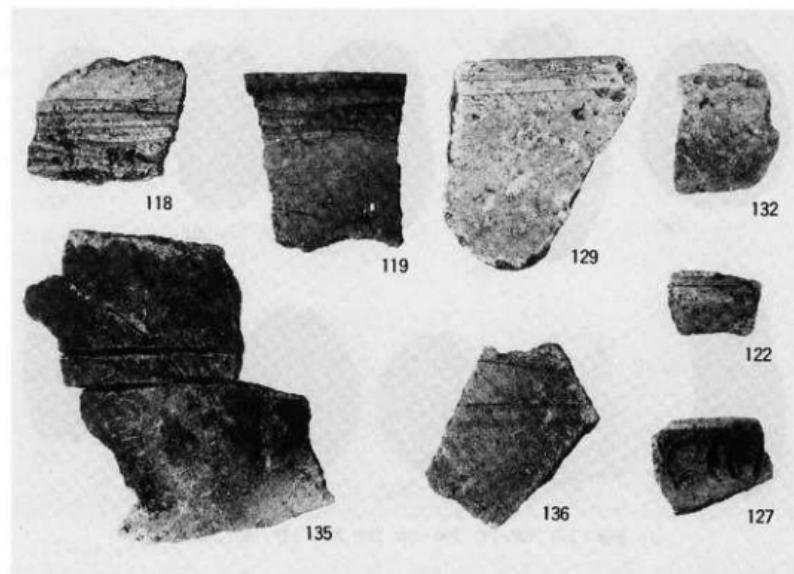
(2) II C区 出土縄文土器



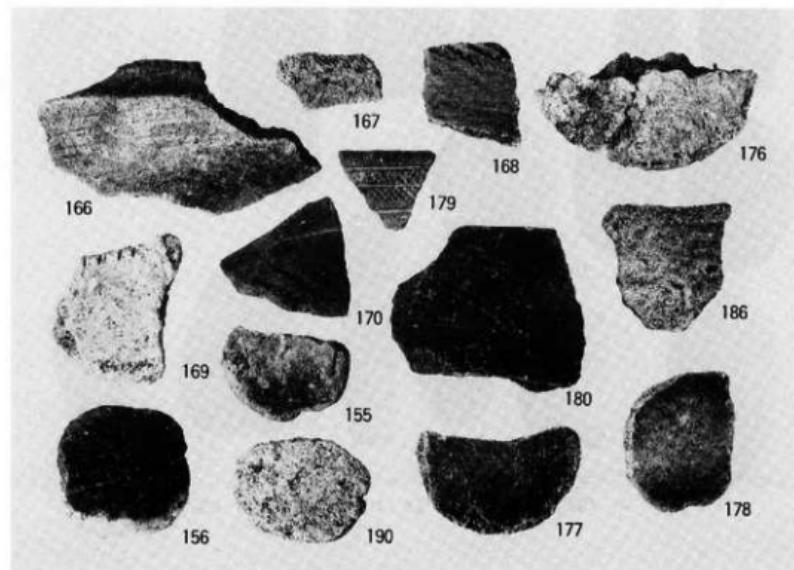
(1) II D区 出土縄文土器



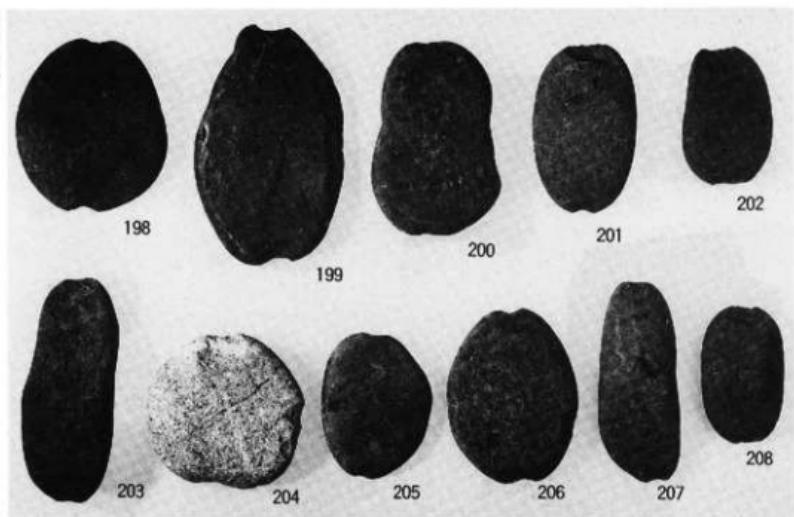
(2) II E区 出土縄文土器



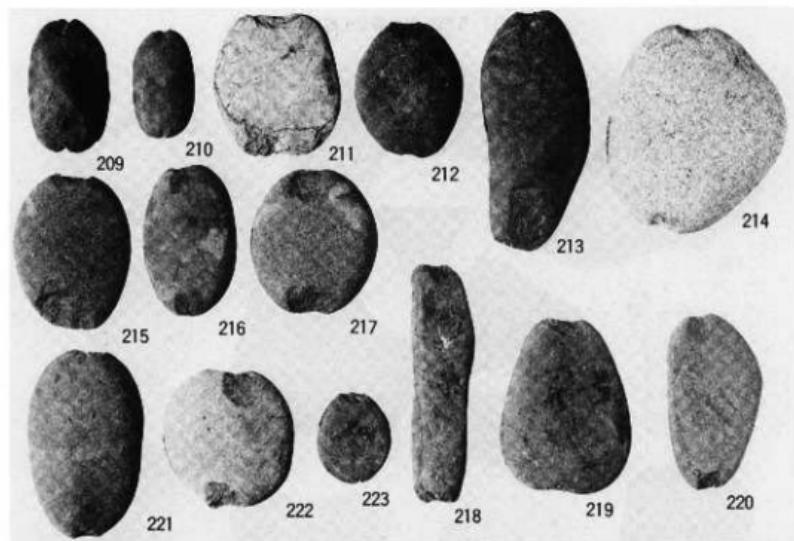
(1) III E 区 出土縄文土器



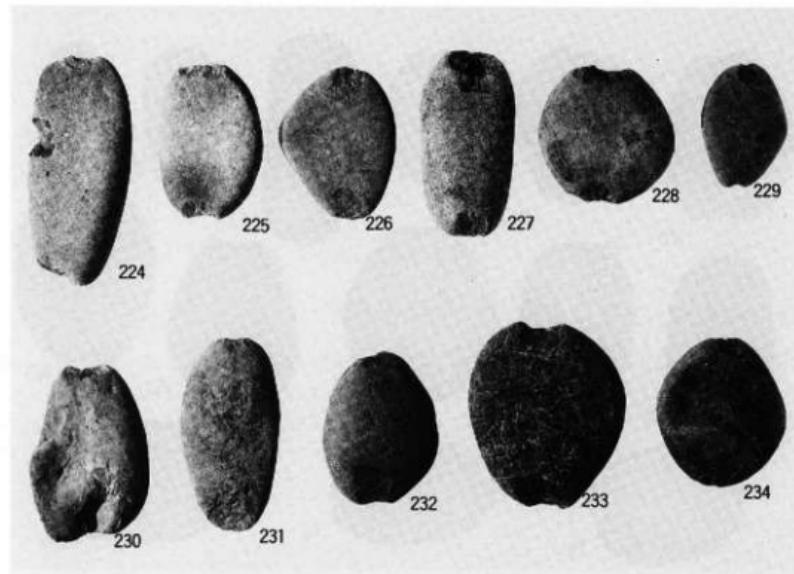
(2) II E・II F・II H・II I 区 出土縄文土器
(II E : 155・156 II F : 166～170・176～178 II H : 179 II I : 186・190)



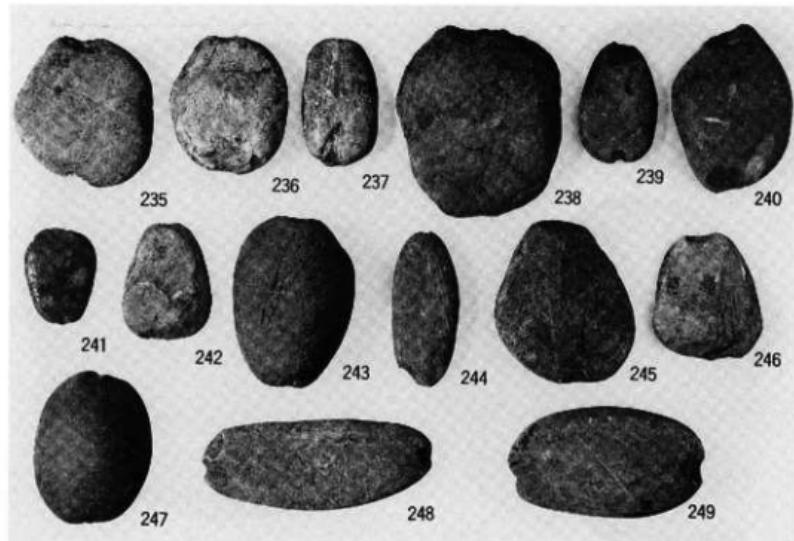
(1) 石錘 (I A : 198, I C : 200~202, 204, 206, I D : 207, 208)



(2) 石錘 (I D : 209, 210 I E : 211~213 II C : 214~220)

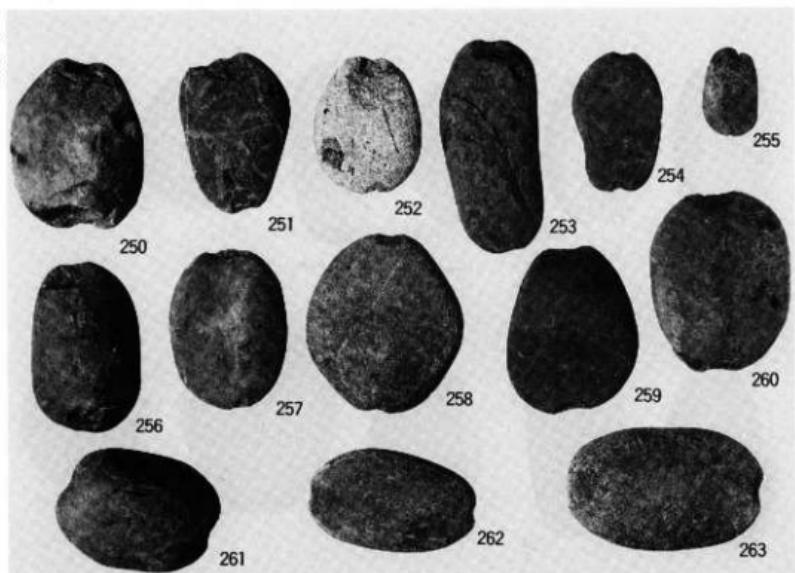


(1) 石錘 (II D : 224, II E : 226, 229~232, II F : 233, 234)

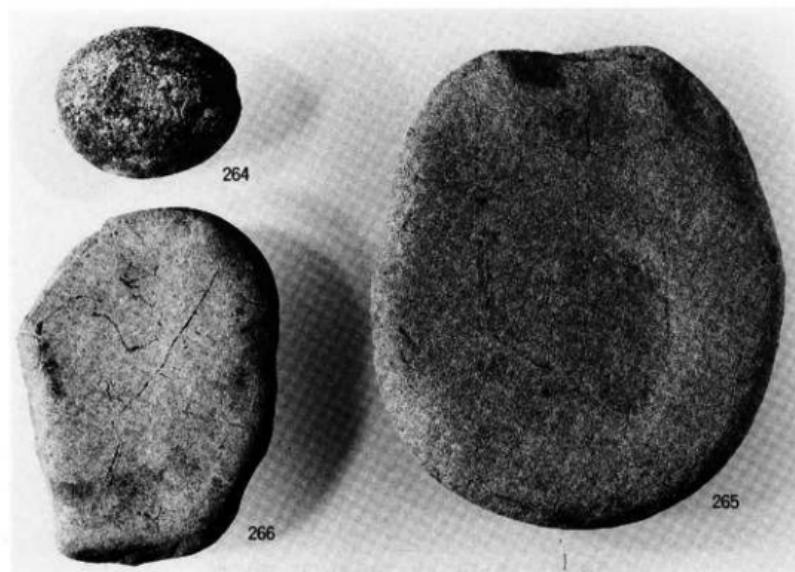


(2) 石錘 (II F : 235~237, II H : 238~243, III I : 244~249)

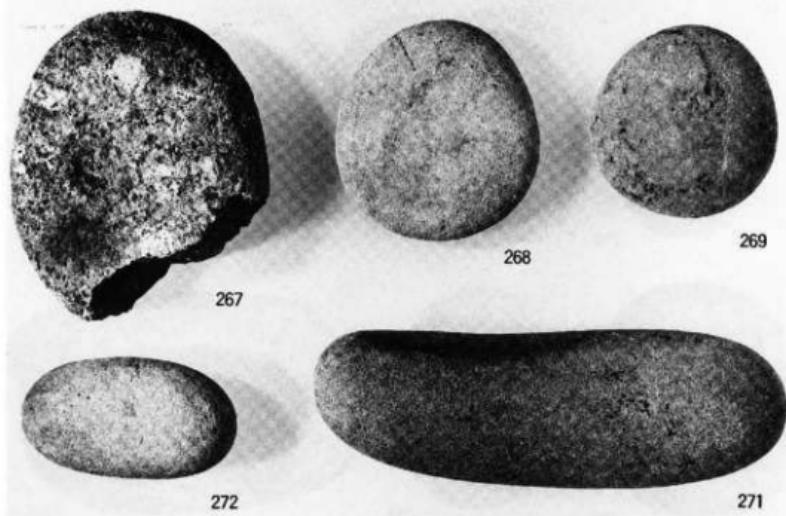
図版
18



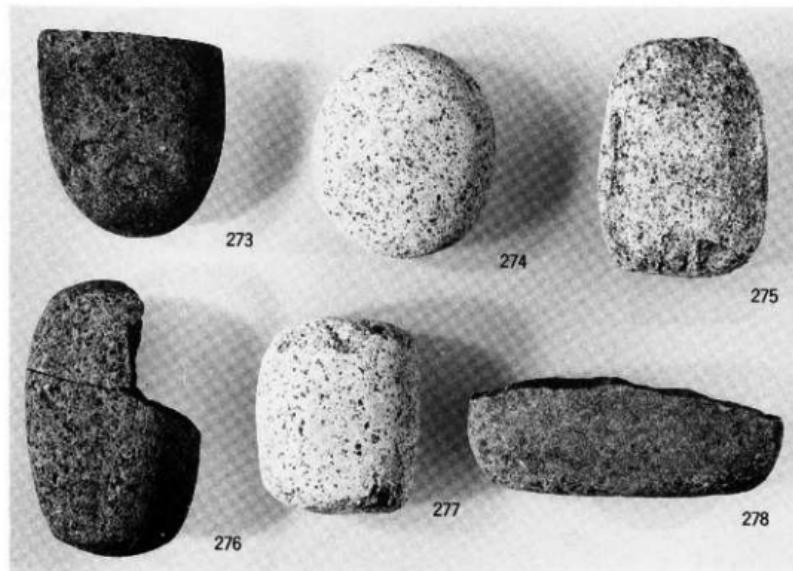
(1) 石錘 (II区 : 250, I D区満 : 262)



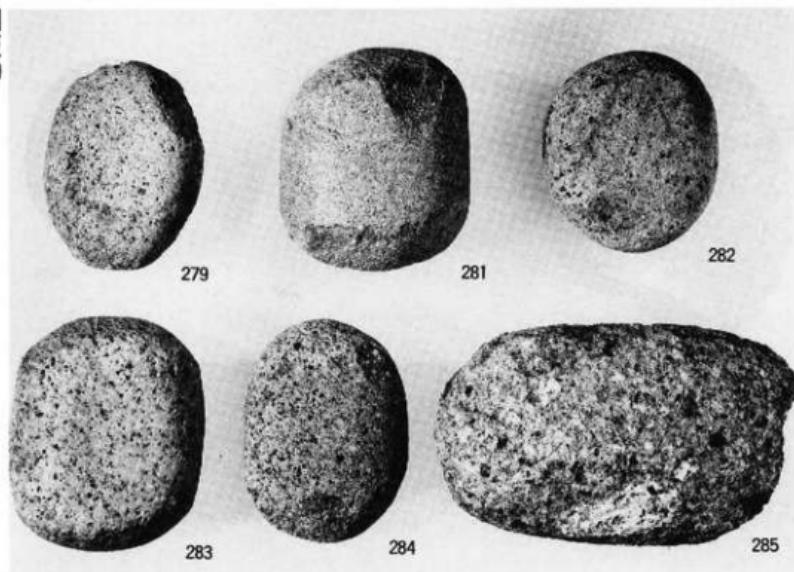
(2) 磨石・石皿 (II C : 264, II D : 265, II E : 266)



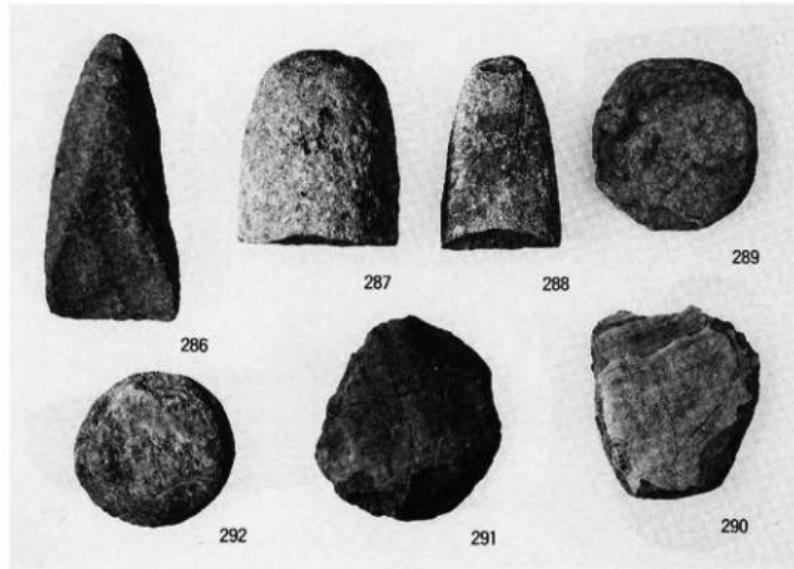
(1) 磨石・凹石 (II C : 268, 269, 272, II E : 267, 270, 271)



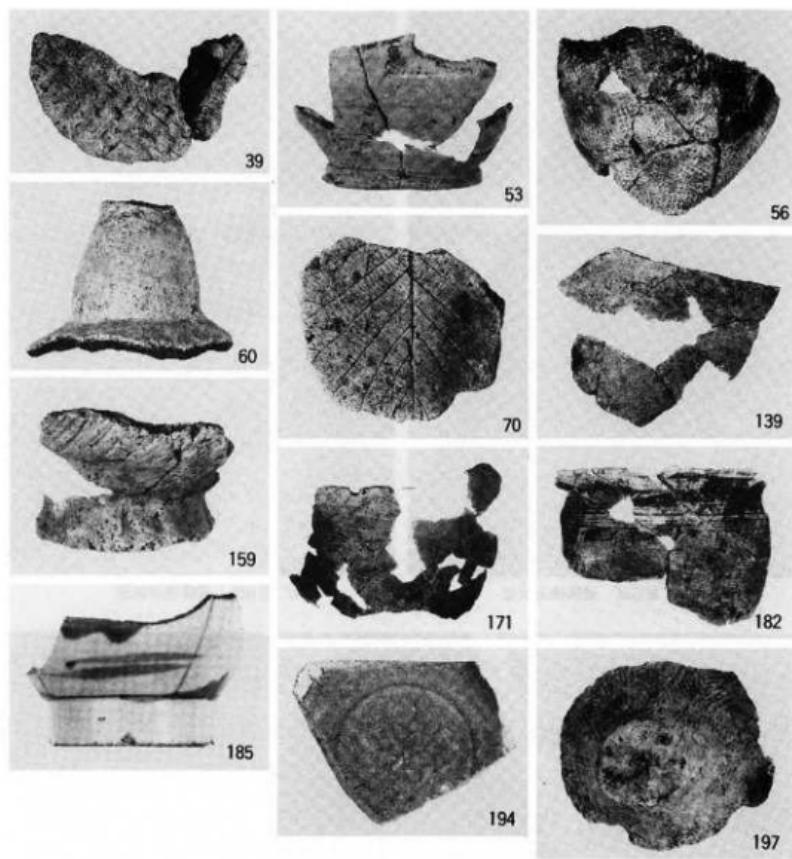
(2) 磨石・叩石 (I D : 275, II D : 277, II E : 273, 274, 278)



(1) 磨石 (II E 区 出土)



(2) 磨製石斧・円盤状石製品・スクレイパー (I C : 289 II E : 286, 287, 290, 292, III C : 288)



縄文土器・土師器・陶磁器

I C : 39 I D : 53 I E : 56, 60 I 区 : 70

II E : 139, 159 II F : 171 II H : 182, 185

表採 : 194, 197



(1) III A区 遺構検出状況



(2) III B区 遺構検出状況



(3) III B区 遺物検出状況



(1) III C区 遺構検出状況



(2) III D区 遺構検出状況



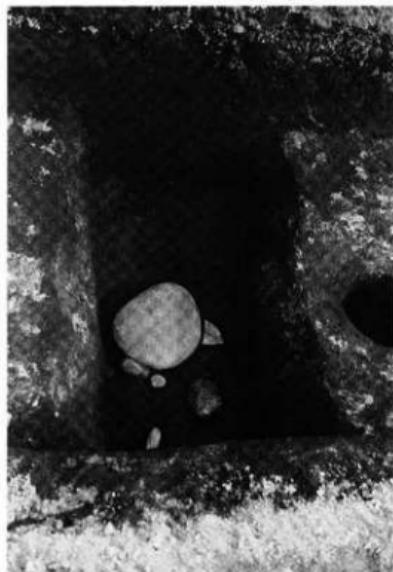
(3) III E区 遺構検出状況



(1) III F区 遺構検出状況



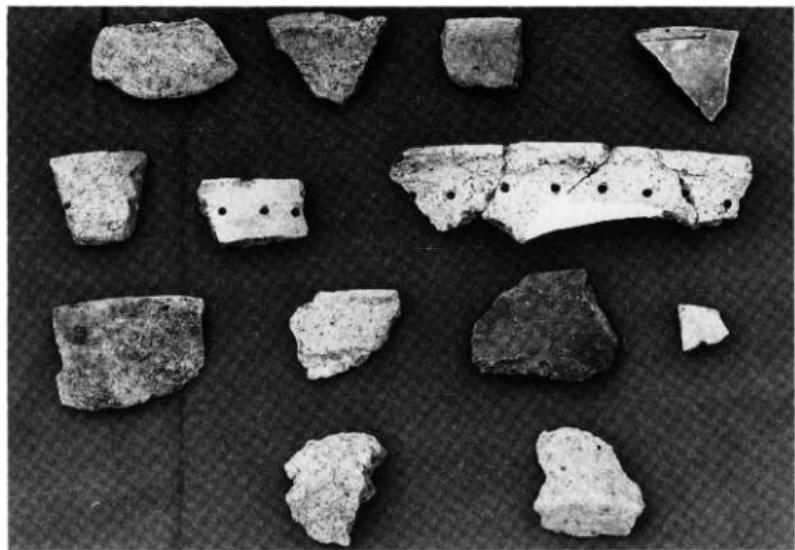
(2) III G区 遺構検出状況



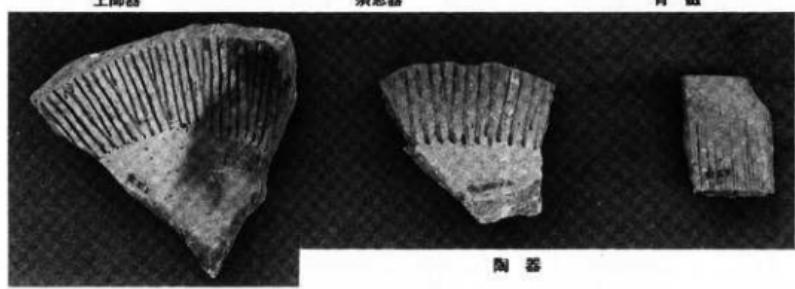
(3) III H区 溝状遺構検出状況

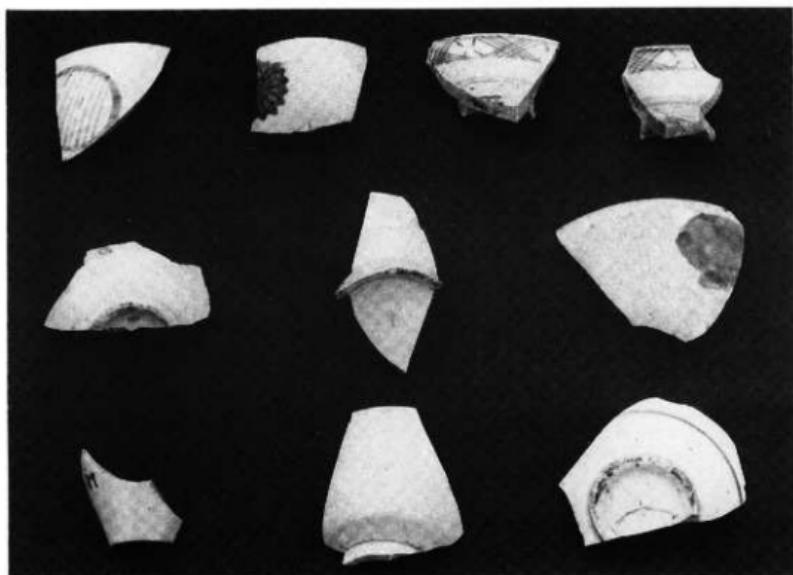


(4) III H区 遺構検出状況

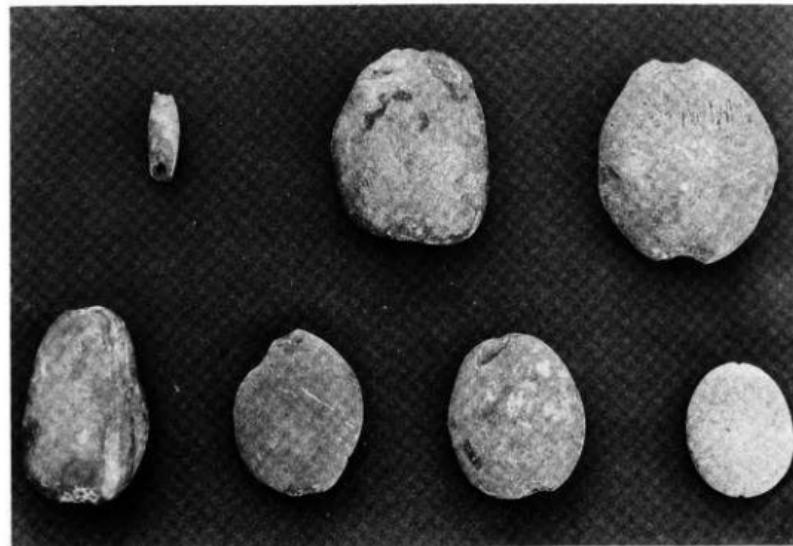


縄文土器

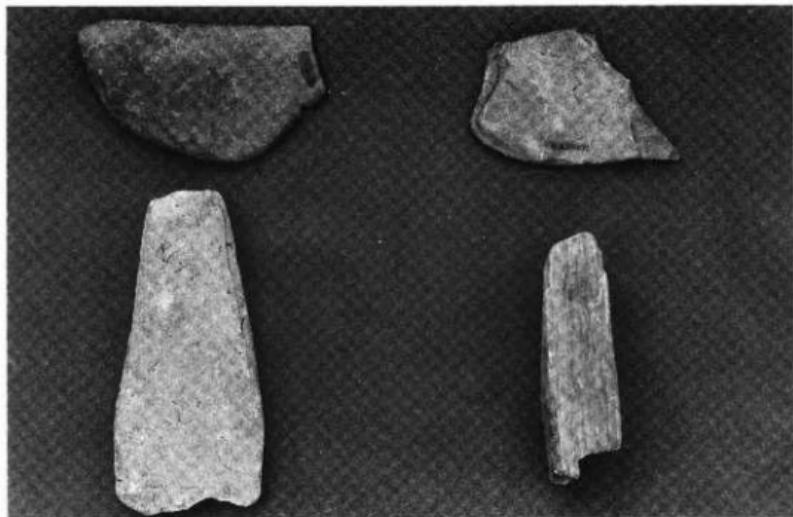




染付



土鍤・石鍤



スクレイパー・石斧・砥石



砥石様石器



石皿



敲石

西都市埋蔵文化財発掘調査報告書 第20集

宝財原遺跡

平成6年3月発行

編集発行 西都市教育委員会

印刷所 なかむら印刷所

